

平安京左京一条三坊十一町跡・旧二条城跡

2024年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京一条三坊十一町跡・旧二条城跡

2024年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、（仮称）京都御所西計画に伴う平安京跡・旧二条城跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

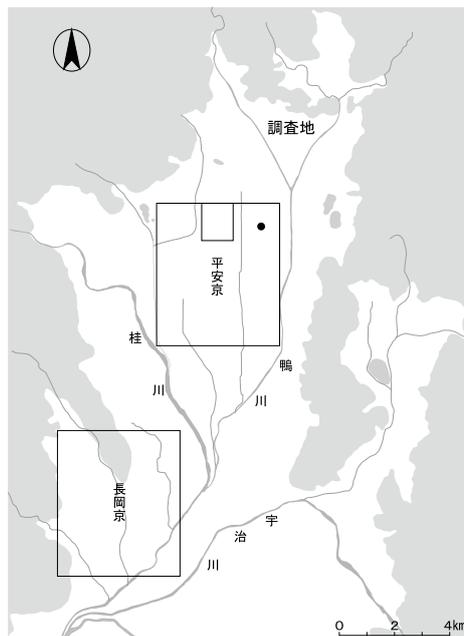
令和6年2月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京跡・旧二条城跡（京都市番号 22 H 369）
- 2 調査所在地 京都市上京区烏丸通出水下る桜鶴岡町380番2、勘解由小路町163番1
- 3 委 託 者 住友商事株式会社 住宅・都市事業部長 小野慎太郎
新都市企画株式会社 取締役執行役員 近畿圏事業部長 森本拓治
- 4 調査期間 2023年3月27日～2023年6月30日
- 5 調査面積 282㎡
- 6 調査担当者 渡邊都季哉
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「聚楽廻」・「御所」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 1区は1から、2区は1001から通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。ただし、建物・礎石列は別に番号を付した
- 12 遺物番号 種類ごとに通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 渡邊都季哉
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。

（調査地点図）



目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	1
2. 位置と環境	4
(1) 歴史的環境と立地	4
(2) 既往の調査	4
3. 遺 構	9
(1) 基本層序	9
(2) 1区の遺構	10
(3) 2区の遺構	13
4. 遺 物	15
(1) 遺物の概要	15
(2) 土器類・土製品	16
(3) 瓦類	20
(4) 石製品	20
(5) 金属製品	20
5. ま と め	22

図 版 目 次

図版1	遺構	1区第4面平面図 (1:150)
図版2	遺構	1区第3-b面平面図 (1:150)
図版3	遺構	1区第3-a面平面図 (1:150)
図版4	遺構	1区第2面平面図 (1:150)
図版5	遺構	1区第1面平面図 (1:150)
図版6	遺構	1区南壁断面図1 (1:80)
図版7	遺構	1区南壁断面図2 (土層名)
図版8	遺構	1区東壁・西壁断面図 (1:80)
図版9	遺構	井戸240実測図 (1:40)

- 図版10 遺構 礎石列2、建物1実測図（1：50）
- 図版11 遺構 柱穴120、土坑167・185、礎石列1実測図（1：50）
- 図版12 遺構 2区第3面平面図（1：100）
- 図版13 遺構 2区第2面平面図（1：100）
- 図版14 遺構 2区第1面平面図（1：100）
- 図版15 遺構 2区東壁断面図（1：80）
- 図版16 遺構 2区北壁断面図（1：80）
- 図版17 遺構 土坑1011・1029、埋甕1002、礎石列3実測図（1：50）
- 図版18 遺構 石室1001、炉1049実測図（1：40）
- 図版19 遺物 土坑268・274、溝1148・171・153出土土器実測図（1：4）
- 図版20 遺物 土坑1052・138・1071・1011、堀243、井戸196出土土器・土製品実測図（1：4）
- 図版21 遺物 井戸240出土土器実測図（1：4、91・92は1：8）
- 図版22 遺物 土坑167・185・1029出土土器実測図（1：4）
- 図版23 遺物 井戸174、埋甕1002、その他の遺構出土土器・土製品実測図（1：4、160は1：8）
- 図版24 遺物 出土瓦拓影及び実測図（1：4）
- 図版25 遺構 1 1区第4面全景（西から）
2 溝153・171（北から）
- 図版26 遺構 1 1区第3面全景（西から）
2 井戸240（北西から）
3 土坑138（南から）
- 図版27 遺構 1 堀243（東から）
2 井戸196（北から）
- 図版28 遺構 1 1区第2面全景（西から）
2 土坑185（南から）
- 図版29 遺構 1 建物1（北から）
2 礎石列2（北から）
3 柱穴120（北から）
- 図版30 遺構 1 1区第1面全景（西から）
2 礎石列1、整地層77（北から）
- 図版31 遺構 1 2区第3面全景（北から）
2 溝1148（西から）
- 図版32 遺構 1 2区第2面全景（北から）
2 2区第1面全景（北から）
- 図版33 遺構 1 土坑1011（西から）
2 土坑1029（北から）

	3	礎石列3 (北から)
	4	埋甕1002 (西から)
図版34 遺構	1	石室1001 (西から)
	2	炉1049 (南西から)
図版35 遺物		土器類1
図版36 遺物		土器類2
図版37 遺物		土器類3
図版38 遺物		土器類4
図版39 遺物		瓦類・石製品・金属製品

挿 図 目 次

図1	調査位置図 (1 : 5,000)	1
図2	調査区配置図 (1 : 500)	2
図3	1区調査前全景 (北東から)	2
図4	2区調査前全景 (南から)	2
図5	2区作業状況 (南西から)	2
図6	地元向け説明会風景 (東から)	2
図7	周辺調査位置図 (1 : 4,000)	5
図8	基本層序柱状模式図 (1 : 40)	9
図9	溝171・153断面図 (1 : 50)	10
図10	土坑138断面図 (1 : 50)	10
図11	堀243断面図 (1 : 50)	11
図12	井戸196実測図 (1 : 40)	11
図13	礎石列4・5、土坑1071断面図 (1 : 50)	13
図14	製塩土器	19
図15	石製品実測図 (1 : 4)	20
図16	金属製品実測図 (1 : 4)	20
図17	銭貨拓影 (1 : 2)	20
図18	遺構変遷図1 (1 : 800)	23
図19	遺構変遷図2 (1 : 800)	24
図20	旧二条城堀跡復元図 (1 : 2,000)	25

表 目 次

表1	周辺調査一覧表	6
表2	遺構概要表	9
表3	遺物概要表	15
表4	土坑1052出土土師器皿の口径分布表	17

付 表 目 次

付表1	土器観察表	28
付表2	瓦観察表	33
付表3	石製品観察表	34
付表4	金属製品観察表	34

平安京左京一条三坊十一町跡・旧二条城跡

1. 調査経過

(1) 調査に至る経緯

本調査は、京都市上京区烏丸通出水下る桜鶴円町の（仮称）京都御所西計画に伴う発掘調査である。調査地は平安京左京一条三坊十一町跡及び旧二条城跡にあたる。

調査に先立って実施された京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）の試掘調査の結果、近世以前の整地層、遺構・遺物が確認され、発掘調査を行うこととなった。調査は、文化財保護課の指導の下、事業の原因者から委託を受けた公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が実施した。

(2) 調査の経過

調査は、文化財保護課の指導により、調査区を2箇所に分けて行った。調査面積は1区が174㎡、2区が108㎡で、総面積は282㎡である。



図1 調査位置図（1：5,000）

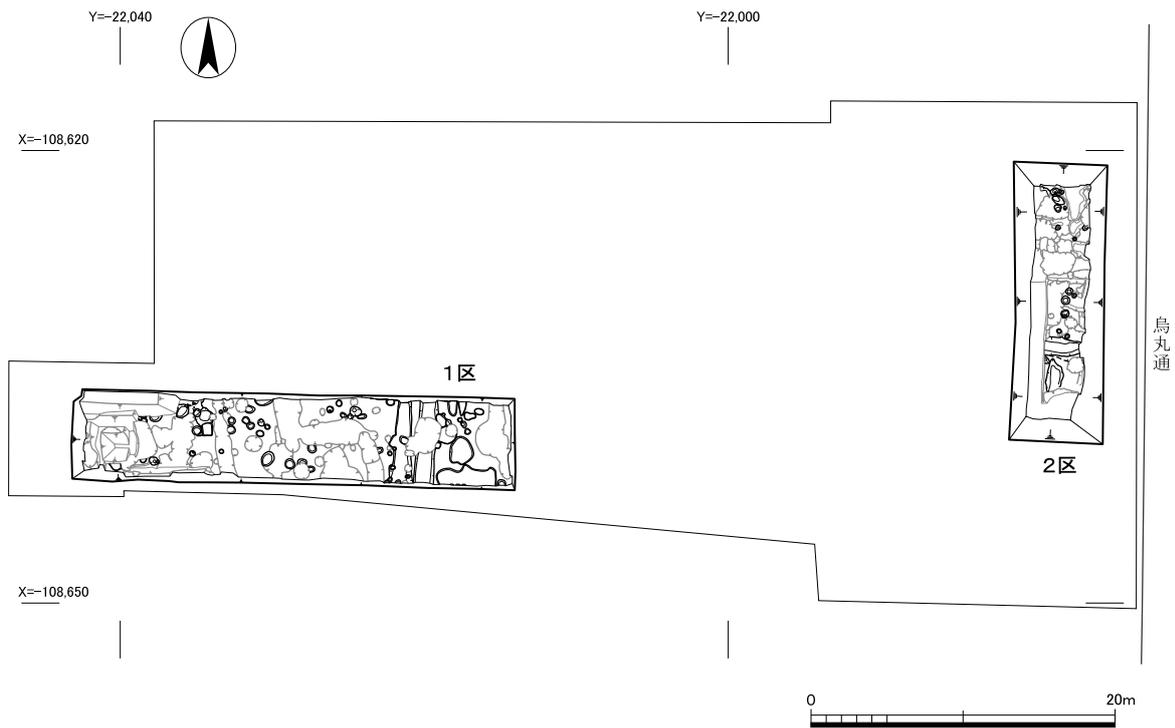


図2 調査区配置図 (1 : 500)



図3 1区調査前全景 (北東から)



図4 2区調査前全景 (南から)



図5 2区作業状況 (南西から)



図6 地元向け説明会風景 (東から)

調査は3月下旬1区から開始し、5月中旬から2区の調査も並行して行った。重機を用いて近現代盛土を除去した後、1区は江戸時代前期整地層1の上面、2区は安土桃山～江戸時代前期整地層の上面から人力での遺構の検出、掘り下げを行った。

調査の結果、1区では、江戸時代の礎石・土坑・井戸、安土桃山時代の旧二条城跡の堀、室町時代の土坑・井戸、平安時代の溝などを検出した。2区では、江戸時代の埋甕遺構・石室・土坑・礎石、室町時代の土坑・礎石、平安時代の溝などを検出した。検出した遺構については、平面図及び土層断面図の作成、写真撮影などの記録作業を行った。なお、一部の遺構については、外部業者に写真測量を委託した。調査後は重機により埋め戻しを行った。調査期間は令和5年3月27日から6月30日である。

調査中は適宜、文化財保護課の指導及び、検証委員の同志社大学歴史資料館准教授浜中邦弘氏の検査・指導を受けた。また、調査期間中の6月17日に地元住民向けの現地説明会を行った。

調査中及び報告書作成にあたり、鋤柄俊夫氏、平尾政幸氏から御指導・御教示を賜りました。記して感謝申し上げます。

2. 位置と環境

(1) 歴史的環境と立地

調査地は、京都御苑西側に位置する。平安京条坊では左京一条三坊十一町跡に相当し、北を近衛大路、東を烏丸小路、南を勘解由小路、西を室町小路で区画される。

平安時代中期には、藤原仲平の邸宅である枇杷第があったとされるが、誤伝の可能性が指摘されている¹⁾。また、平安時代後期には、藤原忠通の勘解由小路烏丸第があったとされる²⁾。

室町時代前期、幕府管領の斯波義将が調査地南方に邸宅を構えた。斯波氏当主が兵衛官に任じられており、兵衛官の唐名が武衛であることから、斯波氏の邸宅は「武衛陣」と称されるようになり、現在でも「武衛陣」の地名が残る。武衛陣は応仁・文明の乱の戦地の一つとなり³⁾、文明7年(1475)頃に廃絶したといわれている。

幕府第13代将軍足利義輝が調査地一帯を御所とし、当地は「二条御所」と称される。しかし、永禄8年(1565)、松永久通や三好三人衆が二条御所を攻撃したことによって義輝は討死し、二条御所は荒廃した。

永禄12年(1569)、織田信長が足利義昭を奉じて上洛し、当地に将軍の御所(旧二条城)を造営した。その後、信長は義昭と対立し、上京の焼き討ちや義昭の追放を経て、天正4年(1576)、旧二条城を破却した。

江戸時代になると、当地は町屋となった。同町内には銀座年寄である中村内蔵助の邸宅があり、元禄年間に幕府から豪華な生活を咎められた⁴⁾。

(2) 既往の調査(図7、表1)

調査地周辺は、大規模な発掘調査の数は少ないものの、立会・詳細分布調査は多く行われている。以下では、調査地を含む平安京左京一条三坊十一町跡内の調査及び、旧二条城跡の主要な調査成果について記述する。

平安時代

左京一条三坊十一町内の調査で検出された平安時代の遺構は少ない。調査43で10世紀後半から11世紀初頭の東西方向の溝を検出している。

室町時代

調査43で室町時代の土坑などを検出している。調査55では土坑・井戸・石室を検出した。

安土桃山時代

調査1～4・8・9・34・53・54・56・62・66で、旧二条城の堀が検出され、その成果から旧二条城は、三重の堀で囲まれた方形プランの城郭であったと考えられている。また、調査56では、足利義昭が織田信長と対峙した際に新たに設けた堀や、足利義輝が二条御所として使用していた時代の堀と推定されている遺構も検出している。

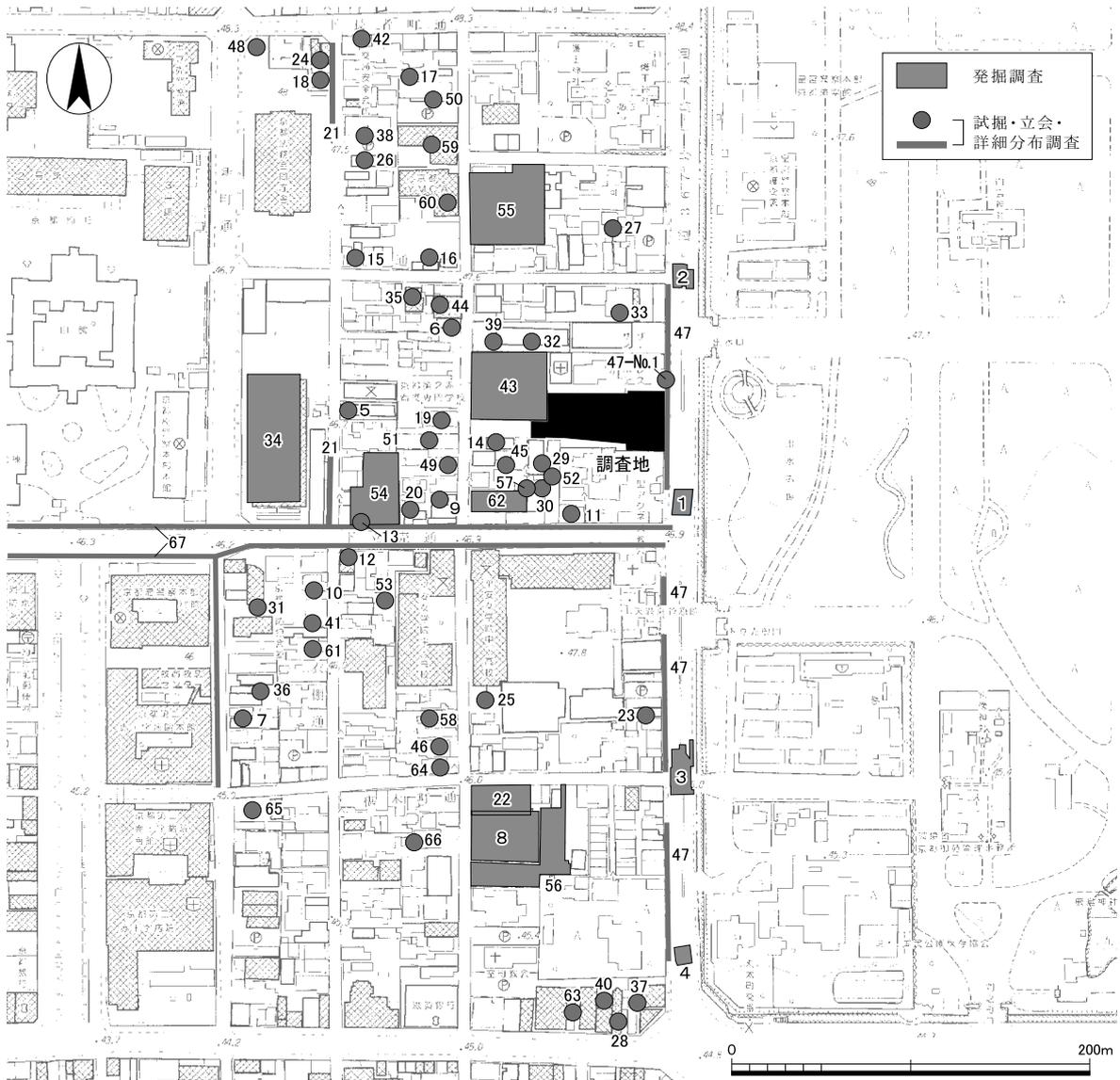


図7 周辺調査位置図 (1 : 4,000)

江戸時代

調査8・43・56では江戸時代の石室や井戸、礎石などを、また、調査43では鋳造遺構を検出している。調査62では江戸時代前期の礎石建物や江戸時代中期の井戸を検出している。また、立会調査47のNo.1地点は、今回の調査地2区北端に隣接した場所であり、江戸時代後期の水琴窟を検出している。

表1 周辺調査一覧表

No.	調査方法	内 容	文 献
1	発掘	東西方向の石垣と犬走を伴う堀を検出。石垣に転用された石造物が多数出土した。	「X-1」『京都市高速鉄道烏丸線内 遺跡調査年報Ⅱ』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1980年
2	発掘	室町時代末期の素掘りの堀を桃山時代前半に造り替え、石垣・暗渠を築いている。	「X-2」『京都市高速鉄道烏丸線内 遺跡調査年報Ⅱ』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1980年
3	発掘	東西方向の石垣と犬走を伴う堀を検出。東側で北肩が狭まる。	「X-6」『京都市高速鉄道烏丸線内 遺跡調査年報Ⅲ』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1981年
4	発掘	東西方向の石垣を伴う堀を検出。石垣は南面する北肩のみ確認。	「X-7」『京都市高速鉄道烏丸線内 遺跡調査年報Ⅲ』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1981年
5	試掘	Aトレンチ:ほとんどが近世堆積層。B・Cトレンチ:近世層の下に平安時代の遺物包含層。遺構は検出されず。Dトレンチ:包含層・遺構面とも残存状況良好。盛土下のGL-0.8m以下暗黄色灰色泥砂で近世の遺物、-1.2m以下暗茶灰色砂泥で平安時代の遺物。	「平安京跡 左京一条三坊跡試掘調査(No.233)」『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 国庫補助による試掘・立会調査報告 昭和54年度』京都市文化観光局文化財保護課 1980年
6	立会	GL-1.2mで近世の遺物包含層。-1.6mで近世初頭の灰色泥土と井戸。-1.8mで暗茶褐色泥土。-1.9mで室町時代の遺物を含む暗灰色泥土。-2.2mで鎌倉時代の遺物包含層。-2.7mで平安時代後期の遺物包含層。-2.9mで茶灰色の砂礫層。	「左京一条三坊跡立会調査(No.267)」『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 国庫補助による試掘・立会調査報告 昭和54年度』京都市文化観光局文化財保護課 1980年
7	立会	GL-0.8mで江戸時代の東西方向の石垣を検出。	『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 昭和55年度』京都市埋蔵文化財センター 1981年
8	発掘	東西方向の素掘りの堀を検出。堀は東側で南に曲がる。	「16 平安京左京二条三坊九町」『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
9	立会	GL-0.35m近現代層。-1.7mまで江戸時代の灰色泥砂層。	『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 昭和55年度』京都市埋蔵文化財センター 1981年
10	立会	GL-0.65mで暗黄褐色泥砂層。-1.1mで暗茶褐色泥砂層。	『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 昭和55年度』京都市埋蔵文化財センター 1981年
11	立会	掘削深度は近現代層内に留まる。	『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 昭和55年度』京都市埋蔵文化財センター 1981年
12	立会	GL-1.3mで鎌倉時代の遺物包含層。別地点GL-1.4mで室町時代の土坑8基。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和57年度』京都市文化観光局 1983年
13	立会	GL-1.3mで鎌倉～室町時代の遺物包含層と土坑。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和57年度』京都市文化観光局 1983年
14	立会	GL-0.6mで江戸時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年
15	立会	GL-0.1mで江戸時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年
16	立会	GL-0.7mで江戸時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年
17	立会	GL-1.15mで室町時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年
18	立会	GL-0.8mで江戸時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年
19	立会	GL-0.65mで時期不明の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和61年度』京都市文化観光局 1987年
20	立会	GL-1.04mで江戸時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和61年度』京都市文化観光局 1987年
21	立会	GL-0.15mで時期不明の路面。-1.25mで室町時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和61年度』京都市文化観光局 1987年
22	発掘	桃山時代を中心とする井戸・土坑・掘立柱建物などを多数検出。室町時代後半の池状遺構、平安時代前・中期の中御門大路の路面などを検出。	「8 平安京左京二条三坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1991年
23	立会	GL-0.6mで室町時代の遺物包含層。-1.08mで平安時代後期の土坑。	『京都市埋蔵文化財調査概要 昭和62年度』京都市文化観光局 1988年
24	立会	GL-1.65mで室町時代の土坑。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和62年度』京都市文化観光局 1988年
25	立会	盛土のみ確認。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和62年度』京都市文化観光局 1988年
26	立会	GL-1.45mで江戸時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和62年度』京都市文化観光局 1988年
27	立会	盛土のみ確認。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和62年度』京都市文化観光局 1988年
28	立会	GL-0.3mで江戸時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 昭和63年度』京都市文化観光局 1989年
29	立会	検出なし。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 平成元年度』京都市文化観光局 1990年
30	立会	検出なし。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 平成元年度』京都市文化観光局 1990年
31	立会	GL-0.4mで室町～江戸時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概要 平成元年度』京都市文化観光局 1990年

No.	調査方法	内 容	文 献
32	立会	GL-1.58mで江戸時代の整地層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』京都市文化観光局 1990年
33	立会	盛土のみ確認。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』京都市文化観光局 1990年
34	発掘	南北方向の素掘りの堀を検出。堀は北側で屈曲する。	「4. 平安京跡旧二条城跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第59冊』京都府教育委員会 1994年
35	立会	GL-1.55mで室町～江戸時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成5年度』京都市文化観光局 1994年
36	立会	GL-1.49mで遺物包含層。土師器、灰釉陶器出土。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年
37	立会	GL-0.4mで遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成7年度』京都市文化市民局 1996年
38	立会	GL-1.0mで室町時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成7年度』京都市文化市民局 1996年
39	立会	No.1:GL-1.5mで室町時代の遺物包含層。 No.2:GL-1.7mで15～17世紀の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』京都市文化市民局 1997年
40	立会	GL-1.1mで鎌倉時代の遺物包含層。-1.3mで橙色砂泥の基盤層。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度』京都市文化市民局 1999年
41	立会	GL-1.32mで近世の土師器包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度』京都市文化市民局 2000年
42	立会	GL-0.6mで江戸時代末期の瓦溜。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成13年度』京都市文化市民局 2002年
43	発掘	今回調査地近接地での調査。平安時代の溝、安土桃山時代の堀跡、江戸時代の溝、井戸を検出。	『平安京左京一条三坊十一町跡 発掘調査終了報告』古代文化調査会 2001年
44	立会	GL-1.25mで江戸時代中期の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成14年度』京都市文化市民局 2003年
45	立会	GL-0.6mで近世の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年
46	立会	GL-0.93mで江戸時代後期土師器包含層をを切って、江戸時代以降の落込。	『京都市内遺跡立会調査報告 平成17年度』京都市文化市民局 2006年
47	立会	No.1地点:GL-0.3mで焼土を含む砂泥層。-0.8mで江戸時代後期の丹波焼甕を用いた水琴窟。	『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
48	立会	GL-0.1mで江戸時代末期の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
49	立会	No.1:GL-1.12mで近世以降の遺物包含層。 No.2:GL-1.8mで室町時代の土坑。	『京都市内遺跡立会調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年
50	立会	GL-0.75mで近世以降の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年
51	立会	GL-0.44mで近世の遺物包含層。-0.6mで東西方向の石組遺構。	『京都市内遺跡立会調査報告 平成20年度』京都市文化市民局 2009年
52	詳細分布	GL-1.12mで江戸時代後期の遺物包含層。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成21年度』京都市文化市民局 2010年
53	詳細分布	No.1:GL-0.6mで近世以降の土坑。-1.56mで時期不明の遺物包含層。 No.2:GL-1.0mで室町時代後期の遺物包含層。-1.4mで平安時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年
54	発掘	平安時代の井戸、旧二条城の南北方向の堀、江戸時代の井戸などを検出。	『平安京左京一条三坊六町跡・旧二条城跡』古代文化調査会 2012年
55	発掘	弥生～古墳時代の流路、平安時代の溝、土坑、室町時代の土坑、江戸時代の石室、井戸を検出。	『平安京左京一条三坊十町跡・旧二条城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-13 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年
56	発掘	平安時代の土坑、江戸時代の石室などを検出。足利義輝期の二条御所の堀や足利義昭が織田信長と対立した際に掘ったと考えられる堀を検出。	『平安京左京二条三坊九町跡・旧二条城跡・烏丸丸太町遺跡一大門町の調査』古代文化調査会 2016年
57	詳細分布	GL-1.58mまで盛土のみ。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度』京都市文化市民局 2017年
58	詳細分布	GL-0.48mで近世の遺物包含層。-0.83mで黄褐色粘質シルトの時期不明整地層。-1.05mで暗褐色シルト混砂礫。-1.17mでオリブ褐色砂礫。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成30年度』京都市文化市民局 2019年
59	試掘	GL-1.9mまで近世から近代堆積層を確認。検出遺構は江戸時代以降。	『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』京都市文化市民局 2019年
60	詳細分布	GL-0.85mでにぶい黄褐色泥砂(炭化物多量含む)。-1.53mで黄褐色シルトの近世の遺物包含層。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和元年度』京都市文化市民局 2020年
61	詳細分布	GL-0.7mまで盛土。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和元年度』京都市文化市民局 2020年
62	発掘	江戸時代の井戸、礎石建物を検出。調査区全体が旧二条城の東西方向の堀の中であることを確認。	「1. 平安京左京一条三坊十一町跡・旧二条城跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 令和2年度』京都市文化市民局 2021年
63	詳細分布	No.1:GL-1.66mで時期不明包含層を切って景石、-1.73mで室町包含層。 No.2:GL-1.85mでにぶい黄褐色シルトの地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和2年度』京都市文化市民局 2021年

No.	調査方法	内 容	文 献
64	詳細分布	GL-1.15mまで盛土。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和3年度』京都市文化市民局 2022年
65	詳細分布	No.1:GL-1.64mで中御門大路路面。-1.83mで基盤層。 No.2:GL-1.05mで中世の遺物包含層。-1.43mで路面。-1.8mで基盤層。 No.3:GL-0.8mで時期不明の整地層。-1.25mで平安時代後期の遺物包含層。-1.43mで基盤層。 No.4:GL-0.83mで近世の遺物包含層。-1.02mで整地層。	「Ⅲ-1 平安京左京二条三坊八町跡, 旧二条城跡 (21H109)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和3年度』京都市文化市民局 2022年
66	詳細分布	GL-2.7mで旧二条城の中堀南肩と基盤層。	「Ⅲ-2 平安京左京二条三坊八町跡, 旧二条城跡, 烏丸丸太町遺跡 (20H336)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和3年度』京都市文化市民局 2022年
67	詳細分布	No.19:GL-1.0mで明黄褐色シルト、-1.15~1.3mで黒褐色泥砂の遺物包含層。No.32:GL-0.95mでにぶい黄褐色泥砂、-1.22mで褐灰色粗砂の鎌倉時代の遺物包含層、-1.35~1.55mで褐色細砂。No.35:GL-0.9~1.05mで褐灰色砂泥の遺物包含層。No.36:GL-0.9mでオリーブ黄色泥砂の時期不明の路面、-0.95~1.05mで灰黄褐色砂泥。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和4年度』京都市文化市民局 2023年

註

- 1) 栗原 弘「平安初期～中期枇杷第における居住形態について」『文化史学 44号』文化史学会 1988年
- 2) 『兵範記』仁平2年(1152)三月十六日条
「天晴、今日三位少将殿、被申御慶賀於所々、早旦関白殿、令下自内御直盧給、勘解由小路烏丸御宿所…」
- 3) 『後法興院記』応仁元年(1467)六月二十五日条
「未己、未刻許自細川推寄武衛許焼拂處々、勝負未決也、行治、親康、行量、以高、能圓以下宿所焼失、入夜参北御所、家門武衛近々之間為用心也」、七月三日条「寅丙、及晩雨灑、處々焼亡、三福寺烧了、武衛令放火云々、珍事也、山科少将言國宿所烧了、御經藏烧失了、時刻到來、可歎々々」、十六日条「卯己 月蝕也、不正現歟、雨降及晩止、武衛邊昨日有合戦云々」、二十四日条「亥丁 昨日武衛邊有大合戦云々、昨日之焼亡相模守宿所云々、自細川推寄令放火云々」、二十六日条「丑己 申刻許雷雨、参殿御方、次令巡見法華堂殊勝異他在所、不能左右々々々々、昨今武衛邊有大合戦云々、兩三日有夜責云々」
- 4) 『史料 京都の歴史 第7巻 上京区』平凡社 1980年 257頁

3. 遺 構

(1) 基本層序 (図8)

基本層序は、1区では現地表面から、現代盛土、江戸時代後期整地層、江戸時代洪水堆積物、江戸時代前期整地層1、江戸時代前期整地層2、室町時代整地層、平安時代整地層 (図版6・7-84層)、基盤層 (地山) となる。基盤層は基本的に礫層だが、礫層の上に黄褐色細砂が堆積する箇所もある。

2区では現地表面から、現代盛土、江戸時代後期整地層、江戸時代中期整地層、安土桃山時代から江戸時代前期整地層、室町時代整地層、平安時代前期整地層 (図版15-69層)、基盤層となる。

現地表面の標高は、1区南西側が47.9mで、2区北東側が47.6mとなっている。

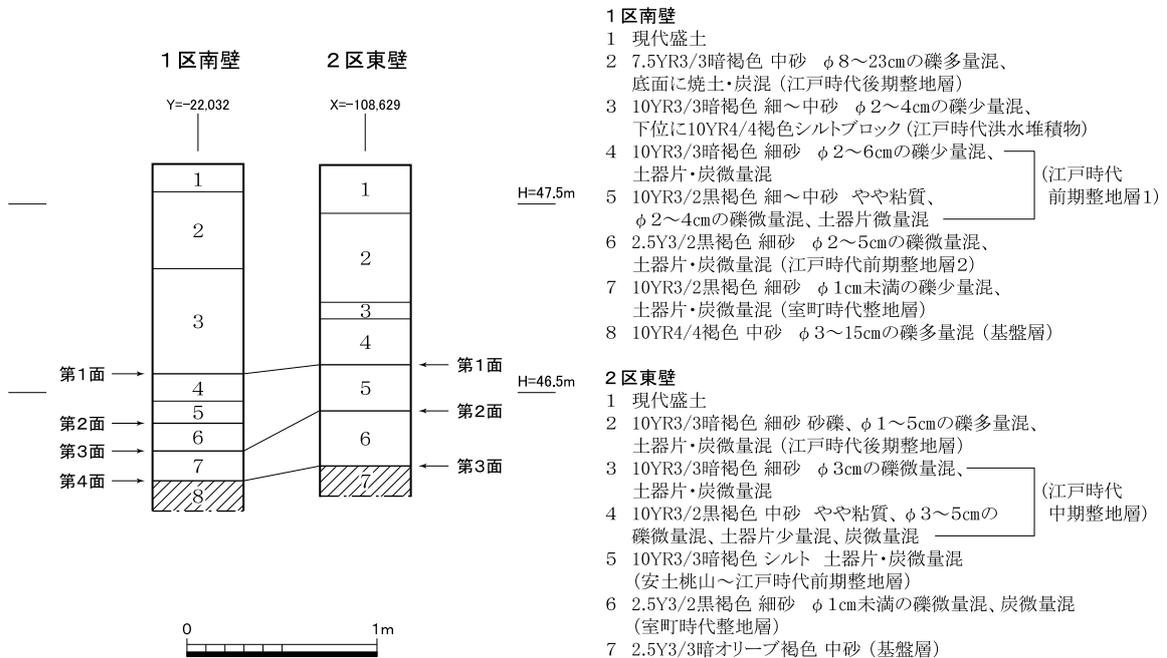


図8 基本層序柱状模式図 (1:40)

表2 遺構概要表

時 代	遺 構		備 考
	1 区	2 区	
平安時代	溝171・153、土坑268・274	溝1148	
室町時代	土坑138、井戸240	土坑1052・1071、礎石列4・5	
安土桃山時代	堀243、井戸196		
江戸時代前期	柱穴120、土坑167・185、礎石列2、建物1	土坑1011・1029、礎石列3	
江戸時代中期以降	礎石列1、整地層77、井戸64・174	石室1001・1060・1066、埋甕1002、炉1049	

(2) 1区の遺構

平安時代 (図版1・25)

第4面基盤層上面で検出した遺構である。

土坑268 調査区南東側で検出した円形の土坑である。検出規模は径0.5m、深さは0.1mある。9世紀の遺物が出土した。

土坑274 調査区東側で検出した不定形の土坑である。検出規模は径0.6m、深さは0.3mある。溝153に西側を切られており、12世紀の遺物が出土した。

溝153 (図版25、図9) 調査区東側で検出した溝171の東側に近接する南北方向の素掘り溝である。検出規模は、長さ6m、最大幅1.3m、深さ0.3mある。南北ともに調査区外へ伸びる。中央は後述する井戸64に壊されている。12世紀の遺物が出土した。

溝171 (図版25、図9) 調査区東側で検出した南北方向の素掘り溝である。検出規模は、長さ6m、最大幅1.2m、深さ0.15~0.2mある。南北ともに調査区外へ伸びる。溝の中軸が、1町の東西中軸線を通る。10世紀の遺物が出土した。

室町時代 (図版2・26)

第3面15世紀の遺物を含む室町時代整地層上面で検出した遺構である。

土坑138 (図版26、図10) 調査区中央で検出した南北方向に長い土坑である。検出規模は、長さ2.7m、幅1.5~1.9m、深さ0.5mある。北側は調査区外へ伸びる。15世紀の遺物が出土した。

井戸240 (図版9・26) 調査区東壁際で検出した石組みの井戸である。検出規模は、掘形最大径3.0m、内法1.0m、深さ2.5m以上ある。石組みの石材は長径0.2~0.5mのチャート質や砂岩質の河原石で、小口面を内側に向けて積み上げる。埋没時に長径0.6mの砂岩を入れている。なお、調査区壁面が崩落する危険があったため完掘はしていない。15世紀の遺物が出土した。

安土桃山時代 (図版2・3)

第3面室町時代整地層上面で検出した遺構である。

堀243 (図版27、図11) 調査区西側で検出した東西方向の堀である。検出規模は長さ3.6m、幅

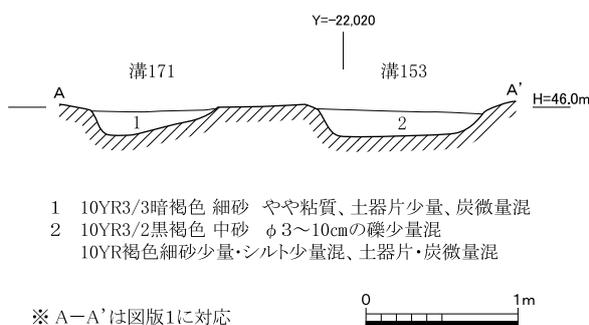


図9 溝171・153断面図 (1:50)

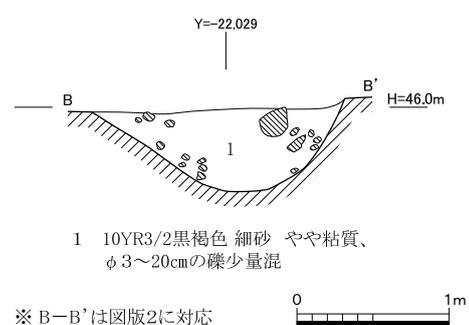


図10 土坑138断面図 (1:50)

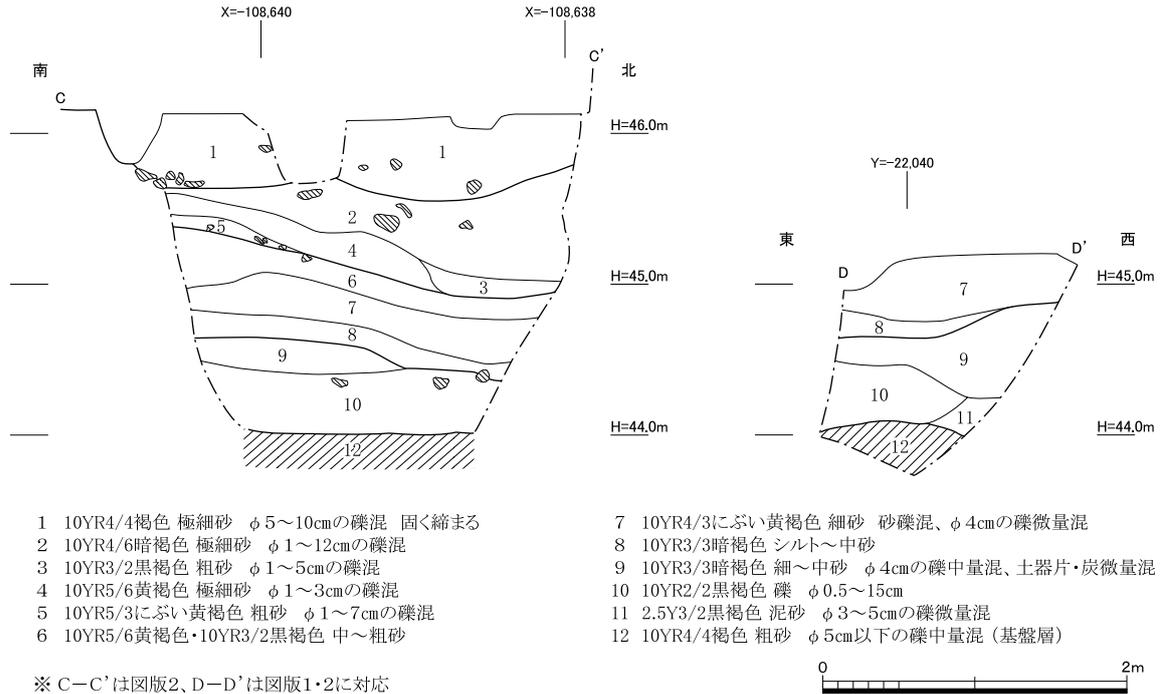


図11 堀243断面図（1：50）

3.1m、深さ2.1mある。西側は調査区外に伸びる。流水堆積は見られず、人為的に埋められたと考えられる。底部は逆台形状になっている。埋土は大きく4つに分けられ、それぞれ上層（1層）・中層（2~5層）・下層（6~8層）、最下層（9~11層）とする。最下層はほとんど礫である。下層は中砂・粗砂を主体として礫が混じる。中層は細砂を主体としながら径0.05~0.2mの礫が多量に混じる。下層・中層は南から北に向かって埋められており、中層が埋まった段階で平坦になっている。上層は細砂を主体とし固く締まる。上層は平坦に埋まっている。壁面崩落の危険があったため、完掘はしていない。埋土からは16世紀の遺物が出土した。

井戸196（図版27、図12） 調査区西壁際で検出した石組みの井戸である。検出規模は、掘形1.5m、内法1.1m、深さ1.45m以上ある。石組みの石材は長径0.2~0.3mのものが大半で、小口面を内側に向けて積み上げ

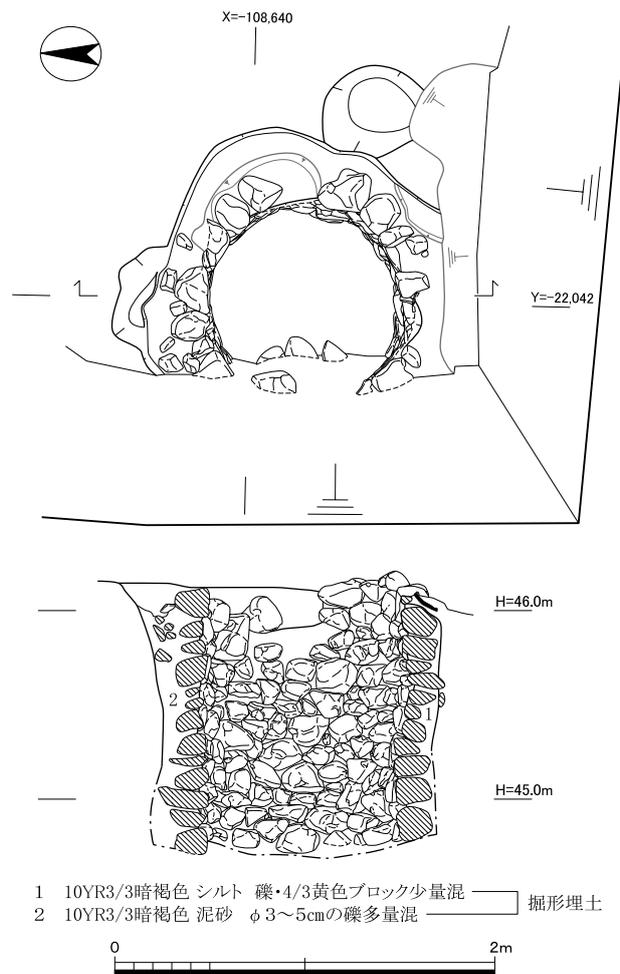


図12 井戸196実測図（1：40）

る。前述した堀243を掘り込んで成立する。なお、調査区壁面が崩落する危険があったため完掘はしていない。16世紀の遺物が出土した。

江戸時代前期（図版4・28）

第2面江戸時代前期整地層2上面で検出した遺構である。

礎石列2（図版10・29） 調査区中央で検出した南北方向の2基の地下式礎石列である。礎石135は長径0.35m、礎石139は長径0.35mで、礎石間の距離は3.3mである。礎石の石材は2基ともチャートである。

建物1（図版10・29） 調査区中央で検出した南北方向に主軸を持つ礎石建物である。礎石136・140・142・177から構成される。礎石の石材は花崗岩とチャートである。礎石の大きさは長径0.2～0.35m、高さ約0.1mある。礎石間の距離は南北で2.4m、東西で1.05mある。

柱穴120（図版11・29） 調査区西側で検出した柱穴である。径0.45m、深さ0.2mある。径0.1～0.15mの石で周辺を囲う。柱痕と考えられる径0.15mの穴が中心にある。

土坑167（図版11） 調査区西端で検出した隅丸長方形の土坑である。検出規模は東西1.4m、南北1.0m、深さ0.8mある。16世紀末から17世紀前半の土器類のほか、マダイやウシの骨が出土した。

土坑185（図版11・28） 調査区東側で検出した円形の土坑である。検出規模は東西2.1m、南北2.9m、深さは1.4mある。16世紀末から17世紀前半の遺物が出土した。

江戸時代中期以降（図版5・30）

第1面江戸時代前期整地層1上面で検出した遺構である。

井戸174 調査区中央で検出した素掘りの井戸である。検出規模は径1.3m、深さ0.9m以上ある。18世紀の遺物が出土した。

井戸64 調査区東側で検出した素掘りの井戸である。検出規模は径2.1m、深さ1.55mある。遺物は出土していない。

整地層77（図版11・30） 調査区西端で検出した整地層である。検出規模は南北4.2m、東西2.6mあり、南北と西側は調査区外へ伸びる。約0.3mの掘り込みを行い、明褐色の細砂に炭や漆喰を混ぜ、固く締めている。埋土からは、細片であるが17世紀後半の遺物が出土した。

礎石列1（図版11・30） 調査区西側で検出した南北方向の2基の礎石列である。礎石75は長径0.3m、礎石76は径0.2mで、礎石の距離は2.4mである。礎石の石材は2基とも花崗岩である。礎石76は掘形がないことから、整地と同時に埋められたと考えられる。礎石2基は整地層77東端に位置している。

(3) 2区の遺構

平安時代 (図版12・31)

第3面基盤層上面で検出した遺構である。

溝1148 (図版31) 調査区南側で検出した東西方向の素掘り溝である。検出規模は、長さ2.3m、幅1.25m、深さ0.5mある。東西ともに調査区外へ伸びる。溝の北肩が、1町の南北中軸線を通る。掘り直しの痕跡を断面で確認した (図版15-67・68層)。9世紀の遺物が出土した。

室町時代 (図版13・32)

第2面室町時代整地層上面で検出した遺構である。

土坑1052 調査区南で検出した円形の土坑である。検出規模は径0.6m、深さは0.5mである。14世紀前半の土師器皿が多量に出土した。

礎石列4・5 (図13) 調査区北側から南側にかけて検出した礎石列である。南北方向の礎石列4と東西方向の礎石列5がある。礎石列5の礎石1065・1070は土坑1071の上に成立し、その距離は1.5mである。礎石列4の礎石1070・1073の距離は2.55m、1083・1089・1094・1062の距離は

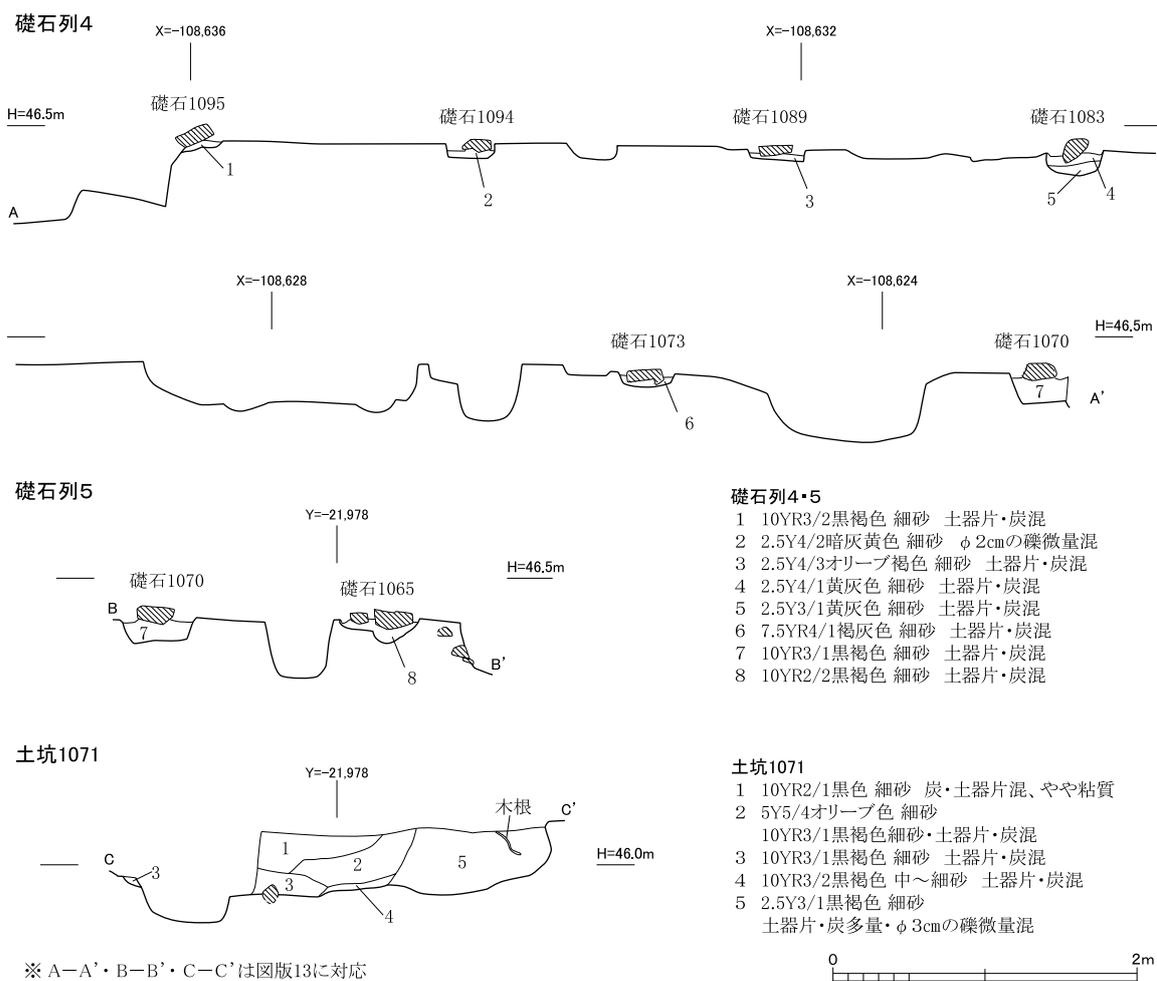


図13 礎石列4・5、土坑1071断面図 (1:50)

それぞれ2.1m、2.1m、1.8mである。

土坑1071（図13） 調査区北側で検出した不定形の土坑である。検出規模は最大長2.3m、深さは0.4mである。調査区外北側に続いている。15世紀の遺物が出土した。

江戸時代前期（図版14・32）

第1面安土桃山～江戸時代前期整地層上面で検出した遺構である。

土坑1011（図版17・33） 調査区北側で検出した隅丸長方形の土坑である。検出規模は東西0.8m、南北1.15m、深さは0.8mである。北東隅部に長径0.3mの石が重ねられていた。埋土からは17世紀の遺物が出土した。

土坑1029（図版17・33） 調査区南側で検出した円形の土坑である。検出規模は径1.3m、深さは1.1mである。底面には炭が堆積する。また、掘り直した後にも底部に炭層を確認した。埋土からは17世紀の遺物が出土した。

礎石列3（図版17・33） 調査区中央で検出した南北方向の2基の礎石列である。礎石1012の掘形は石室1001に壊されている。礎石間の距離は1.35mである。

江戸時代中期以降（図版14・32）

埋甕1002（図版17・33） 調査区中央で検出した円形の土坑内に、備前焼甕を倒立させている。検出規模は掘形径1.3m、深さは0.5mである。甕の底部は損失しており、遺構上部の状況は不明である。掘形は細～中砂で構成されている。また、埋土は細砂で構成されており、甕残存部分上部まで細砂で埋まる。遺構の底部は基盤層である黄褐色細砂であり、埋土と同様に水が抜けやすい構造となっており、排水施設の可能性が考えられる。埋土からは18世紀の遺物が出土した。

石室1001（図版18・34） 調査区中央で検出した方形の石室である。検出規模は掘形南北1.8m、内法東西2.1m、南北1.0m、深さは石残存部分天端から0.3mである。東側は調査区外に伸びる。石室を構築する石材は北辺に2段、西側の石は1基のみ、南側は3基のみが残っており、ほとんどが抜き取られていた。長径0.15～0.35mの方形の花崗岩を使用している。南西隅から西に向かって、河原石が据えられている。北側にある石室1060を壊して成立している。

石室1060 調査区中央で検出した石室である。北西隅部を検出した。検出規模は掘形幅東西0.7m、南北1.0mである。東側は調査区外に延び、南側は石室1001に破壊されている。石材は花崗岩や粘板岩などを使用している。

石室1066 調査区北端で検出した石室である。南辺のみ北壁断面で確認した。検出幅1.3m、内法0.9m、深さは検出面から1.0mである。

炉1049（図版18・34） 調査区南側で検出した楕円形の炉である。検出規模は残存最大径1.2m、深さは0.4mである。炉壁と炉床を据えている。掘形埋土上部は瓦片が混じる。棧瓦が出土していることから18世紀以降のものと考えられる。

4. 遺 物

(1) 遺物の概要

遺物は整理コンテナにして106箱出土した。出土遺物には、土器・陶磁器類、土製品、瓦類、石製品、金属製品があり、全体の8割以上を土器・陶磁器類が占める。

土器類には、縄文土器・製塩土器・土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦器・土師質土器・瓦質土器・焼締陶器・施釉陶器・磁器・輸入陶磁器がある。土製品には土鈴、灯籠笠がある。瓦類には、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・棧瓦がある。石製品には硯がある。金属製品には、火箸・環・煙管・鉄釘・銭貨がある。

遺物の時期は、縄文時代から江戸時代後期まで各時期のものがある。ただし、平安時代以前の遺物及び鎌倉時代の遺物は、後世の遺構・整地層に混入したものである。室町時代の遺物が5割を占め、次いで安土桃山時代から江戸時代の遺物、平安時代の遺物が多い。

以下では遺物種別に概要を述べる。各遺物の詳細については付表1～4にまとめた。

土師器皿の編年・年代観については、平尾政幸氏の編年による¹⁾。

表3 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
縄文時代	縄文土器		縄文土器1点		
飛鳥時代	須恵器		須恵器1点		
奈良時代	製塩土器		製塩土器5点		
平安時代	土師器、須恵器、黒色土器、 緑釉陶器、灰釉陶器、白色 土器、瓦器、輸入陶磁器、 瓦類		土師器21点、須恵器7点、黒色 土器2点、緑釉陶器8点、灰釉 陶器1点、白色土器4点、輸入 陶磁器4点、瓦類6点		
鎌倉時代	瓦器、瓦類		瓦器1点、瓦類5点		
室町時代	土師器、瓦質土器、施釉陶 器、焼締陶器、輸入陶磁器、 瓦類、金属製品		土師器42点、瓦質土器6点、施 釉陶器1点、焼締陶器3点、輸 入陶磁器4点、金属製品7点		
安土桃山時代 ～江戸時代	土師器、土師質土器、瓦質 土器、施釉陶器、焼締陶器、 磁器、輸入陶磁器、土製品、 瓦類、石製品、金属製品		土師器33点、土師質土器2点、 瓦質土器2点、施釉陶器15点、 焼締陶器5点、染付磁器1点、 輸入陶磁器4点、土製品2点、 瓦類4点、石製品2点、金属製 品10点		
合 計		116箱	209点 (10箱)	0箱	106箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より10箱多くなっている。

(2) 土器類・土製品

平安時代

土坑268出土土器（図版19・35 1～6） 土師器と須恵器がある。1～4は土師器皿Aである。5は土師器甕である。6は須恵器杯蓋である。

溝1148出土土器（図版19・35 7～17） 土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器がある。7は土師器皿Aである。8は土師器甕の体部である。外面に煤が付着する。9は須恵器蓋である。口縁端部が剥離している。また、内面は摩滅しており、硯に転用された可能性がある。10は須恵器皿である。口縁端部を上方につまみ上げる。11は須恵器鉢である。12は須恵器の壺と考えられる。平底で、体部外面に格子目のタタキが残る。13・14は緑釉陶器碗あるいは皿である。13は削り出し高台、14は内面に凹線とトチンの痕跡が認められる。底部調整は回転ヘラケズリの後に高台を貼り付ける。15は緑釉陶器碗。硬陶で貼り付け高台である。16は緑釉陶器火舎である。体部の透かし部分のみ残存する。17は灰釉陶器碗で、底部はヘラケズリで方形の高台を貼り付ける。施釉方法はハケ塗りである。遺物の時期は2C段階である。

溝171出土土器（図版19・35 18～29） 土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、白色土器がある。18は土師器皿Aである。19は土師器高杯の脚部である。外面に稜線はほとんど見えず、芯棒作りで成形される。20・21は黒色土器碗である。20は内面のみ黒色（A類）、21は両面が黒色（B類）である。22は須恵器鉢の底部である。底部糸切り未調整である。23～25は緑釉陶器碗である。見込みに圈線を持ち、糸切無調整の底部に貼り付けた高台には段が見られる。近江系である。また、いずれもトチンの痕跡がある。26～29は白色土器である。26は皿。底部は糸切りである。27は皿、28は碗で、いずれも高台を有する。29は三足盤である。3段階頃と考えられる。

土坑274出土土器（図版19・35 30～39） 土師器、須恵器、輸入陶磁器がある。30～32は土師器皿Acで、口径は8.1～8.2cmある。33～37は皿Nで、口径は8.8～9.0cmある。5B段階。38は須恵器杯である。内面に朱が付着する。東播系。39は白磁碗の口縁部である。^{びんせい} 閩清系で多孔質である。

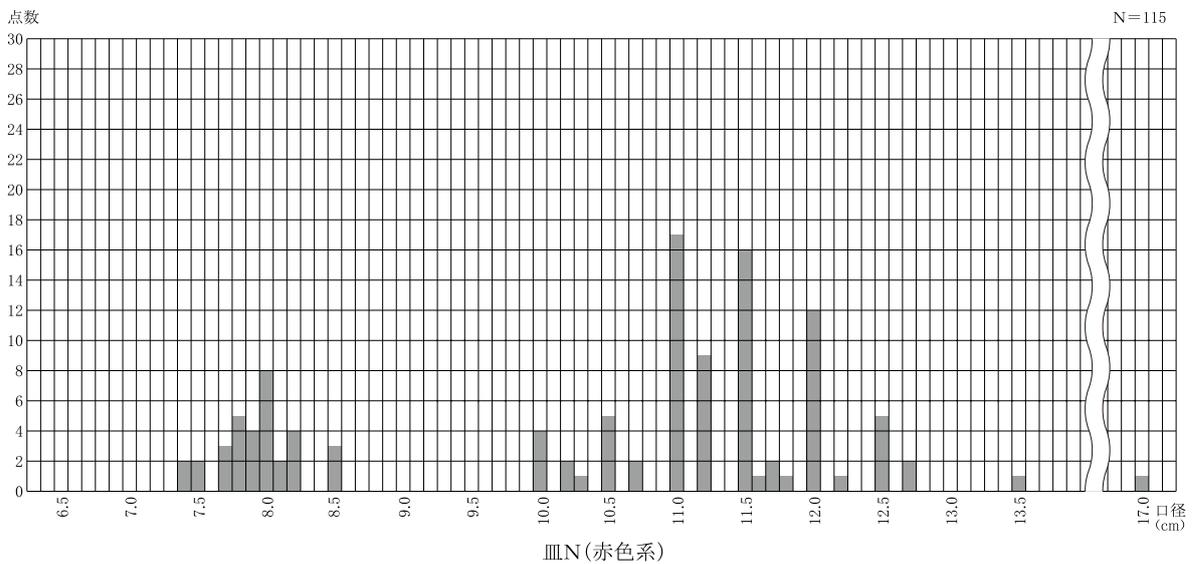
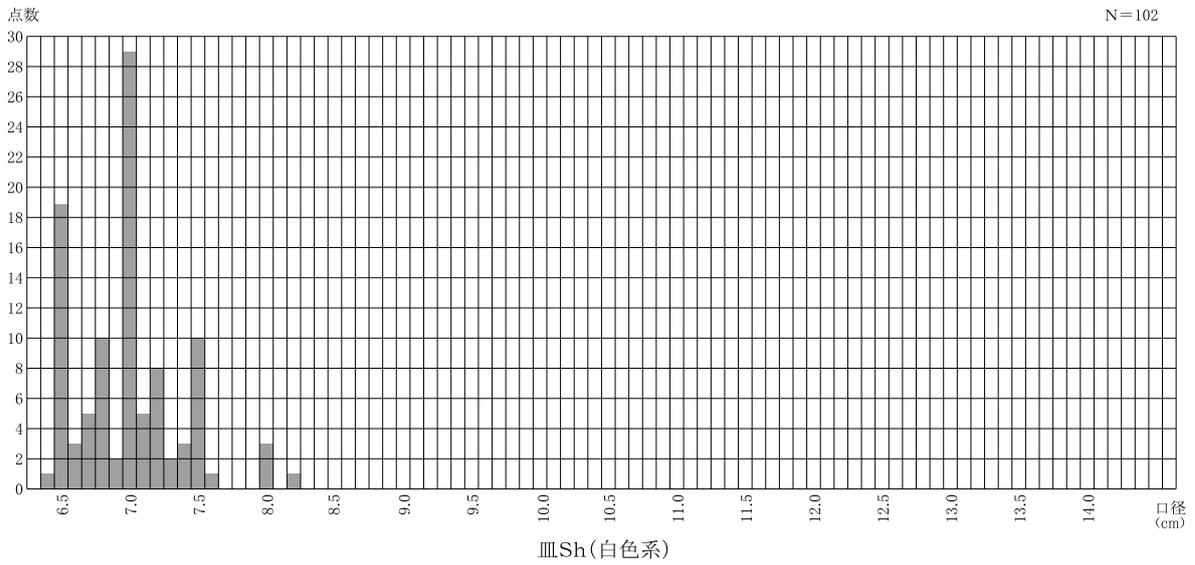
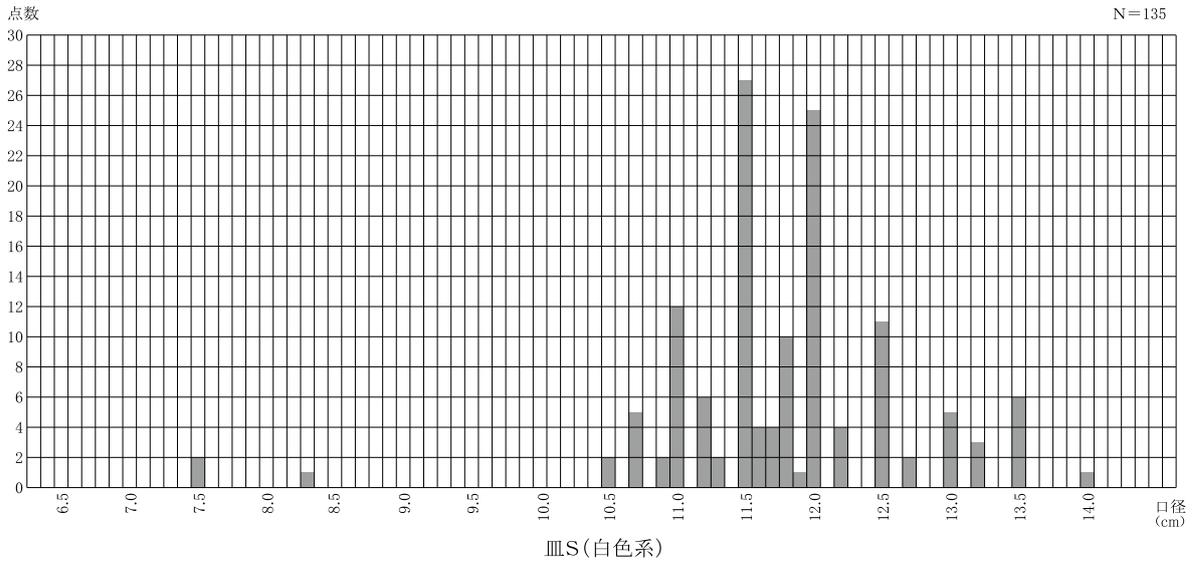
溝153出土土器（図版19・35 40～43） 土師器皿がある。40は皿Acである。41～43は皿Nで、口径は13.8～14.7cmある。5B段階。

室町時代

土坑1052出土土器（図版20・35・36 44～70） 土師器皿がある。44～57は皿Shで、口径は6.4～7.2cmある。58～67は皿Nで、口径は7.7～11.6cmある。65には、銅製の折釘が付着する。68～70は皿Sで、口径は11.2～12.0cmある。

図版20に掲載したものも含めて、土坑1052出土土師器皿の口径を計測し、その数値を表4に作成した。皿Sの口径分布は、11.5～12.0cmにかけてピークがある。皿Shは6.5～7.0cmにかけてピークがある。皿Nは8.0cmを中心とするものと、11.0～12.0cmを中心とするものに分かれる。土師器皿

表4 土坑1052出土土師器皿の口径分布表



SとShとNの比率は、破片数計測法で皿S 38%、皿Sh 29%、皿N 33%である。7 C段階。

土坑138出土土器（図版20・36 71～86）土師器、瓦質土器、輸入陶器がある。71～74は土師器皿Nである。口径は7.5～9.4cmである。75～83は土師器皿Sである。口径は11.1～14.2cmである。9 C段階。84は瓦質土器火鉢、85は瓦質土器風炉である。86は輸入陶器壺である。縦耳を持ち、内外面ともに褐釉がかかる。

土坑1071出土土器（図版20 87・88）土師器、瓦質土器がある。87は土師器皿Sである。時期は9段階である。88は瓦質土器鍋である。

井戸240出土土器（図版21・36 89～99）土師器、瓦質土器、施釉陶器、焼締陶器、輸入陶磁器がある。89は土師器皿Sである。90は焼締陶器の備前焼播鉢である。8条1単位の播目を持つ。91・92は備前焼甕である。92には縦方向に3本、横方向に2本の線刻が見られる。いずれもIV-B期である。93は瓦質土器風炉の脚部である。94は瓦質土器香炉である。外面には上から雲・鳥・雲をスタンプで配する。95は瓦質土器羽釜である。耳をもち、内面は櫛状の工具で調整を施す。96は施釉陶器天目台である。97は輸入陶磁器白磁皿である。外面底部に朱で3つの点が描かれる。98・99は輸入陶磁器の龍泉窯系青磁椀である。

安土桃山時代から江戸時代

堀243出土土器（図版20・37 100～107）土師器、施釉陶器がある。100～106は土師器皿Sである。10 C段階とみられる。107は施釉陶器天目椀の底部である。ロクロの回転方向は右回転である。

井戸196出土土器（図版20・37 108・109）瓦質土器、焼締陶器がある。108は瓦質土器風炉の脚部である。109は焼締陶器の備前焼甕である。口縁部形状からIV-B期である。

土坑1011出土土器（図版20・37 110～115）土師器、土製品がある。110は土師器小壺（つぼつぼ）である。111は土師器皿N、112～114は土師器皿Sである。口径は5.6～10.7cmに収まる。11 A段階である。115は土鈴である。出土時は破損していたため、中に丸玉は入っていない。

土坑167出土土器（図版22・37 116～134）土師器、土師質土器、瓦質土器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器がある。土師器皿にはNとSbとSがある。116～121は皿Nである。口径は5.7～7.2cmに収まる。底部を下から押し上げる。122～124は皿Sbである。口径は9.8～9.9cmに収まる。口縁端部は上方につまみ上げている。125は皿Sである。126は堺産の土師質土器甕である。格子目のタタキ痕が見られる。127は焼締陶器の備前焼盤である。128は焼締陶器の信楽焼播鉢である。6条1単位の播目を持つ。129は瓦質土器香炉である。130は施釉陶器茶椀である。全体に黒色の釉薬がかかる。京都産。131は施釉陶器の唐津壺である。132は輸入陶磁器の李朝白磁椀である。見込みと高台に離れ砂が見られる。胎土は多孔質で、部分的に赤色化している。133は輸入陶器鉢である。東南アジア産で底部外面と内面は赤褐色である。134は輸入陶磁器の李朝の瓶である。器壁は2～3mmと薄く、外面全体と内面体部上半に釉がかかる。遺物の年代は11 A段階である。

土坑185出土土器（図版22・37・38 135～143）土師器、土師質土器、施釉陶器がある。135

～139は土師器皿Sで、口径は10.2～12.9cmに収まる。11 A段階。140は堺産の土師質土器甕である。外面は左上がりのタタキ、内面はハケ調整をしている。141は施釉陶器の絵唐津向付である。鉄絵で縦方向の線を描く。142は施釉陶器の黄瀬戸鉢である。口縁端部の形状から蓋が付いていたと考えられる。143は施釉陶器の黄瀬戸銅鑊鉢である。見込みに梅を描く。

土坑1029出土土器(図版22・38 144～147) 土師器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器がある。144は土師器皿Sである。145は焼締陶器の信楽播鉢である。播目は8条1単位である。146は施釉陶器の唐津大皿である。鉄釉の上から灰釉をかける。147は輸入陶磁器で、漳州窯系の青花皿である。遺物の年代は11 A～B段階である。

井戸174出土土器(図版23・38 148～151) 土師器、施釉陶器、焼締陶器、輸入陶器などがある。148は土師器皿Sで、時期は12段階頃。149は施釉陶器の瀬戸・美濃系長石釉丸皿である。高台底部は無施釉。150は施釉陶器の京・信楽系菱形皿である。151は施釉陶器の肥前系刷毛目茶椀である。高台には離れ砂が付着している。

埋甕1002出土土器(図版23・38 152～161) 土師器、施釉陶器、焼締陶器、輸入陶磁器、土製品などがある。152・153は土師器皿Sである。圏線がV字状である。154は土師器鉢である。ロクロナデで成形される。外面には亀甲文様が墨書で描かれる。内面は、右手で杖をつき、左手で笠を掴む人物が描かれ、右隣に崩し字で「□□へこ」と書かれている。155・156は施釉陶器の京焼蓋である。157は施釉陶器の京焼灯明受け皿である。158は施釉陶器の京・信楽系土瓶である。159は肥前系の染付椀である。見込みに五弁花のコンニャク印判。160は備前焼甕である。「□石入」と線刻されている。器高は不明だが、口径50cm・最大径71cmであることから、「貳石入」の銘と考えられる。²⁾V-B期で、16世紀後半頃に製作されたものであるが、埋土及び掘形埋土出土の遺物の年代は18世紀頃であることから、伝世品である160を倒立させて埋甕として使用していたと考えられる。161は土製品のミニチュア灯籠、宝珠・笠部分である。

その他の出土土器(図版23・38、図14 162～175) 上記の出土土器以外で、重要と判断した土器をここに掲載する。いずれも整地層や後世遺構の混入品である。

162は縄文土器深鉢である。摩滅が激しく器壁が薄い。平安時代の土坑268から出土した。同遺構からは奈良時代のものと考えられる製塩土器163～167も出土した。

168は土師器皿Sである。内外面に金箔を貼る。10段階頃とみられる。169は須恵器蓋である。飛鳥³⁾Ⅲ。170は緑釉陶器壺である。見込みにわずかに緑釉が付着する。171は瓦器台付杯である。内面は花卉状の暗文を描き、円盤状の高台を貼り付ける。⁴⁾172は施釉陶器折縁皿である。瀬戸・美濃産。

173は輸入陶器絞胎陶の破片である。両面に釉葉がかかり、外面に線刻がみられる。174は

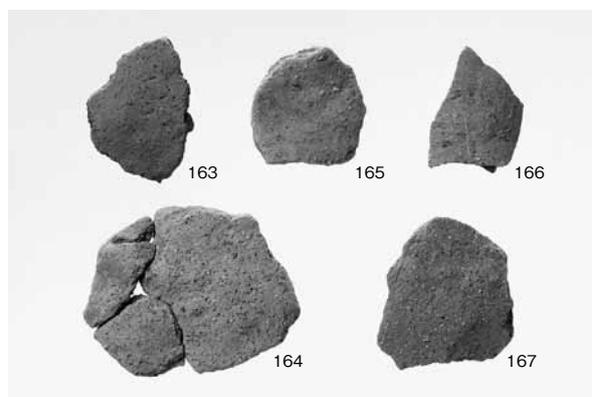


図14 製塩土器

輸入陶磁器の白磁水注である。12世紀頃のものと考えられる。175は輸入陶器壺である。底部を除いて内外面に黄色釉を施す。

(3) 瓦類 (図版24・39)

瓦類は整理コンテナにして10箱分出土した。時期は平安時代後期から鎌倉時代のものと、江戸時代後半のものがほとんどである。軒丸瓦は4点、軒平瓦は10点出土した。

瓦1・2は複弁蓮華文軒丸瓦である。瓦3は右巻巴文軒丸瓦である。瓦4は右巻巴文軒丸瓦で、外区に珠文がめぐる。丸瓦部凹面に鉄線切り(コビキB)の痕跡がみられる。

瓦5は外行唐草文軒平瓦である。瓦6は連巴文軒平瓦である。平瓦部凸面に縄タタキが残る。瓦7~10は剣頭文軒平瓦である。13世紀中頃か。瓦10は平瓦部凹面に条痕が、瓦当面に範傷が見られる。瓦11は斜格子文軒平瓦である。瓦12~14は江戸時代の唐草文軒平瓦である。瓦13は中心文と一転目の唐草の間に三角形の陽刻。瓦14は被熱しており、赤色に変色している。

瓦15は平安時代の平瓦である。溝1148から出土した。

(4) 石製品 (図15、図版39)

石1・2は硯である。両方とも小型で、石2は硯背に空隙部(挿手)がある。

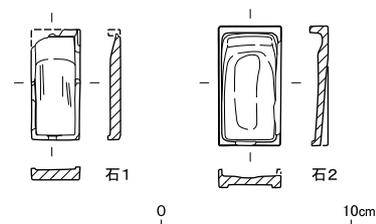


図15 石製品実測図(1:4)

(5) 金属製品 (図16・17、図版39)

金1は銅製の火箸である。金2は金銅製環である。金3は銅製の煙管の雁首である。金4~9は鉄釘である。中でも金7は未使用の頭巻釘(小巻)である。

銭貨は合計で8点出土した。銭1~6は北宋銭である。銭1は天禧通寶である。銭2~4は天聖元寶で、篆書と真書がある。銭5は熙寧元寶、銭6は聖宋元寶である。銭7は南宋銭で、開禧通寶である。銭8は日本銭で、新寛永通寶である。

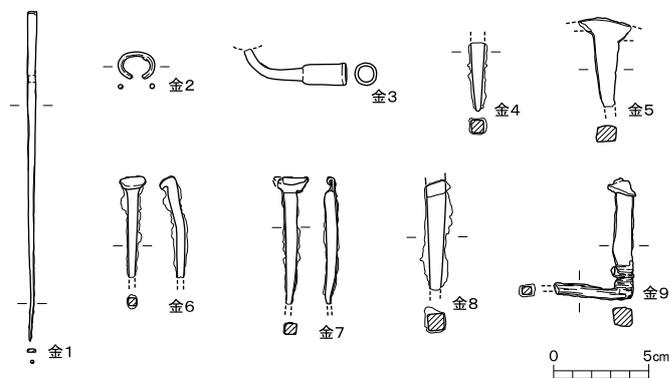


図16 金属製品実測図(1:4)

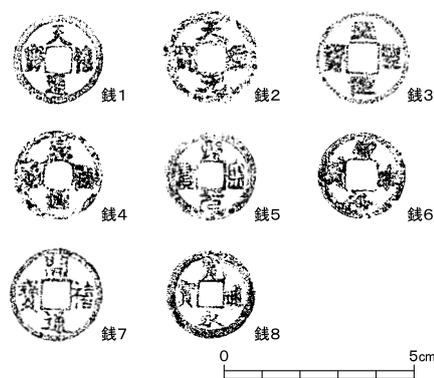


図17 銭貨拓影(1:2)

註

- 1) 土師器皿の型式・年代については、平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要 第12号』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019年に準拠する。

750年	840年	930年	1020年	1110年	1170年	1260年	1350年	1410年	1500年	1590年	1680年	1740年	1800年	1860年
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
A B C	A B C	A B C	A B C	A B	A B C	A B C	A B	A B C	A B C	A B C	A B C	A B	A B	A B

- 2) 鳥根県富田川河床遺跡SB035内の埋甕遺構から、口径58cm、底径40cm、器高88cm、体部径79cmの備前焼甕が出土しており、その外面には「貳石入」が書かれている（『富田川河床遺跡発掘調査報告書Ⅲ』鳥根県教育委員会 1983年）。図版23-160の口径・体部径は、それよりもやや小さい。なお、「叁石入」は岡山県立博物館所蔵の「元亀2年（1571）」銘で、口径65cm、器高104cm、体部径82cmのものがある（『備前焼一千年の流れ展』朝日新聞社 1991年）。これらと比較すると、図版23-160に線刻されているのはやはり「貳石入」と考えられる。
- 3) 「V考察 B 土器の時期区分と型式変化」『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ』奈良国立文化財研究所学術第31冊 奈良国立文化財研究所 1978年
- 4) 台付瓦器杯は採集資料に類例がある（橋本久和『概論 瓦器碗研究と中世社会』真陽社 2018年

参考文献

瀬戸・美濃系施釉陶器の編年については、藤澤良祐「瀬戸・美濃大窯製品の生産と流通 - 研究の現状と課題 -」『戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品 - 東アジア的視野から -』財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 2001年を参考にした。

焼締陶器・輸入陶磁器の年代については、『新版 概説中世の土器・陶磁器』日本中世土器研究会 2022年を参考にした。

5. まとめ

今回の調査では平安時代から江戸時代にわたる遺構を検出した。調査地における土地利用の変遷について、その一端を知りうる資料が得られた。以下では、隣接地の調査43を参考にその変遷を¹⁾たどる。

平安時代 (図18)

1区第4面及び2区第3面では、平安時代の遺構を確認した。溝171は左京一条三坊十一町の東西の中心に位置し、10世紀後半の遺物が出土した。溝153からは12世紀の遺物が出土した。また、2区溝1148は、北肩が同町の南北の中心に位置する。同時期の明確な遺構がないため、その性格については不明である。なお、北西部の調査43でも平安時代の東西方向の溝を検出している。

室町時代 (図18)

1区第3面及び2区第2面が該当する。室町時代の遺構は14世紀前半のものと15世紀のものに分かれる。14世紀前半の遺構は2区第2面の土坑1052がある。多量の土師器皿が出土しているが、ほかに顕著な遺構がないため、当該期の土地利用の様相は明らかではない。

15世紀後半の遺構には、1区第3面の土坑138や井戸240、2区第2面の礎石列4・5や土取り穴と考えられる土坑1071があり、当該期の土地利用が活発であったことがわかる。

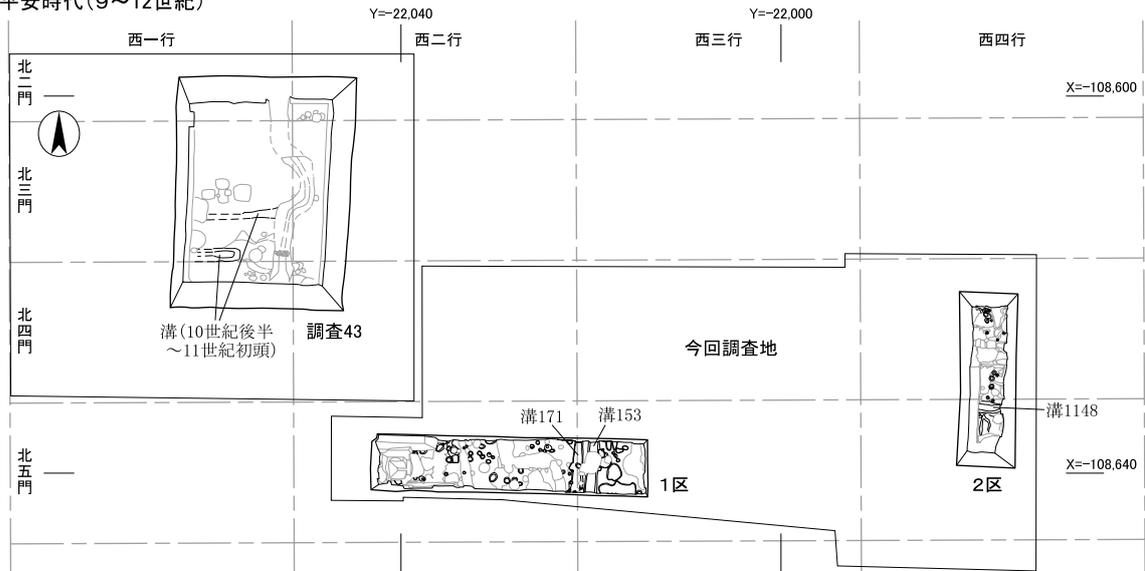
安土桃山時代 (図18～20)

安土桃山時代の遺構には1区3-b面の堀243と1区3-a面の井戸196がある。堀243は埋土の出土遺物から16世紀後半の遺構と考えられる。当該期の調査地は旧二条城内に位置しており、今回確認した遺構はこれに関連する可能性がある。既往の周辺調査では、旧二条城に明確に関わる遺構として、堀とそれに伴う石垣、暗渠などは見つかっているが、内部の具体的な構造は明らかになっていない。堀は発掘調査によって、方形の3重の堀(内堀・中堀・外堀)が存在することが指摘されている(図²⁾20)。

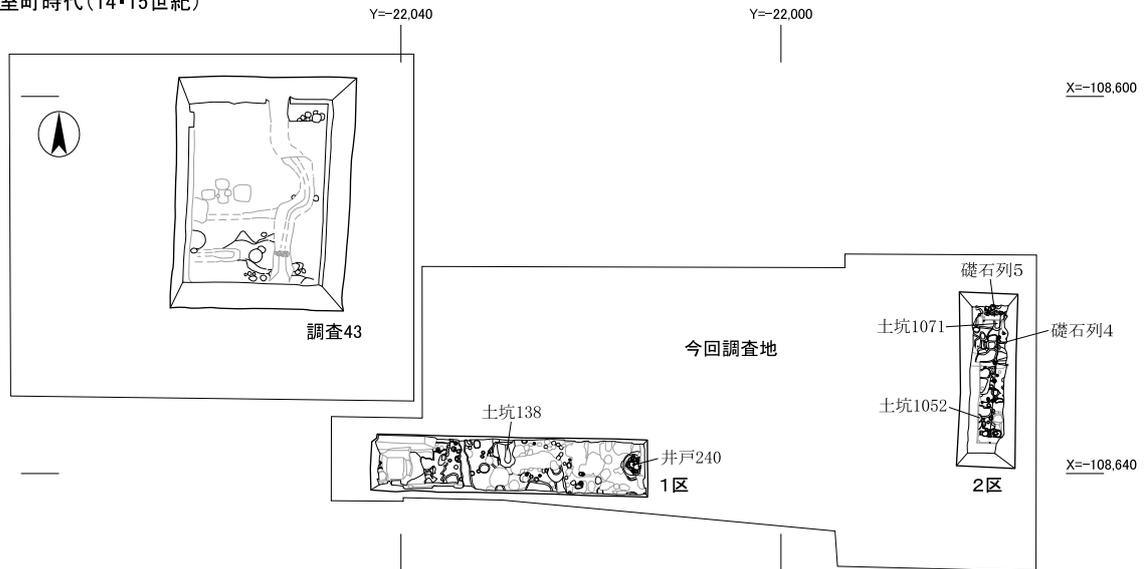
中堀は、調査8・54・56・66で検出されている。調査54で西中堀を確認した。東側に犬走を持ち、幅は犬走を含めると6.5～6.9m、深さは2.2～2.4mである。調査8・56・66では南中堀を確認した。調査8では幅4.8m、深さ1.8m、調査56では幅7.1m、深さは1.8m～3.3mである。調査66は攪乱されており南肩のみの検出であったが、深さは2.7mである。

今回検出した堀243は幅3.1mで深さは2.4mである。既出の中堀と比較すると幅はやや小さいものの、深さについては既往の調査で検出した中堀に近い。既知の中堀と直接連続するかどうかは明らかではないが、堀243は旧二条城の北中堀の一部である可能性が考えられる³⁾。そして、堀243が埋められた後に井戸196が成立していることから、旧二条城が廃絶したのち、調査地は生活空間として利用されたことが明らかとなった。

平安時代(9~12世紀)



室町時代(14・15世紀)



安土桃山時代1(16世紀後半)

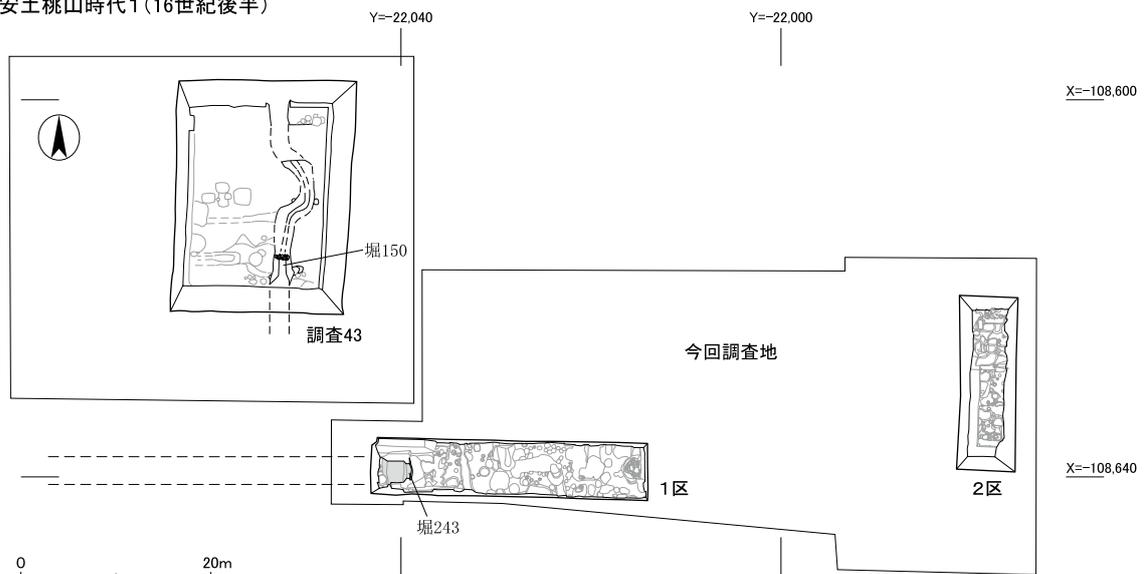
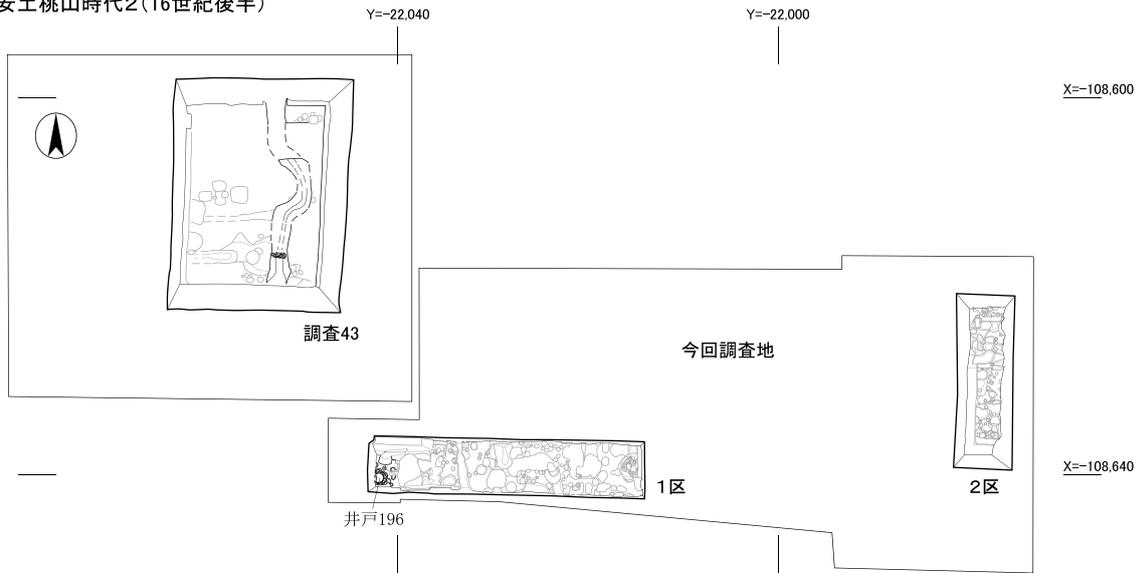
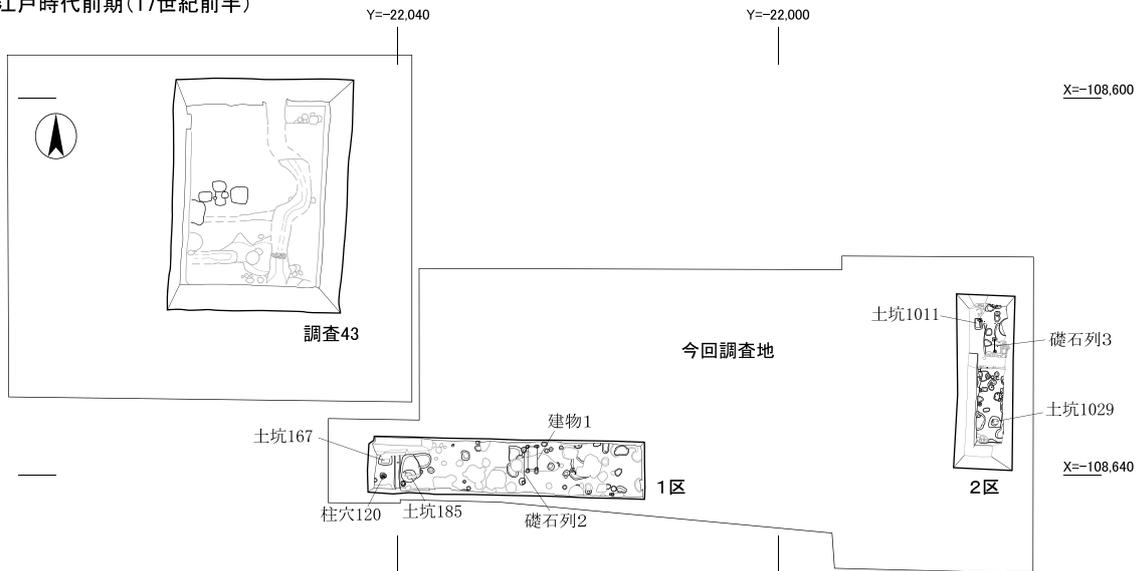


図18 遺構変遷図1 (1:800)

安土桃山時代2(16世紀後半)



江戸時代前期(17世紀前半)



江戸時代前～後期(17世紀後半以降)

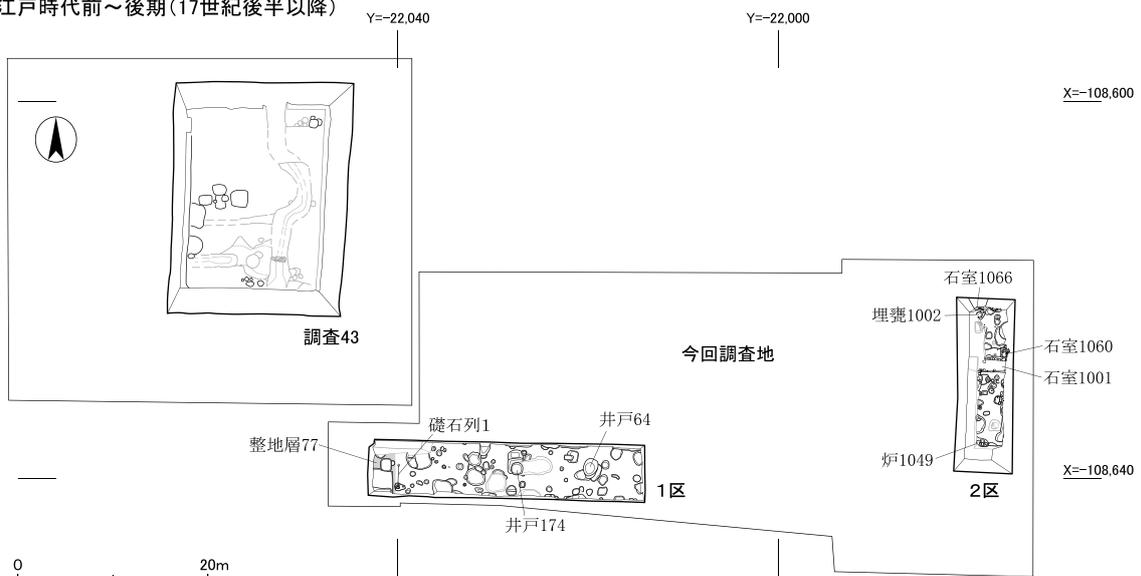


図19 遺構変遷図2 (1 : 800)

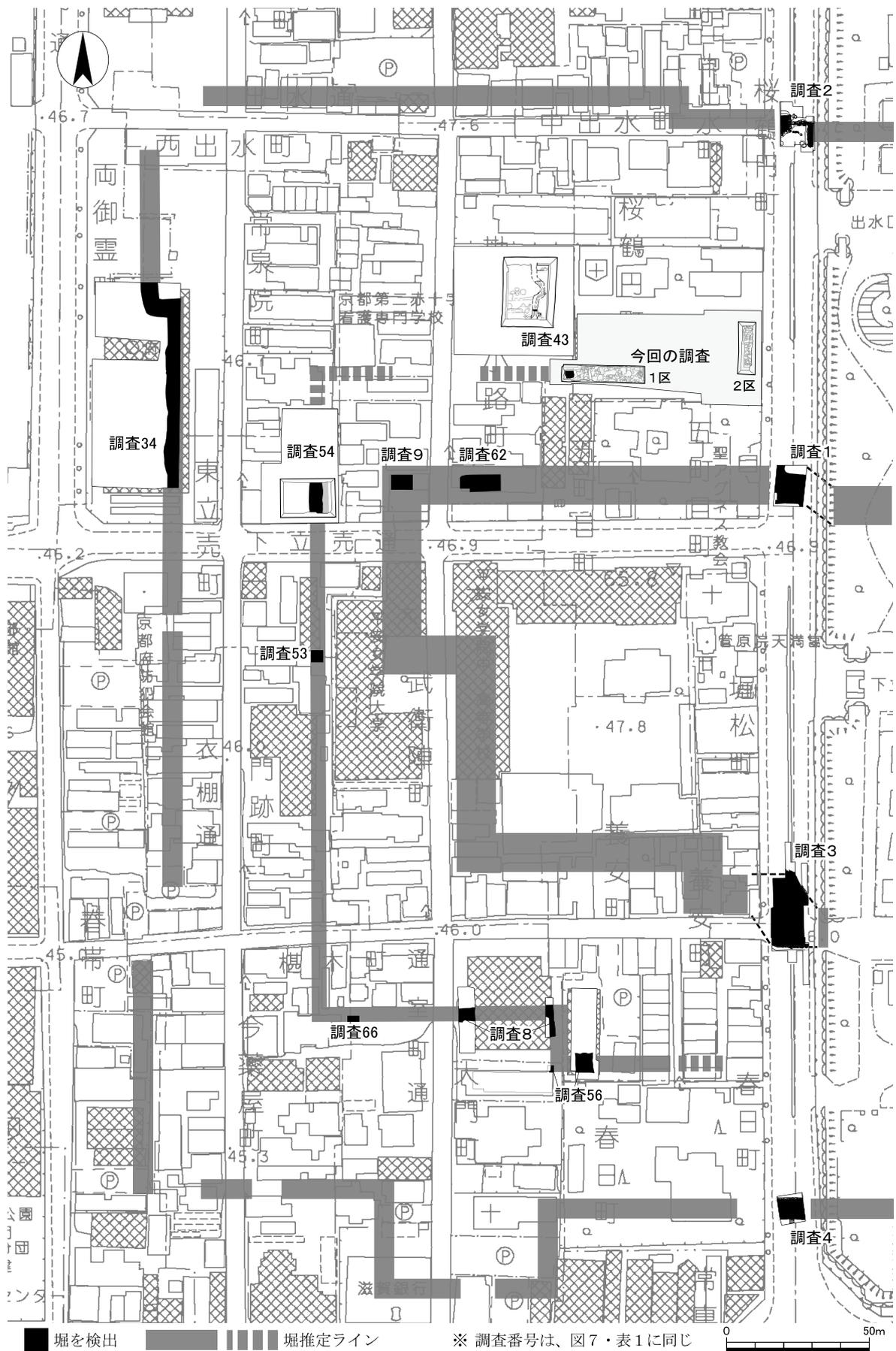


図20 旧二条城堀跡復元図 (1 : 2,000)

一方、表面波探査の結果では、3重の堀のうち、中堀は西中堀と南中堀しか確認されていなかった。北中堀と東中堀が確認されなかったことについて、中堀は足利義昭と織田信長が対立した後に開削された未完成の堀という意見がある⁴⁾。中堀の範囲や構造については今後さらに検討を要する。

なお、堀243、井戸196以外に当該期の顕著な遺構は認められなかった。

また、旧二条城の堀の復元とは別に、調査43では南北方向の堀150が検出されている。堀150は、幅1.2～1.8mで、深さは検出面から1.2mである。調査区中央でコの字形に東に張り出している。また、南側では川原石の面を南に向け、石垣のように積み上げて堀の一部をせき止める改変を行っている。今回検出された堀243と比較すると、幅・深さともに小規模である。堀150は南北が調査区外に続き、南側は北中堀に接する可能性がある。

江戸時代 (図19)

江戸時代の遺構は江戸時代前期と17世紀後半以降に分かれる。

1区第2面では、江戸時代前期の遺構を確認した。調査区西側で検出した土坑167・185は廃棄土坑と考えられる。2区では、土坑1011・1029がある。

1区第1面では、17世紀後半以降の烏丸通・室町通から奥まった場所の空間利用を確認した。西側で検出した礎石列1とそれに伴う整地層77は、建物の一部と考えられる。2区では、埋甕1002、石室1001・1060・1066、炉1049などを検出した。

1区では建物の基礎部や廃棄土坑がみられる一方、2区では、貯蔵施設や生産活動を示す遺構が主体である。また、調査43では、室町通に近い西側で石室群、室町通から遠い東側で井戸を検出している。廃棄土坑や貯蔵施設である石室、生活用水のための井戸は、宅地としての利用をうかがわせる。当地に関しては、貞享3年(1686)の『京大繪圖：新撰増補』、宝暦4年(1754)の『京圖鑑綱目：名所手引』、元治元年(1864)の『京都古地図』や『大成京細見繪圖：洛中洛外町々小名』などの絵図が存在するが、居住者について具体的な記載はない。

一方で、立地からみると、調査地は烏丸通に近接し、御所や公家町に近い場所にある。また、調査地から約200m南にある丸太町通の南には、銀座のある両替町があった。元禄年間に烏丸下立売に居住していたとされる中村内蔵助は、銀座を経営する銀座年寄の一人であり、⁵⁾経済力を有していたと考えられる。このように調査地一帯は御所や公家町に近い立地であるとともに、金融業の隆盛な土地であった。

今回の調査では、瀬戸・美濃・唐津などの施釉陶器や中国・朝鮮・東南アジアなどの輸入陶磁器が出土していることから、当地は旧二条城が天正4年(1576)以降に廃絶して四半世紀ほどで、経済的に一定豊かな者の居住する土地となったと考えられる。

なお1区では洪水堆積物由来の土が、江戸時代前期整地層1の上に堆積しており、その上に江戸時代後期の整地層が重なる。17世紀から18世紀にかけての洪水にかかわる堆積層が、御所周辺の発掘調査で確認されており、⁶⁾洪水被害の存在を証明する。1区で見られた洪水堆積物由来の土も、上下の整地層の年代から、この頃の鴨川の洪水に由来するものと考えられる。

註

- 1) 調査43は、未報告の調査であり、遺構の評価については調査担当者である有限会社古代文化調査会家崎孝治氏より御教示を賜った。また、終了報告の取り扱いについては家崎氏および文化財保護課赤松佳奈氏より便宜を賜った。
- 2) 図20は以下の文献を参考にした。
 - ① 赤松佳奈「I 平安京左京一条三坊十一町跡・旧二条城跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 令和2年度』京都市文化市民局 2021年
 - ② 古川 匠・釜井俊孝・坂本 俊「旧二条城の復元－表面波探査法による」『古代学研究 232』古代学研究会 2018年
- 3) 前掲2)－①に同じ。
- 4) 前掲2)－②に同じ。
- 5) 「東南地区 滋野学区」『史料 京都の歴史 第7巻 上京区』平凡社 1980年
- 6) 『平安京左京一条四坊十町跡・公家町遺跡・京都新城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2022-2 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2022年

付表1 土器観察表

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	胎土色調	備考
1	土師器	皿A	土坑268	14.6	2.2		20	5YR7/6橙色	
2	土師器	皿A	土坑268	16.6	2.7		15	5YR7/6橙色	
3	土師器	皿A	土坑268	17.6	2.3		15	7.5YR8/4浅黄橙色	
4	土師器	皿A	土坑268	17.7	2.5		10	5YR7/4にぶい橙色	
5	土師器	甕	土坑268		(5.5)		口縁部 破片	7.5YR7/4にぶい橙色	
6	須恵器	杯・蓋	土坑268	13.9	(1.4)		40	N7/0灰白色	
7	土師器	皿A	溝1148	12.8	(2.0)		25	7.5YR7/6橙色	
8	土師器	甕	溝1148		(6.0)		15	10YR5/2灰黄褐色	
9	須恵器	蓋	溝1148	16.0	(2.7)		25	N6/0灰白色	転用硯か
10	須恵器	皿	溝1148	19.6	1.8	16.2	15	N8/0灰白色	
11	須恵器	鉢	溝1148	25.6	(4.0)		10	2.5Y7/1灰白色	
12	須恵器	壺	溝1148		(12.7)		底部 破片	N5/0灰色	
13	緑釉陶器	皿または 椀	溝1148		(1.2)	5.2	10	10YR6/4にぶい黄橙色、 釉:5Y6/4オリーブ黄色	
14	緑釉陶器	皿または 椀	溝1148		(1.9)	7.2	15	10YR6/4にぶい黄橙色、 釉:5Y5/4オリーブ色	
15	緑釉陶器	椀	溝1148		(1.6)	9.0	10	N5/0灰色、 釉:7.5Y4/3暗オリーブ色	
16	緑釉陶器	火舎	溝1148		(6.5)			7.5YR8/4浅黄橙色、 釉:淡緑色	幅3.7cm、 厚さ1.2cm
17	灰釉陶器	椀	溝1148		(1.9)	6.1	20	N7/0灰白色、釉:7.5Y7/2灰白色	
18	土師器	皿A	溝171	10.8	1.2	9.2	45	10YR8/3浅黄橙色	
19	土師器	高杯	溝171		(14.1)		100 (頸部)	7.5YR7/4にぶい橙色	
20	黒色土器	椀	溝171	15.0	4.4	7.0	10	外面:5YR6/3にぶい橙色、内面:N3/0暗灰色	A類
21	黒色土器	椀	溝171	15.0	(4.2)		10	N3/0暗灰色	B類
22	須恵器	鉢	溝171		(6.6)	11.0	20	2.5Y8/1灰白色	
23	緑釉陶器	椀	溝171		(2.3)	5.8	50	10YR8/3浅黄橙色、釉:明黄緑色	近江系
24	緑釉陶器	椀	溝171	12.9	5.0	5.6	25	10YR8/4浅黄橙色、釉:濃緑色	近江系
25	緑釉陶器	椀	溝171		(3.9)	7.4	95	10YR8/5浅黄橙色、釉:濃緑色	近江系
26	白色土器	皿	溝171	11.2	1.7	4.7	80	10YR8/1灰白色	
27	白色土器	皿	溝171		(1.8)	6.2	25	2.5Y8/1灰白色	
28	白色土器	椀	溝171		(2.3)	9.8	25	2.5Y8/1灰白色	
29	白色土器	三足盤	溝171	11.6	2.9		20	2.5Y8/1灰白色	
30	土師器	皿Ac	土坑274	8.1	1.2		45	7.5YR7/4にぶい橙色	
31	土師器	皿Ac	土坑274	8.1	1.3		40	10YR7/3にぶい橙色	
32	土師器	皿Ac	土坑274	8.2	1.2		30	7.5YR8/4浅黄橙色	
33	土師器	皿N	土坑274	8.8	1.8		60	10YR7/3にぶい橙色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	胎土色調	備考
34	土師器	皿N	土坑274	9.0	1.6		35	10YR7/3にぶい橙色	
35	土師器	皿N	土坑274	9.2	1.4		45	7.5YR8/4浅黄橙色	
36	土師器	皿N	土坑274	9.2	1.7		50	7.5YR7/6橙色	
37	土師器	皿N	土坑274	9.0	1.6		40	10YR7/3にぶい橙色	
38	須恵器	杯	土坑274	6.6	2.3	4.4	50	N4/0灰色	東播系
39	輸入陶磁器白磁	椀	土坑274		(2.4)		10	10YR8/2灰白色、釉:10YR8/1灰白色	関清系
40	土師器	皿Ac	溝153	8.3	1.2		35	7.5YR7/4にぶい橙色	
41	土師器	皿N	溝153	13.8	2.3		20	10YR7/3にぶい橙色	
42	土師器	皿N	溝153	14.2	(2.7)		15	7.5YR7/4にぶい橙色	
43	土師器	皿N	溝153	14.7	3.1		30	10YR7/3にぶい橙色	
44	土師器	皿Sh	土坑1052	6.4	1.8		100	10YR8/2灰白色	
45	土師器	皿Sh	土坑1052	6.5	1.9		100	10YR8/2灰白色	
46	土師器	皿Sh	土坑1052	6.5	1.8		95	10YR8/1灰白色	
47	土師器	皿Sh	土坑1052	6.5	1.6		95	2.5Y8/1灰白色	
48	土師器	皿Sh	土坑1052	6.6	1.8		100	2.5Y8/1灰白色	
49	土師器	皿Sh	土坑1052	6.6	1.9		100	10YR8/2灰白色	
50	土師器	皿Sh	土坑1052	6.6	2.1		100	2.5Y8/1灰白色	
51	土師器	皿Sh	土坑1052	6.7	1.7		95	10YR8/2灰白色	
52	土師器	皿Sh	土坑1052	6.8	1.6		100	10YR8/2灰白色	
53	土師器	皿Sh	土坑1052	6.8	1.9		100	2.5Y8/1灰白色	
54	土師器	皿Sh	土坑1052	7.0	2.0		100	10YR8/2灰白色	
55	土師器	皿Sh	土坑1052	7.0	1.9		100	10YR8/2灰白色	
56	土師器	皿Sh	土坑1052	7.1	1.9		90	2.5Y8/2灰白色	
57	土師器	皿Sh	土坑1052	7.2	1.9		100	10YR8/2灰白色	
58	土師器	皿N	土坑1052	7.7	1.6		95	7.5YR8/4浅黄橙色	
59	土師器	皿N	土坑1052	7.8	1.6		95	7.5YR8/4浅黄橙色	
60	土師器	皿N	土坑1052	7.8	1.6		100	7.5YR8/4浅黄橙色	
61	土師器	皿N	土坑1052	7.9	1.4		95	7.5YR8/4浅黄橙色	
62	土師器	皿N	土坑1052	8.2	1.6		100	7.5YR8/4浅黄橙色	
63	土師器	皿N	土坑1052	11.2	2.4		100	10YR7/3にぶい橙色	
64	土師器	皿N	土坑1052	11.2	2.2		100	7.5YR8/4浅黄橙色	
65	土師器	皿N	土坑1052	11.2	2.9		70	10YR7/3にぶい橙色	銅製折釘付着
66	土師器	皿N	土坑1052	11.5	2.6		100	10YR7/3にぶい橙色	

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	胎土色調	備考
67	土師器	皿N	土坑1052	11.6	2.1		100	10YR7/3にぶい橙色	
68	土師器	皿S	土坑1052	11.2	2.8		100	5Y8/1灰白色	
69	土師器	皿S	土坑1052	11.6	3.1		100	2.5Y8/1灰白色	
70	土師器	皿S	土坑1052	12.0	3.0		100	2.5Y8/1灰白色	
71	土師器	皿N	土坑138	7.5	1.7		95	7.5YR7/4にぶい橙色	
72	土師器	皿N	土坑138	9.0	2.2		95	7.5YR7/4にぶい橙色	
73	土師器	皿N	土坑138	9.1	2.0		45	7.5YR7/4にぶい橙色	
74	土師器	皿N	土坑138	9.4	2.2		60	7.5YR7/4にぶい橙色	
75	土師器	皿S	土坑138	8.4	1.5		95	7.5YR8/4浅黄橙色	
76	土師器	皿S	土坑138	11.1	2.5		70	7.5YR8/4浅黄橙色	
77	土師器	皿S	土坑138	11.4	2.2		70	5YR8/4淡橙色	
78	土師器	皿S	土坑138	11.7	1.8		45	5YR8/4淡橙色	
79	土師器	皿S	土坑138	11.8	2.3		75	5YR8/4淡橙色	
80	土師器	皿S	土坑138	11.9	2.0		45	5YR8/4淡橙色	
81	土師器	皿S	土坑138	12.0	2.2		95	5YR7/6橙色	
82	土師器	皿S	土坑138	12.0	2.5		45	5YR8/4淡橙色	
83	土師器	皿S	土坑138	14.2	2.7		75	7.5YR8/4浅黄橙色	
84	瓦質土器	火鉢	土坑138	(10.2)	(4.7)			口縁部 破片	N4/0灰色
85	瓦質土器	風炉	土坑138	25.8	(5.1)		15		N3/0暗灰色
86	輸入陶器	壺	土坑138	17.8	(4.4)		10	2.5Y6/1黄灰色、釉:2.5Y4/2暗灰黄色	四耳壺か、褐釉
87	土師器	皿S	土坑1071	10.9	2.0		20	7.5YR8/4浅黄橙色	
88	瓦質土器	鍋	土坑1071	25.2	(9.6)		15		N5/0灰色
89	土師器	皿S	井戸240	11.5	2.1		95	5YR8/4淡橙色	
90	焼締陶器	播鉢	井戸240		(4.4)			口縁部 破片	5YR4/1褐灰色
91	焼締陶器	甕	井戸240	51.0	(87.0)	44.0	40		10R4/6赤色
92	焼締陶器	甕	井戸240	52.0		44.4	30		5YR4/4にぶい赤褐色
93	瓦質土器	風炉	井戸240		(5.3)			脚部 破片	N3/0暗灰色
94	瓦質土器	香炉	井戸240	9.5	(6.2)	7.3	20		N3/0暗灰色
95	瓦質土器	羽釜	井戸240	13.2	(14.9)		60		N5/0灰色
96	施釉陶器	天目台	井戸240		(2.9)	5.0	40		2.5Y8/2灰白色、釉:7.5Y2/1黒色
97	輸入陶磁器 白磁	皿	井戸240		(1.6)	3.6	底部 100		2.5Y7/1灰白色、釉:2.5Y8/2灰白色
98	輸入陶磁器 青磁	椀	井戸240		(2.8)	5.4	底部 70		10YR8/3浅黄橙色、釉:2.5Y5/4黄褐色
99	輸入陶磁器 青磁	椀	井戸240		(4.7)	5.4	底部 100		N8/0灰白色、釉:10Y6/2オリーブ灰色

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	胎土色調	備考
100	土師器	皿S	堀243	9.0	1.8		30	10YR8/4浅黄橙色	
101	土師器	皿S	堀243	10.6	1.9		20	10YR8/4浅黄橙色	
102	土師器	皿S	堀243	10.8	1.8		20	7.5YR7/4にぶい橙色	
103	土師器	皿S	堀243	10.8	2.0		25	7.5YR7/4にぶい橙色	
104	土師器	皿S	堀243	11.0	2.3		20	7.5YR7/6橙色	
105	土師器	皿S	堀243	12.7	2.3		15	5YR7/4にぶい橙色	
106	土師器	皿S	堀243	13.2	2.2		10	7.5YR7/4にぶい橙色	
107	施釉陶器	天目椀	堀243		(1.1)	4.5	底部 100	2.5Y8/2灰白色、釉:5YR2/1黒褐色	
108	瓦質土器	風炉	井戸196		(8.3)	5.2	脚部 破片	5YR7/4にぶい橙色	
109	焼締陶器	甕	井戸196		(11.0)		口縁部 破片	7.5YR4/2灰褐色	備前IV-B
110	土師器	小壺	土坑1011	1.8	2.4		40	10YR8/2灰白色	
111	土師器	皿N	土坑1011	5.6	1.3		70	2.5Y6/4にぶい黄色	
112	土師器	皿S	土坑1011	9.4	2.4		75	7.5YR7/4にぶい橙色	
113	土師器	皿S	土坑1011	10.7	2.1		30	7.5YR7/4にぶい橙色	
114	土師器	皿S	土坑1011	11.5	2.3		45	7.5YR7/4にぶい橙色	
115	土製品	土鈴	土坑1011				95	10YR8/3浅黄橙色	タテ3.8cm× ヨコ2.8cm
116	土師器	皿N	土坑167	5.7	1.2		90	2.5Y6/4にぶい黄色	
117	土師器	皿N	土坑167	5.9	1.2		100	2.5Y6/4にぶい黄色	
118	土師器	皿N	土坑167	6.5	1.5		100	2.5Y6/4にぶい黄色	
119	土師器	皿N	土坑167	6.6	1.4		95	2.5Y6/4にぶい黄色	
120	土師器	皿N	土坑167	6.8	1.4		90	2.5Y6/4にぶい黄色	
121	土師器	皿N	土坑167	7.2	1.5		95	2.5Y6/4にぶい黄色	
122	土師器	皿Sb	土坑167	9.8	2.2		90	10YR7/3にぶい橙色	
123	土師器	皿Sb	土坑167	9.8	2.1		100	10YR7/3にぶい橙色	
124	土師器	皿Sb	土坑167	9.9	2.2		100	7.5YR7/3にぶい橙色	
125	土師器	皿S	土坑167	12.0	2.2		80	7.5YR7/4にぶい橙色	
126	土師質 土器	甕	土坑167	23.4	(5.7)		10	7.5YR7/4にぶい橙色	堺
127	焼締陶器	盤	土坑167	24.2	(4.6)		15	2.5Y5/4にぶい赤褐色	備前
128	焼締陶器	播鉢	土坑167	24.2	(6.0)		20	2.5Y6/6橙色	信楽
129	瓦質土器	香炉	土坑167	17.3	6.0	15.8	25	N3/0暗灰色	
130	施釉陶器	茶椀	土坑167	8.6	7.1	5.5	70	釉:10YR3/1黒褐色、胎土:N7/0灰白色	京都
131	施釉陶器	壺	土坑167	21.3	(5.6)		5	釉:2.5Y5/2暗灰黄色、胎土:5YR5/2灰褐色	唐津
132	輸入陶磁 器白磁	皿または 椀	土坑167		(2.7)	8.4	25	釉:N8/0灰白色、胎土:N8/0灰白色	李朝

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	胎土色調	備考
133	輸入陶磁器	鉢	土坑167	21.6	(7.5)		10	10YR3/1黒褐色	南蛮
134	輸入陶磁器	瓶	土坑167	4.8	19.0	7.7	50	N3/0暗灰色、釉:10YR3/2黒褐色	李朝
135	土師器	皿S	土坑185	10.2	2.0		30	7.5YR7/4にぶい橙色	
136	土師器	皿S	土坑185	10.9	2.0		30	7.5YR7/4にぶい橙色	
137	土師器	皿S	土坑185	10.9	1.9		20	7.5YR8/4浅黄橙色	
138	土師器	皿S	土坑185	11.9	2.0		15	7.5YR7/4にぶい橙色	
139	土師器	皿S	土坑185	12.9	1.9		10	7.5YR8/4浅黄橙色	
140	土師質土器	甕	土坑185	16.7	(7.5)		20	7.5YR7/4にぶい橙色	堺
141	施釉陶器	向付	土坑185		(5.5)			10YR7/1灰白色、釉:7.5Y6/1灰色	絵唐津
142	施釉陶器	鉢	土坑185	16.2	6.9	9.5	25	2.5Y8/2灰白色、釉:5Y7/3浅黄色	黄瀬戸
143	施釉陶器	銅鑼鉢	土坑185	15.4	5.7	9.6	70	2.5Y7/1灰白色、釉:5Y7/3浅黄色	黄瀬戸
144	土師器	皿S	土坑1029	12.0	2.4		100	7.5YR7/4にぶい橙色	
145	焼締陶器	播鉢	土坑1029	32	(16.0)	15.4	15	5YR5/6明赤褐色	信楽
146	施釉陶器	鉢	土坑1029	26.7	7.8	8.2	65	5Y7/6橙色、釉:10Y5/2オリーブ灰色、7.5Y2/2黒褐色	唐津
147	輸入陶磁器	皿	土坑1029		(2.1)	12.8	25	5YR7/6橙色	漳州窯系
148	土師器	皿	井戸174	12.5	1.9		25	2.5Y7/2灰黄色	
149	施釉陶器	皿	井戸174	12.3	2.3	7.0	20	2.5Y8/2灰白色、釉:5Y8/1灰白色	美濃
150	施釉陶器	皿	井戸174	7.5×5.5	1.5	2.6×2.3	95	10YR8/3浅黄橙色、釉:10YR8/6黄橙色	菱形、京・信楽系
151	施釉陶器	椀	井戸174	12.0	(3.5)	4.5	10	10YR8/3浅黄橙色、釉:7.5Y5/にぶい橙色	刷毛目、肥前系
152	土師器	皿S	埋甕1002	10	1.8		90	10YR4/1褐灰色	
153	土師器	皿S	埋甕1002	10.1	1.9		90	5YR7/6橙色	
154	土師器	椀	埋甕1002	7.8	2.6	4.4	80	10YR7/3にぶい橙色	両面に墨書
155	施釉陶器	蓋	埋甕1002		(1.6)		75	5Y8/1灰白色、釉:5YR7/3浅黄色	京焼
156	施釉陶器	蓋	埋甕1002	5.4	1.2		75	5Y7/1灰白色、釉:7.5Y7/1灰白色	京焼
157	施釉陶器	灯明受皿	埋甕1002	10.5	2.2	4.4	40	5Y7/1灰白色、釉:7.5Y7/2灰白色	京焼
158	施釉陶器	土瓶	埋甕1002		(2.3)	11.0	25	10YR8/3浅黄橙色、釉:5YR4/3にぶい赤褐色	京・信楽系
159	染付磁器	椀	埋甕1002	(3.4)	(3.1)	3.6	35	N9/0灰白色、釉:うすい明緑灰色	肥前系
160	焼締陶器	甕	埋甕1002	50.8	(57.5)		40	5YR4/2灰褐色	備前V-B 「□石入」の線刻
161	土製品	灯籠傘	埋甕1002		1.8		100	7.5YR7/4にぶい橙色	タテ3.5cm× ヨコ3.5cm
162	縄文土器	深鉢	土坑268		(4.2)			口縁部破片 10YR4/2灰黄褐色	
163	製塩土器	製塩土器	土坑268					破片	
164	製塩土器	製塩土器	土坑268					破片	
165	製塩土器	製塩土器	土坑268					破片	

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	胎土色調	備考
166	製塩土器	製塩土器	土坑268				破片		
167	製塩土器	製塩土器	土坑268				破片		
168	土師器	皿S	土坑199	16.6	(2.4)		10	7.5YR7/4にぶい橙色	両面に金箔
169	須恵器	蓋	2区第2面 整地層	8.8	1.6		30	5YR5/1褐灰色	飛鳥Ⅲ
170	緑釉陶器	壺	1区第3面 整地層	7.4	(3.4)		15	2.5Y7/4浅黄色、釉:濃緑色	
171	瓦器	杯	2区第1面 整地層		(1.2)	5.8	底部 50	N3/0暗灰色	円盤高台
172	施釉陶器	折縁皿	埋甕1002	11.0	2.2	6.0	50	10YR7/2灰白色、釉:10Y7/2灰白色	
173	輸入陶器	不明	柱穴137					N7/0灰白色、釉:7.5Y8/1灰白色	タテ3.0cm×ヨコ 2.8cm、絞胎陶
174	輸入白磁	水注	土坑185	10.0	(8.2)		30	N8/0灰白色、釉:7.5Y7/1灰白色	
175	輸入陶器	壺	土坑185		(5.4)		15	2.5Y7/1灰白色、釉:5Y7/3浅黄色	

付表2 瓦観察表

No.	種類	文様	出土遺構	焼成	形態・手法の特長	備考
瓦1	軒丸瓦	複弁蓮華文	1区第2面 整地層	良	瓦当裏面丸瓦挿入成形。外区に界線。丸瓦凸面ナデ。凹面タタキ。	12世紀。播磨産か。
瓦2	軒丸瓦	複弁蓮華文	土坑82	良	瓦当裏面ナデ。凹中房。蓮子は7+1か。	12世紀。
瓦3	軒丸瓦	右巻巴文	土坑1052	良	瓦当裏面ナデ。側面ナデ。燻しにより暗灰色。	12～13世紀。
瓦4	軒丸瓦	右巻巴文	土坑8	良	丸瓦凹面鉄線切(コビキB)。瓦当貼り付けのち裏面ナデ。	江戸時代前半。
瓦5	軒平瓦	唐草文	堀243	良	瓦当面ケズリ。裏面ナデ。平瓦凹面布目。凸面ナデ。	平安時代中期。 森ヶ東瓦窯に同文。
瓦6	軒平瓦	連巴文	土坑1051	良	顎貼り付け技法。平瓦凹面布目。凸面縄タタキ。	12世紀。
瓦7	軒平瓦	剣頭文	土坑246	良	段顎。折り曲げ成形。瓦当部上縁横ケズリ。裏面オサエナデ。瓦当に布目残存。平瓦凹面布目。凸面オサエ。側面縦ケズリ	13世紀。山城産。
瓦8	軒平瓦	剣頭文	土坑180	良	段顎。折り曲げ成形。瓦当部上縁横ケズリ。顎凸面横ケズリ。裏面オサエナデ。平瓦凹面布目。	13世紀。山城産。
瓦9	軒平瓦	剣頭文	柱穴65	良	段顎。折り曲げ成形。裏面オサエ。平瓦凹面布目。凸面オサエ。	13世紀。山城産。
瓦10	軒平瓦	剣頭文	2区第1面 整地層	良	段顎。折り曲げ成形。裏面オサエ。平瓦凹面糸切。凸面オサエ。側面面取り。筈傷あり。	13世紀。山城産。
瓦11	軒平瓦	斜格子文	井戸240	良	段顎。瓦当部上縁ややつぶれる。裏面オサエナデ。平瓦凹面布目のち糸切。瓦当部との境目にくぼみあり。凸面ナデ。	12世紀。山城産。
瓦12	軒平瓦	唐草文	1区第2面 整地層	良	段顎。顎貼り付け成形。カキヤブリあり。裏面横ナデ側面ナデ。燻しにより暗灰色。	江戸時代前半。
瓦13	軒平瓦	唐草文	埋甕1002	良	段顎。顎貼り付け成形。カキヤブリあり。裏面横ナデ側面ナデ。燻しにより暗灰色。キラコ付着。	江戸時代後半。
瓦14	軒平瓦	唐草文	石室1001	良	段顎。顎貼り付け成形。カキヤブリあり。裏面横ナデ側面ナデ。表面は淡橙色。	江戸時代後半。
瓦15	平瓦		溝1148	良	残存長12.7cm、残存幅9.2cm、厚さ1.8cm。凹面布目。凸面縄タタキ。	平安時代。

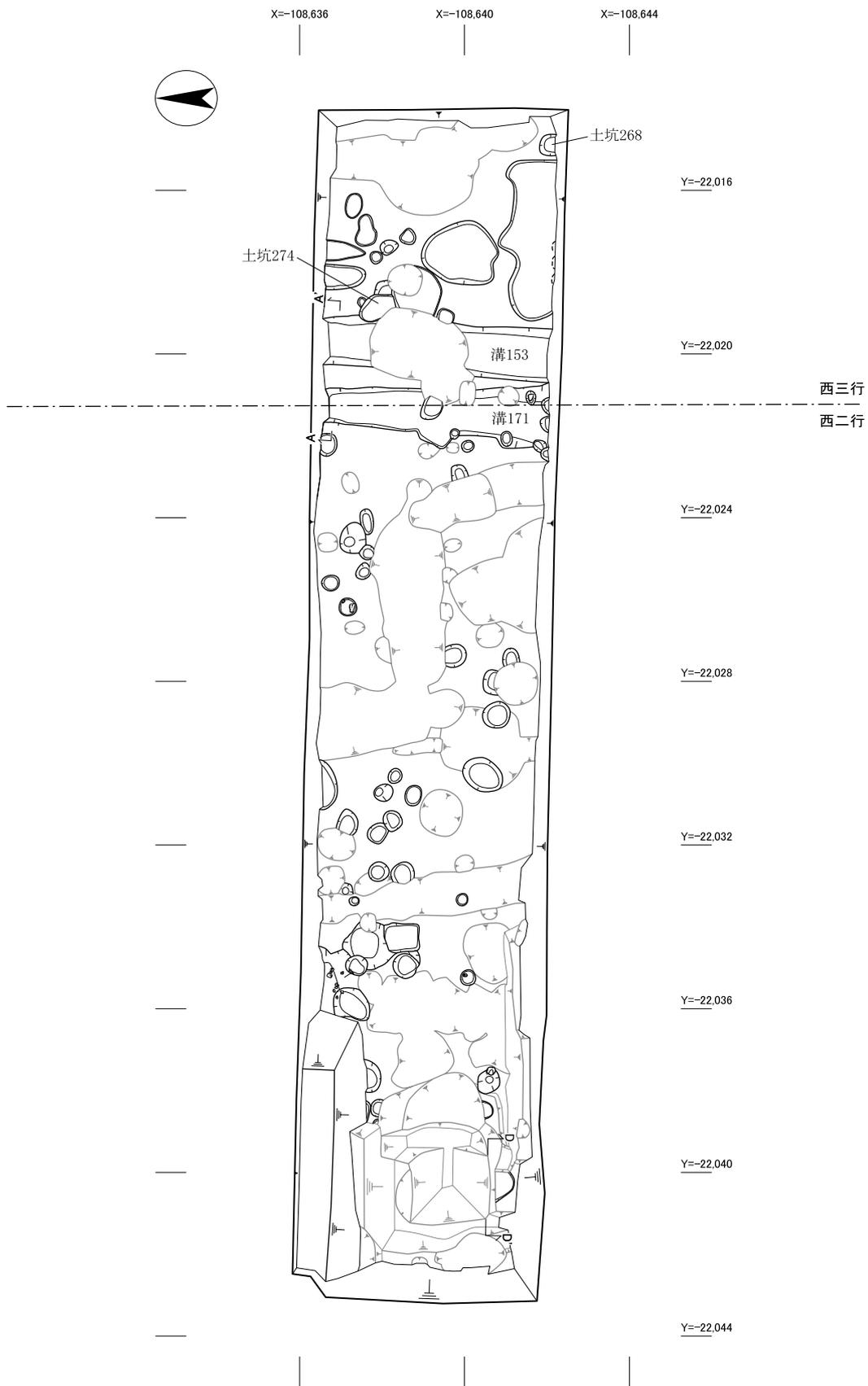
付表3 石製品観察表

No.	種類	出土遺構	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)	石材	備考
石1	硯	土坑156	5.8	2.6	0.7	18.1	粘板岩	
石2	硯	土坑185	6.3	3.3	1.0	27.4	粘板岩	

付表4 金属製品観察表

No.	種類	出土遺構	寸法	重さ(g)	備考
金1	火箸	土坑167	長さ17.5cm、最大幅5mm、厚さ2mm	7.1	銅製
金2	環	土坑167	縦1.7cm、横1.9cm、径2.5mm	1.4	金銅製
金3	煙管	土坑185	長さ5.4cm、幅1.2cm、径1.9cm	5.5	銅製
金4	鉄釘	土坑167	残存長4.3cm、幅1.0cm、厚さ1.0cm	4.3	
金5	鉄釘	土坑167	残存長4.7cm、残存幅2.8cm、厚さ1.1cm	13.2	
金6	鉄釘	土坑185	残存長5.4cm、幅1.4cm、厚さ1.5cm	5.2	
金7	鉄釘	土坑185	残存長6.7cm、残存幅1.5cm、厚さ0.8cm	6.4	頭巻釘
金8	鉄釘	土坑1011	残存長5.8cm、残存幅1.7cm、厚さ1.5cm	12.2	
金9	鉄釘	土坑1011	縦6.4cm、横4.3cm、厚さ1.9cm	13.5	木質残存
銭1	天禧通寶	土坑167	直径2.4cm、厚さ1.5mm	3.7	初鑄年:1017年
銭2	天聖元寶	土坑1029	直径2.5cm、厚さ1.95mm	3.2	初鑄年:1023年 真書体
銭3	天聖元寶	1区第2面 整地層	直径2.5cm、厚さ1.75mm	3.0	初鑄年:1023年 篆書体
銭4	天聖元寶	1区壁面	直径2.4cm、厚さ1.8mm	2.7	初鑄年:1023年 篆書体
銭5	熙寧元寶	1区第3面 整地層	直径2.5cm、厚さ1.5mm	3.7	初鑄年:1068年 篆書体
銭6	聖宋元寶	1区第2面 整地層	直径2.3cm、厚さ1.0mm	1.5	初鑄年:1101年 真書体
銭7	開禧通寶	土坑1052	直径2.55cm、厚さ1.55mm	3.08	初鑄年:1205年
銭8	新寛永通寶	石室1001	直径2.4cm、厚さ1.6mm	3.1	初鑄年:1668年

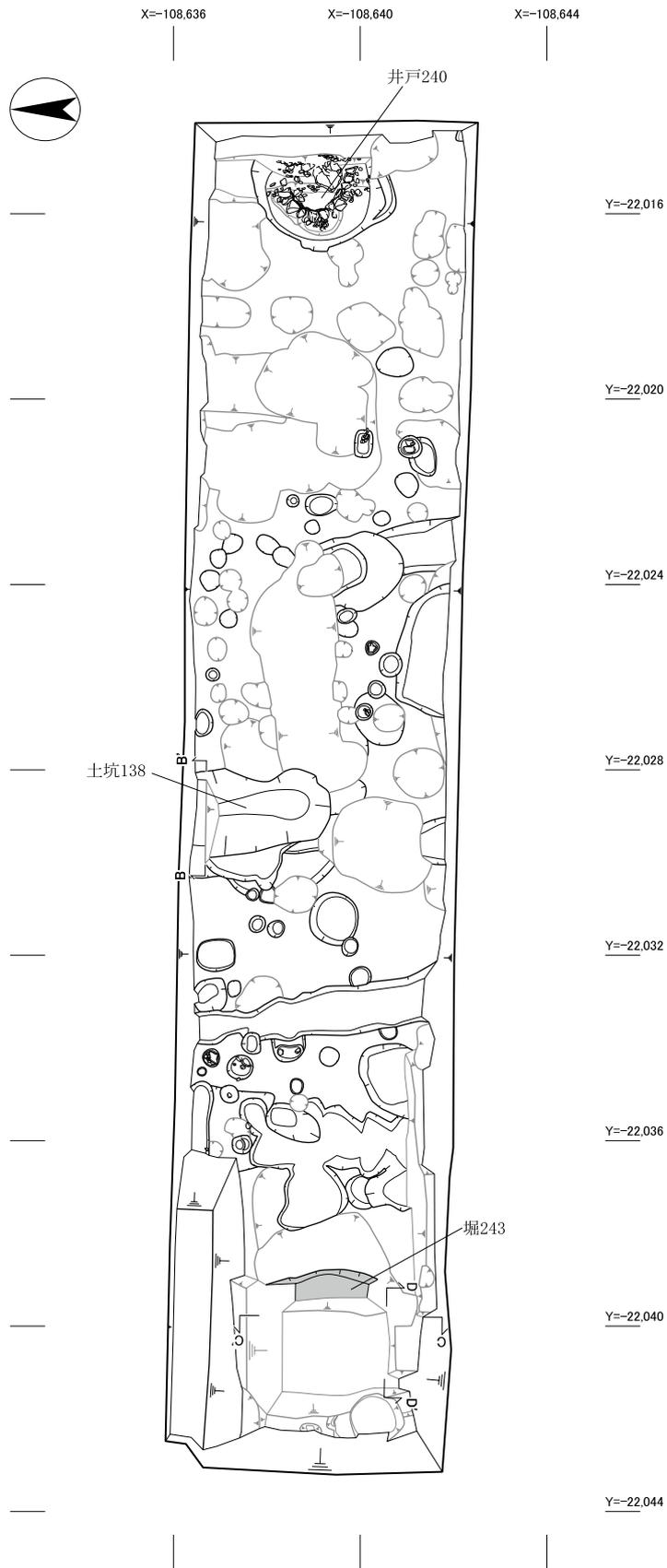
圖 版



※ A-A'は図9に対応・D-D'は図11に対応

1区第4面平面図 (1 : 150)

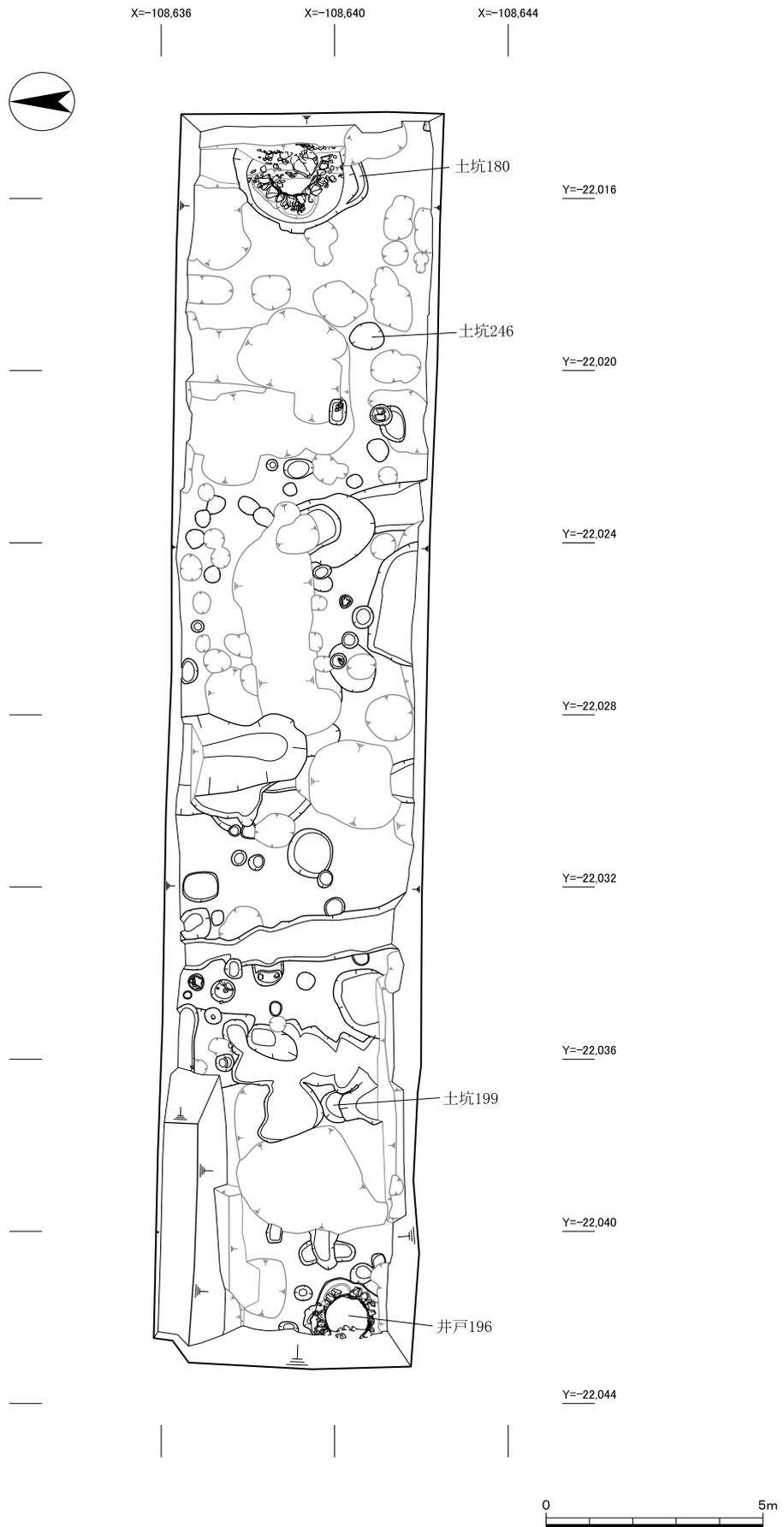
図版2
遺構



※ B-B'は図10、C-C'・D-D'は図11に対応

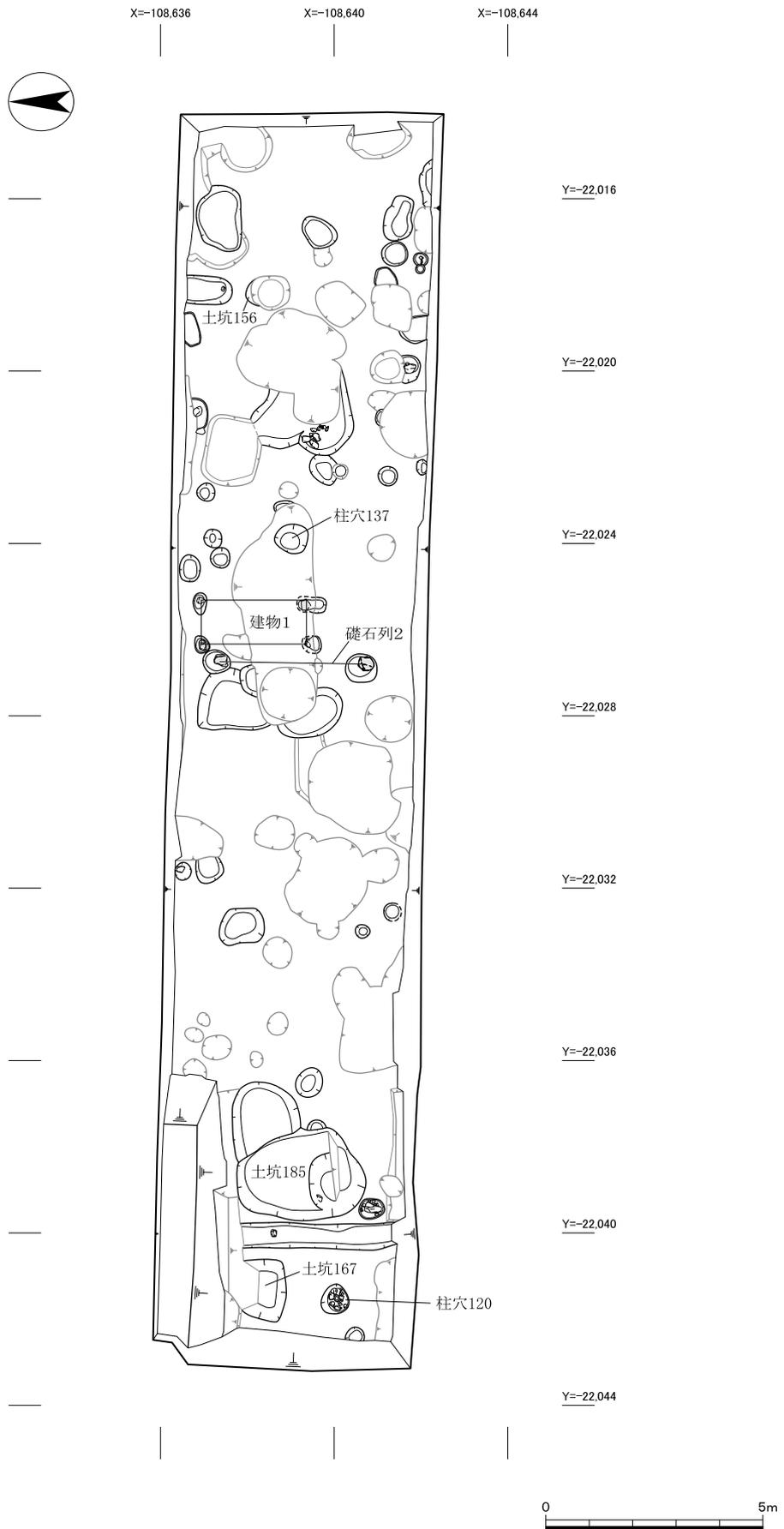


1区第3-b面平面図 (1 : 150)

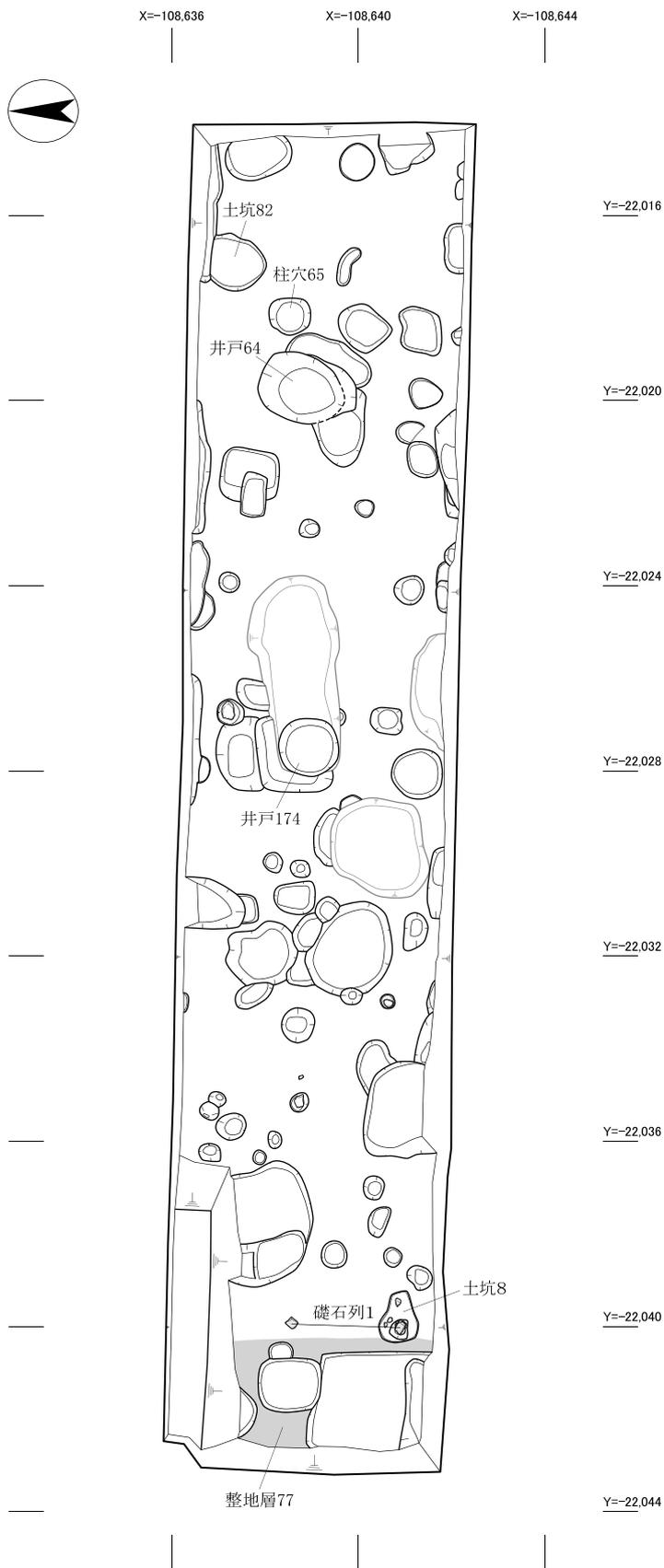


1区第3-a面平面図(1:150)

图版 4
遺構



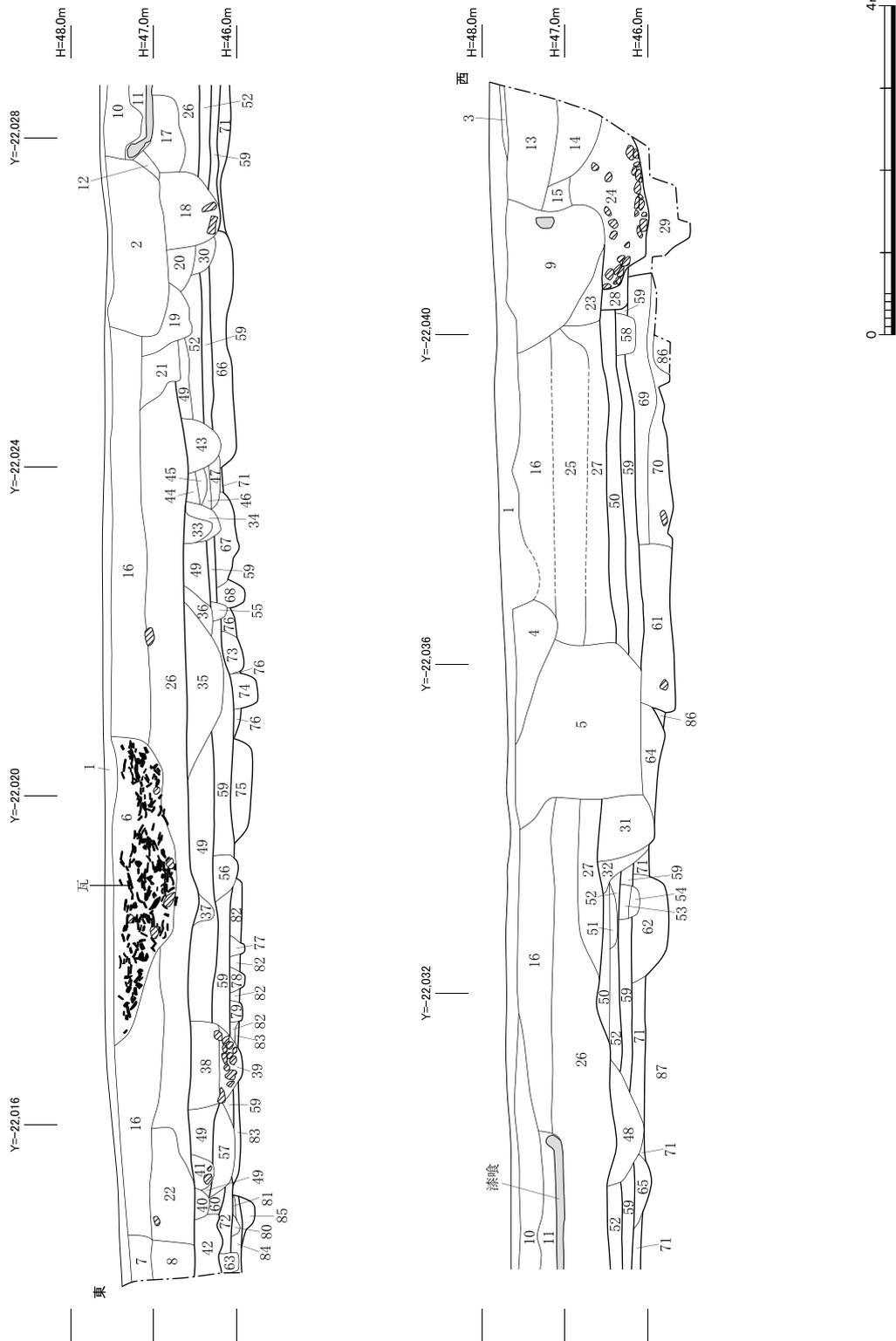
1区第2面平面图 (1 : 150)



1区第1面平面図 (1 : 150)

図版 6
遺構

1区南壁断面図1 (1:80)

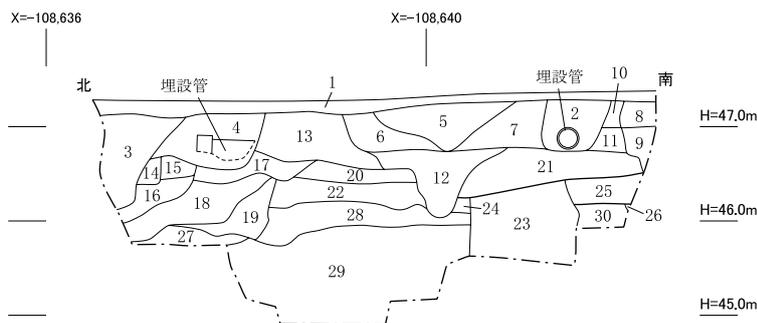


1 区南壁断面図2 (土層名)

1	現代盛土		
2	擾乱		
3	10YR2/2黒褐色 泥砂	漆喰少量混	
4	10YR2/2黒褐色 細砂	やや粘質、炭少量混	
5	7.5Y2/1黒色 中砂	φ 5~10cmの礫少量混	
6	10YR3/2黒褐色 細砂	φ 1~4cmの礫少量混、土器片・炭・漆喰少量混	
7	10YR3/2黒褐色 中砂	φ 2~5cmの礫少量混、土器片・炭・漆喰少量混	
8	5YR3/1黒褐色 細砂	やや粘質、φ 3~5cmの礫少量混、土器片・炭・漆喰少量混	
9	10YR2/2黒褐色 細砂	φ 3~6cmの礫少量混、土器片・炭・瓦・漆喰少量混、下に3cm厚の炭層微量	
10	10YR2/2黒褐色 細砂	φ 2~10cmの礫少量混、土器片・貝・針金微量混、炭・瓦・漆喰少量混	
11	10YR2/2黒褐色 細砂	φ 1~4cmの礫微量混、土器片・炭微量混 10YR5/6黄褐色 漆喰層あり	
12	10YR3/2~2/2黒褐色 細砂	φ 3~5cmの礫少量混、炭・漆喰・貝・金属少量混	
13	2.5Y3/1黒褐色 細砂	土器片・炭・漆喰少量混、瓦少量混	
14	10YR3/2黒褐色 細砂	φ 3cmの礫微量混、土器片・炭少量混	
15	10YR3/2黒褐色 中砂	φ 8~23cmの礫少量混(花崗岩あり)、底面に焼土・炭混(江戸時代後期整地層)	
16	7.5YR3/3暗褐色 細砂	φ 2~7cmの礫中量混、土器片・瓦・漆喰・金属少量混	
17	10YR4/3にふい黄褐色 細砂	φ 2~7cmの礫中量混、底部にφ 20cmの石2つあり、土器片・炭・漆喰微量混	
18	7.5YR3/3暗褐色 細砂	φ 1~4cmの礫少量混	
19	7.5YR3/3暗褐色 細砂	φ 4~13cmの礫少量混、土器片・炭・漆喰微量混	
20	10YR3/2黒褐色 細砂	砂礫混、φ 3~7cmの礫中量混、土器片・炭微量混	
21	10YR3/2黒褐色 中砂	やや粘質、φ 3~10cmの礫少量混	
22	10YR3/3暗褐色 中砂	やや粘質、φ 3~5cmの礫少量混	
23	10YR3/2黒褐色 中砂	やや粘質、φ 3~5cmの礫少量混、土器片・炭少量混	
24	10YR3/3暗褐色 砂礫	φ 10~14cmの礫の五層(掘り込み地床、蔵の基礎か)	
25	7.5YR3/3暗褐色 細砂	やや粘質、φ 2~4cmの礫少量混、土器片・瓦微量混、炭少量混	
26	10YR3/3暗褐色 細砂	φ 2~4cmの礫少量混、土器片・炭・漆喰微量混、下に10YR4/4褐色シルト中量混	(江戸時代 洪水堆積物)
27	10YR3/3暗褐色 細砂	φ 2~4cmの礫微量混、漆喰微量混、炭層少量混	
28	7.5YR5/6明褐色 細砂	φ 3~5cmの礫微量混、土器片・炭微量混、漆喰少量混(整地層77)	
29	10YR3/3暗褐色 細砂	やや粘質、φ 3~8cmの礫微量混、炭少量混、貝微量混	
30	10YR3/3暗褐色 細砂	φ 1cm未満の礫少量混、土器片微量混	
31	7.5YR3/2黒褐色 細砂	φ 3~5cmの礫少量混、土器片微量混	
32	10YR4/3にふい黄褐色 細砂	φ 1cm未満の礫少量混、土器片微量混	
33	10YR3/2黒褐色 細砂	φ 3~5cmの礫中量混、土器片・炭微量混	
34	10YR3/2黒褐色 中砂	やや粘質、φ 2~4cmの礫微量混、土器片微量混	(土坑)
35	10YR3/3暗褐色 細砂	φ 2~12cmの礫中量混、土器片・炭微量混、漆喰少量混	
36	10YR3/3暗褐色 細砂	φ 1cm未満の礫少量混、土器片微量混、上に2cmの10YR3/4にふい黄褐色粘質土、下に底部に10YR2/2黒褐色細砂ブロック混	
37	7.5YR3/3暗褐色 細砂	φ 1cm未満の礫少量混、土器片・炭微量混(柱穴)	
38	7.5YR3/3暗褐色 細砂	φ 1cm未満の礫少量混	
39	10YR3/3暗褐色 細砂	φ 3~14cmの礫少量混	
40	10YR3/3暗褐色 細砂	φ 2~5cmの礫中量混	
41	10YR3/2黒褐色 細砂	土器片少量混、炭微量混、下位底部にφ 12cmの石あり(土坑)	
42	10YR4/3にふい黄褐色 中砂	φ 4cmの礫微量混、土器片・炭微量混	
43	10YR3/3暗褐色 細砂	粘質、φ 3cmの礫微量混、土層に10YR5/8黄褐色粘土・ブロック少量混、土器片・炭微量混(土坑)	
44	10YR3/3暗褐色 細~中砂	φ 1~3cmの礫微量混、7.5YR4/6褐色ブロック微量混	
45	10YR4/4褐色 細砂	やや粘質、φ 1cm未満の礫微量混、土器片・7.5YR4/6褐色ブロック微量混	(土坑)
46	10YR3/2黒褐色 細砂	土器片・炭微量混	
47	7.5YR4/6褐色 粘質土	φ 2~3cmの礫微量混	
48	10YR4/4褐色 細砂	φ 3~7cmの礫少量混、炭・瓦微量混	
49	10YR3/2黒褐色 細砂	やや粘質、φ 1cm未満の礫少量混、土器片微量混	
50	10YR3/3暗褐色 細砂	φ 2~6cmの礫少量混、土器片・炭微量混	(江戸時代 前期整地層1)
51	7.5YR3/3暗褐色 細砂	φ 2cmの礫微量混、土器片微量混	
52	10YR3/2黒褐色 細~中砂	やや粘質、φ 2~4cmの礫微量混、土器片微量混、土器片微量混(江戸時代前期整地層1)	
53	2.5Y3/2黒褐色 細~中砂	やや粘質、φ 3~10cmの礫少量混、土器片微量混、炭少量混	
54	10YR2/1黒色 シルト(土坑)		
55	10YR3/2黒褐色 細砂	土器片・炭微量混	
56	10YR3/3暗褐色 細砂	φ 2~13cmの礫中量混、炭少量混、10YR4/4褐色ブロック混(柱穴)	
57	10YR3/3暗褐色 細~中砂	φ 1~3cmの礫微量混、土器片・炭微量混(土坑)	
58	10YR3/2黒褐色 中砂	φ 1cm未満の礫中量混(溝)	
59	10YR3/2黒褐色 細砂	φ 2~5cmの礫微量混、土器片・炭微量混(江戸時代前期整地層2)	
60	10YR3/3暗褐色 中砂	やや粘質、φ 1~3cmの礫微量混、土器片・炭微量混	
61	10YR3/2黒褐色 泥砂	φ 3~5cmの礫微量混、φ 12cmの石あり、土器片・炭微量混	
62	10YR3/3暗褐色 細砂	やや粘質、φ 3~7cmの礫微量混、土器片・炭微量混	
63	2.5Y3/2黒褐色 細砂	やや粘質、土器片微量混(柱穴)	
64	10YR3/2黒褐色 中砂	φ 2~5cmの礫微量混、土器片・炭微量混(土坑)	
65	10YR3/3暗褐色 細砂	φ 3cmの礫微量混、土器片・炭・瓦微量混	
66	10YR3/3暗褐色 細砂	φ 2~4cmの礫微量混、土器片・炭微量混(土坑)	
67	10YR3/2~2/2黒褐色 細~中砂	φ 1cm未満の礫微量混、土器片少量混、炭微量混(土坑)	
68	2.5Y3/2黒褐色 細砂	粘質、φ 2cmの礫微量混、土器片微量混(柱穴)	
69	10YR3/2黒褐色 細砂	粘質、φ 2~7cmの礫少量混、土器片・炭微量混	
70	7.5YR3/3暗褐色 細砂	φ 3~5cmの礫微量混、土器片・炭微量混	
71	10YR3/2黒褐色 細砂	φ 1cm未満の礫少量混、土器片・炭微量混	
72	10YR3/3~3/4暗褐色 粘土	炭・7.5YR4/6褐色ブロック微量混	(室町時代整地層)
73	10YR3/2黒褐色 細~中砂	やや粘質、φ 3~7cmの礫微量混、土器片少量混、炭微量混(柱穴)	
74	7.5YR3/3暗褐色 細砂	やや粘質、φ 1~4cmの礫少量混、土器片・炭微量混(柱穴)	
75	10YR3/2黒褐色 中砂	シルト混、φ 3~10cmの礫少量混、10YR4/4褐色細砂ブロック少量混、土器片・炭微量混(溝153)	
76	10YR3/3暗褐色 細砂	やや粘質、土器片少量混、炭微量混(溝171)	
77	10YR3/2黒褐色 細砂	土器片少量混、炭微量混(柱穴)	
78	10YR3/2黒褐色 細砂	土器片少量混、炭微量混(柱穴)	
79	10YR3/3暗褐色 細砂	土器片少量混、炭微量混(柱穴)	
80	10YR3/3暗褐色 粗砂	φ 3~7cmの礫多量混	(土坑)
81	5YR4/6赤褐色 粘土		
82	10YR3/4暗褐色 粘質土	φ 3~6cmの礫微量混、土器片微量混	(土坑)
83	10YR3/3暗褐色 細砂		
84	7.5YR4/4褐色 粘土	(平安時代整地層)	
85	7.5YR4/4褐色 粘土	φ 2~4cmの礫微量混(土坑268)	
86	2.5Y5/6黄褐色 細砂		
87	10YR4/4褐色 中砂	φ 3~15cmの礫多量混(基盤層)	

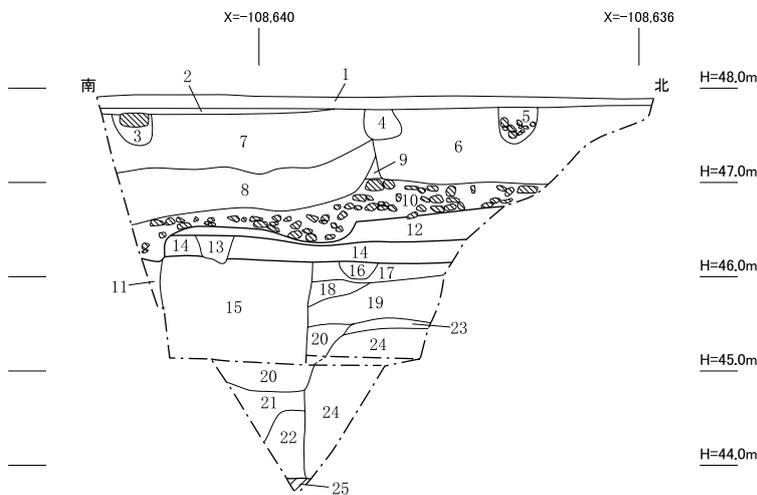
図版8 遺構

1区東壁



- | | |
|--|--|
| <p>1 現代盛土
2~4 攪乱
5 10YR5/4にぶい黄褐色 粗砂 (漆喰か)
φ2~8cmの礫少量混、土器片・炭・レンガ微量混
6 7.5YR2/2黒褐色 細砂 φ3~5cmの礫少量混、
土器片・炭・漆喰微量混
7 10YR3/2黒褐色 シルト φ3~6cmの礫多量混、
土器片・漆喰微量混、炭少量混、瓦中量混
8 10YR3/2黒褐色 中砂 φ2~5cmの礫中量混、
土器片・炭・漆喰微量混
9 5YR3/1黒褐色 細砂 やや粘質、φ3~5cmの礫微量混、
土器片・炭微量混
10 2.5Y3/2黒褐色 細砂 粗砂混、φ3~10cmの礫中量混、
土器片・炭・瓦・木片・コンクリ片少量混
11 10YR3/3暗褐色 中砂 φ3~10cmの礫少量混
12 10YR2/2黒褐色 細砂 φ3~7cmの礫中量混、土器片少量混、
炭・瓦微量混
13 10YR3/2黒褐色 中砂 φ2~14cmの礫少量混、
土器片・炭・漆喰ブロック少量混
14 7.5YR3/3暗褐色 粘質土 φ2cmの礫少量混、土器片・炭微量混
15 10YR3/2黒褐色 砂礫 φ3~9cmの礫少量混
16 10YR3/2黒褐色 細砂 やや粘質、φ2~5cmの礫少量混、
10YR4/4褐色ブロック微量混</p> | <p>17 10YR3/4暗褐色 粘質土 炭・5YR4/6赤褐色土少量混
18 10YR3/2黒褐色 細砂 やや粘質、φ2~8cmの礫少量混、
土器片・炭微量混 (土坑)
19 7.5YR3/3暗褐色 中砂 やや粘質、φ2~4cmの礫少量混、
土器片・炭微量混 (土坑)
20 10YR3/2黒褐色 細砂 やや粘質、粗砂混、φ2~6cmの礫少量混
21 10YR3/3暗褐色 細~中砂 φ2~4cmの礫少量混、
土器片・炭・漆喰微量混、下に10YR4/4褐色シルトブロック中量混
22 10YR3/3暗褐色 細砂 やや粘質、φ3~7cmの礫微量混、
土器片・炭・10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック微量混
23 10YR3/3暗褐色 細砂 φ2~4cmの礫微量混、土器片・炭微量混 (土坑)
24 10YR3/2黒褐色 細砂 φ5~18cmの礫中量混、土器片微量混、
瓦片少量混
25 10YR4/3にぶい黄褐色~4/4褐色 粘質土 φ4cmの礫微量混、
土器片・炭微量混
26 2.5Y3/2黒褐色 細砂 やや粘質、土器片微量混 (柱穴)
27 2.5Y3/2黒褐色 細砂 やや粘質、φ3~8cmの礫微量混、
10YR4/4褐色粘土ブロック少量混 (土坑)
28 7.5YR3/3暗褐色 細砂 やや粘質、φ3~11cmの礫微量混、
土器片・炭・瓦微量混、下層に10YR5/4にぶい黄褐色粘質土多量混
29 井戸240
30 7.5YR4/4褐色 粘土 (平安時代整地層)</p> |
|--|--|

1区西壁

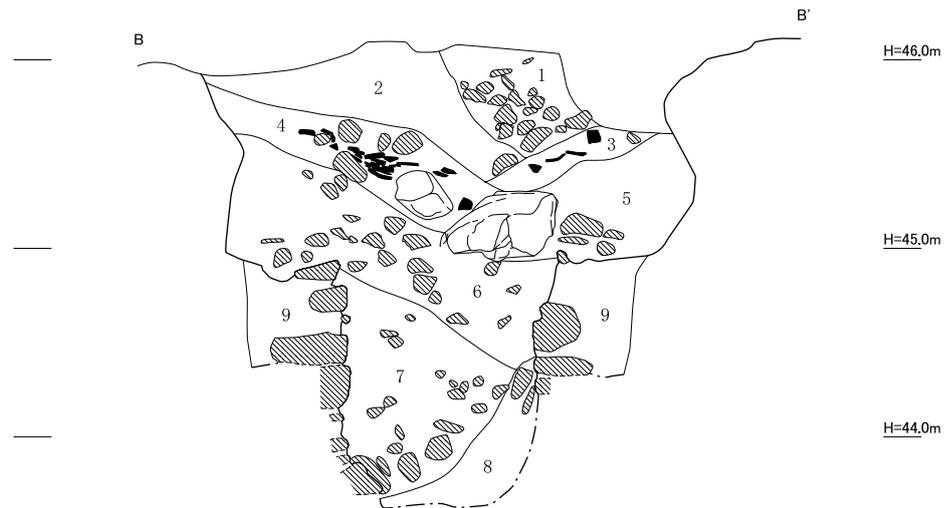
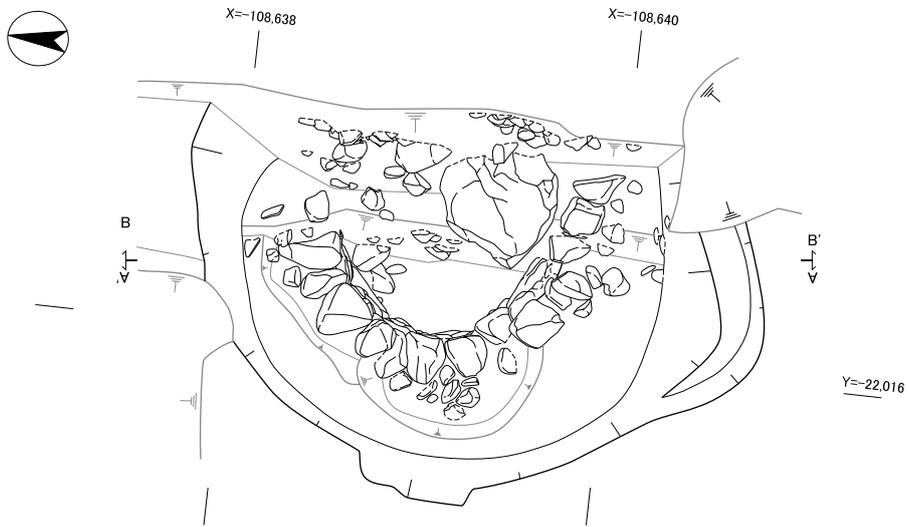
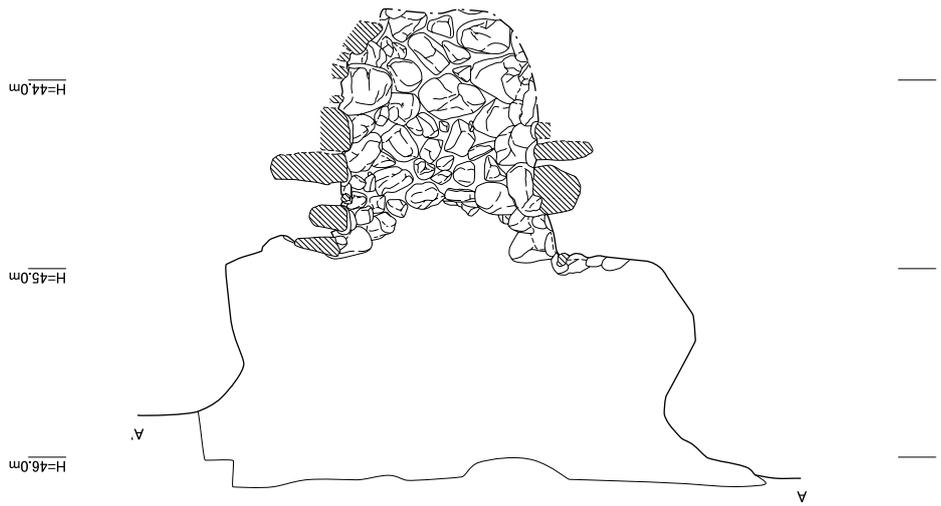


- | | |
|--|---|
| <p>1 現代盛土
2 10YR2/2黒褐色 泥砂 漆喰少量混
3 10YR4/2灰黄褐色 コンクリートブロック 土器片・炭微量混
4 7.5Y2/1黒色 中砂 φ5~10cmの礫多量混
5 10YR3/2黒褐色 粗砂 φ3~5cmの礫多量混
6 10YR3/2黒褐色 細砂 やや粘質、φ3~8cmの礫少量混、
漆喰微量混
7 2.5Y3/1黒褐色 細砂 やや粘質、土器片・炭・漆喰少量混、
瓦多量混
8 10YR2/2黒褐色 細砂 土器片・炭・瓦中量混、漆喰少量混
9 10YR3/3暗褐色 細砂 やや粘質、φ2~4cmの礫少量混
10 10YR3/3暗褐色 砂礫とφ10~14cmの礫の互層
11 10YR3/3暗褐色 泥砂 やや粘質、φ3~8cmの礫微量混、
炭少量混、貝微量混
12 7.5YR5/6明褐色 細砂 φ3~5cmの礫微量混、
土器片・炭微量混、漆喰少量混 (整地層77)</p> | <p>13 10YR3/2黒褐色 泥砂 φ3cmの礫微量混、炭少量混 (柱穴)
14 10YR3/2黒褐色 細砂 φ3~5cmの礫少量混、土器片・炭微量混
15 井戸196
16 10YR4/4褐色 細砂 シルト混、φ2~5cmの礫中量混、炭微量混
17 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト φ1cm未満の礫少量混
18 10YR5/4にぶい黄褐色 細砂 φ3~4cmの礫微量混、炭微量混
19 10YR3/3暗褐色 細砂 φ2~5cmの礫微量混、土器片・炭微量混
20 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 砂礫混、φ4cmの礫微量混
21 10YR3/3暗褐色 細~中砂 φ4cmの礫中量混、土器片・炭微量混
22 2.5Y3/2黒褐色 泥砂 φ3~5cmの礫微量混、下にφ20cmの石
23 10YR3/3暗褐色 粗砂 φ2~6cmの礫多量混
24 7.5YR3/3暗褐色 細~中砂 φ3~12cmの礫少量混、
10YR4/4褐色ブロック少量混
25 10YR4/4褐色 細砂 φ5cm以下の礫中量混 (基盤層)</p> |
|--|---|

堀243



1区東壁・西壁断面図 (1:80)

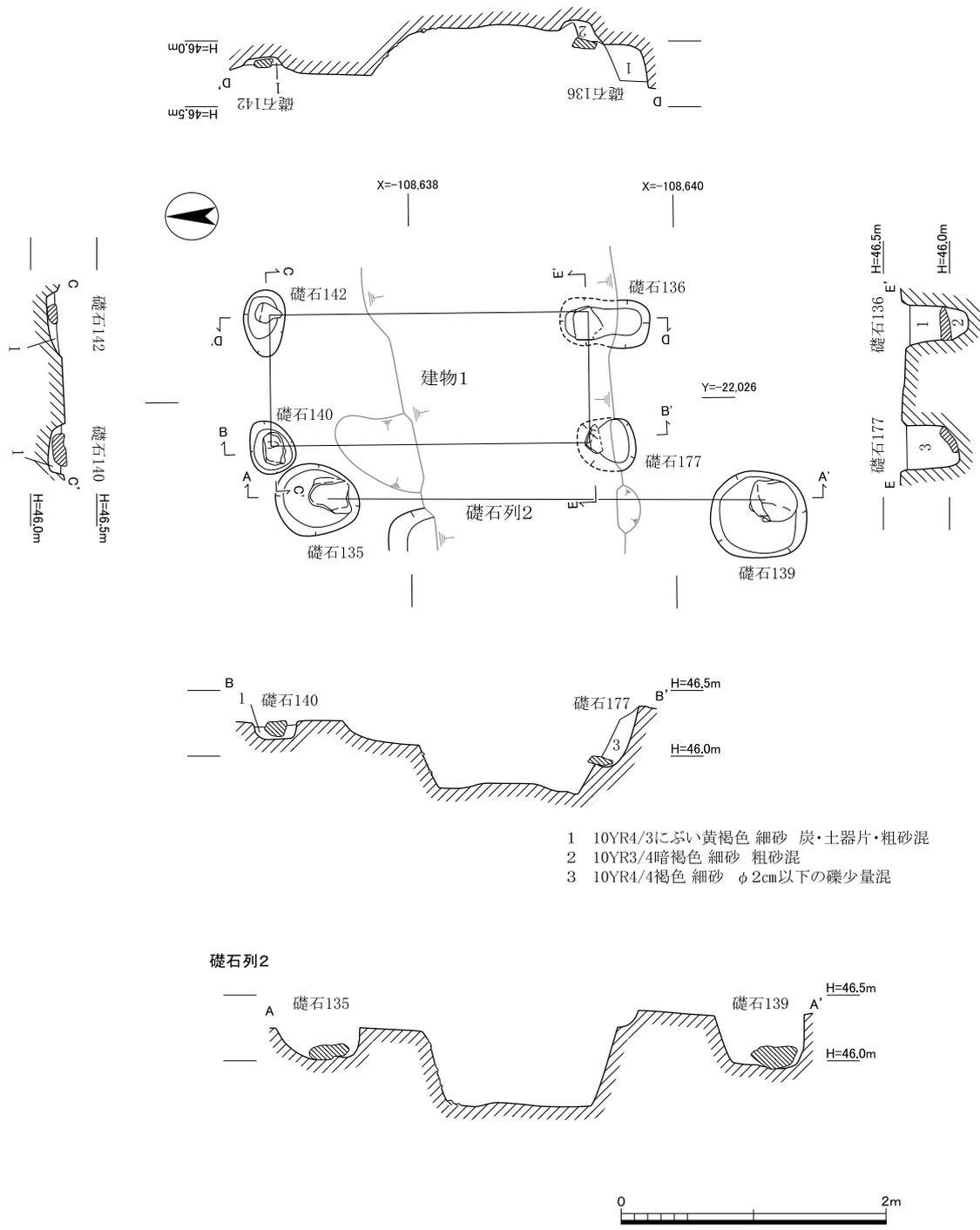


- | | |
|---------------------------------|---------------------------------------|
| 1 10YR4/6褐色 中～細砂 φ3～20cmの礫多量混 | 6 10YR3/2黒褐色 中砂 φ1～15cmの礫多量混 |
| 2 10YR3/3暗褐色 細砂 φ1～16cmの礫微量混 | 7 7.5YR3/4暗褐色 粗砂～中砂 φ3～30cmの礫多量 |
| 3 10YR4/4褐色 細砂 φ1～5cmの礫、土器片少量混 | 8 7.5YR3/2黒褐色 中～粗砂 φ1～20cmの礫少量混 |
| 4 10YR4/6褐色 細砂 φ1～30cmの礫、土器片多量混 | 9 10YR2/3黒褐色 粗砂 φ2～10cmの礫中量混、土器片・炭微量混 |
| 5 10YR3/2黒褐色 細砂 φ1～20cmの礫少量混 | |

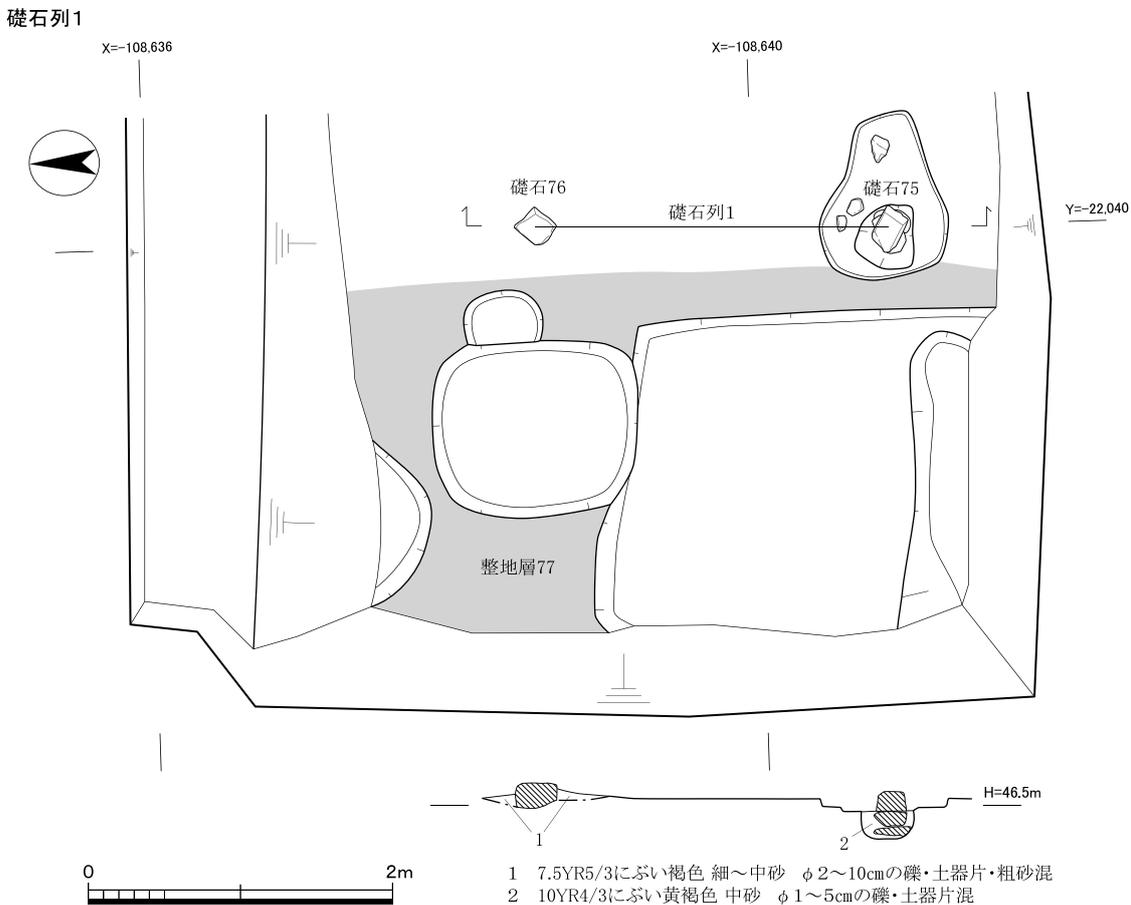
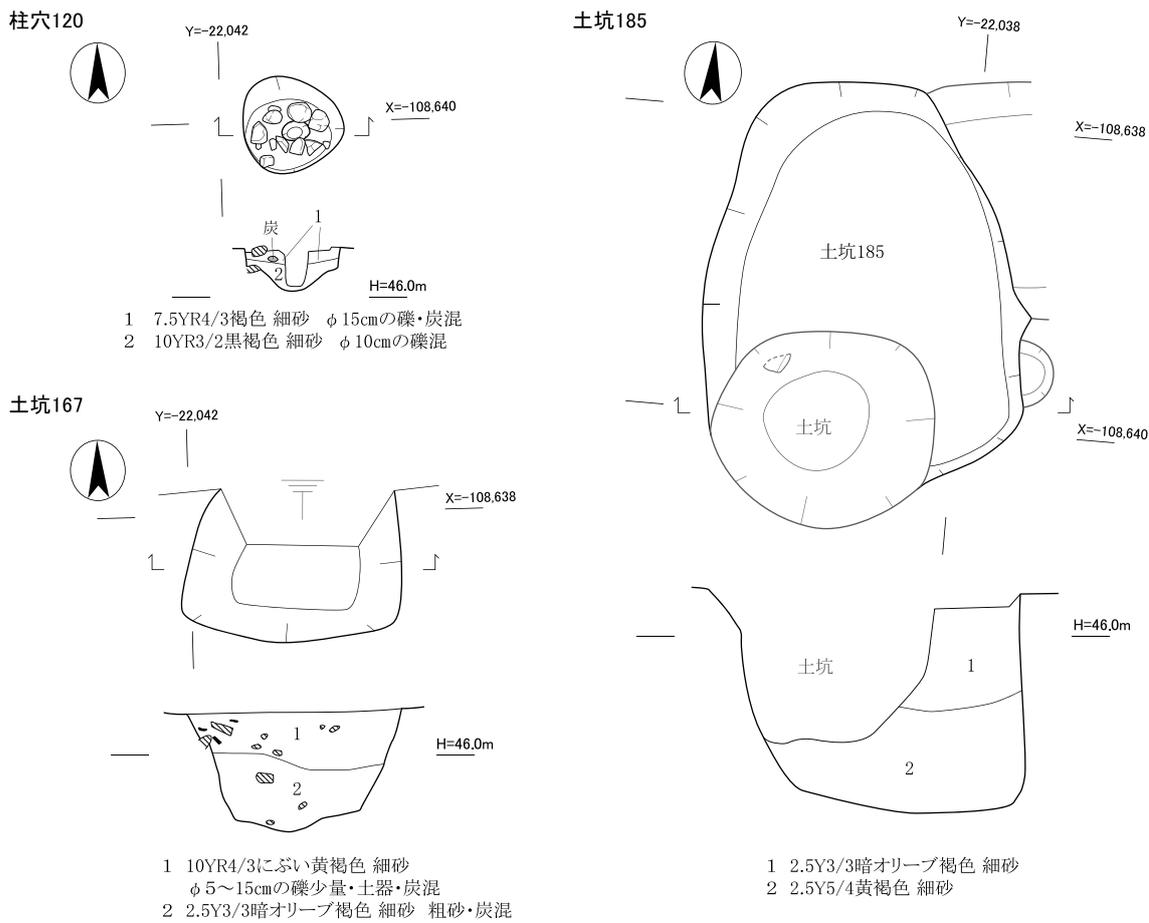


井戸240実測図 (1 : 40)

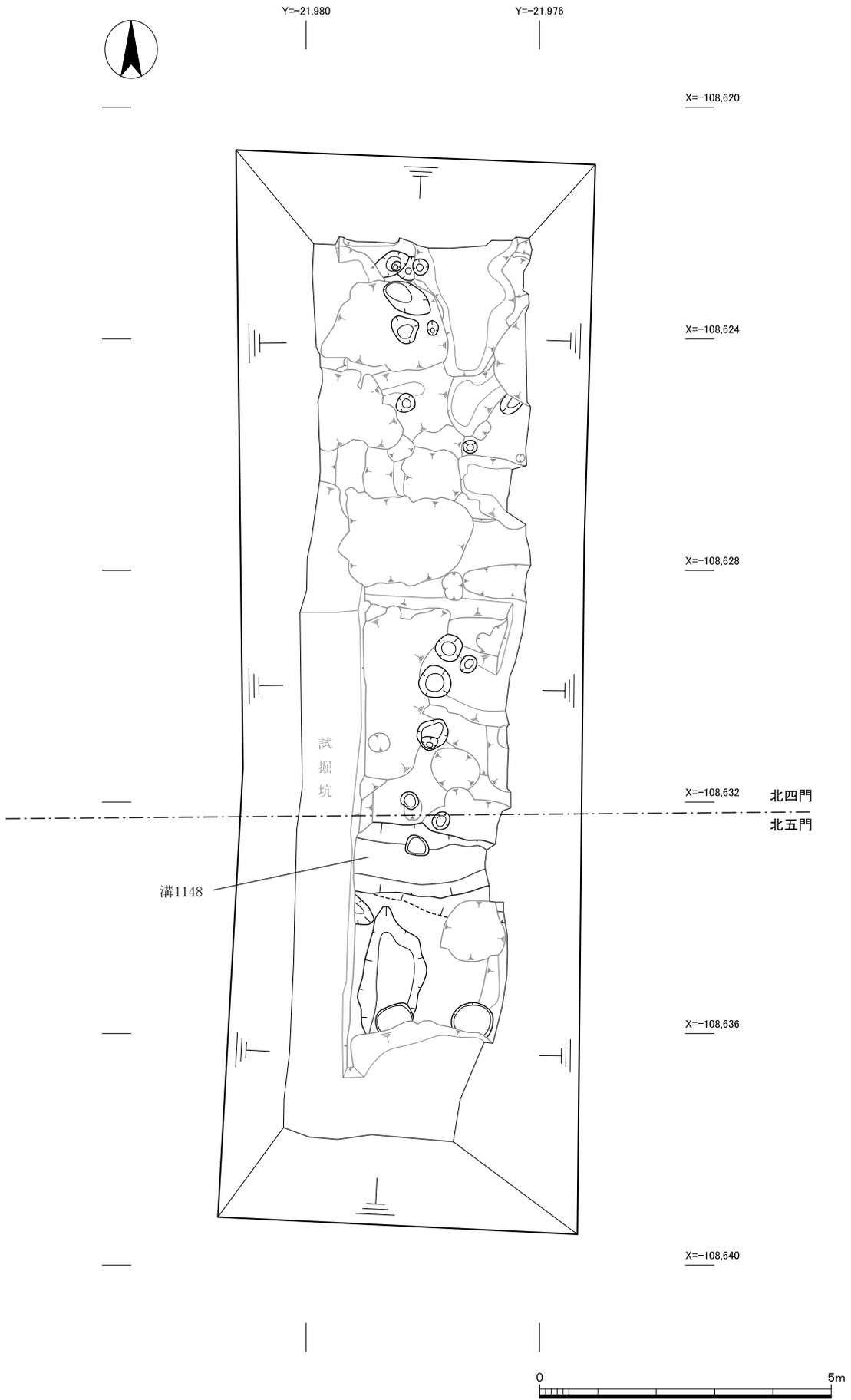
図版 10
遺構



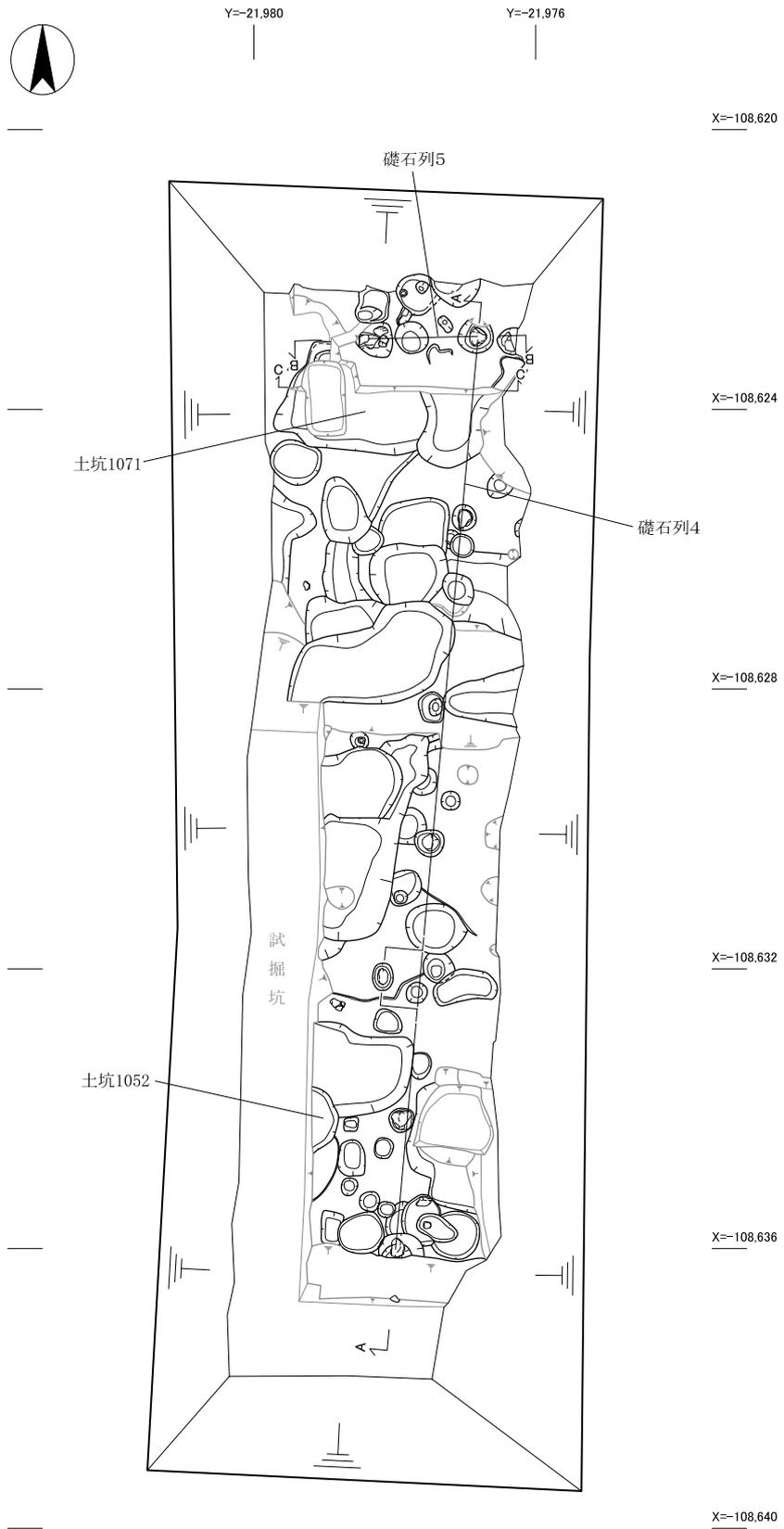
礎石列2、建物1実測図 (1 : 50)



柱穴120、土坑167・185、礎石列1 実測図 (1 : 50)

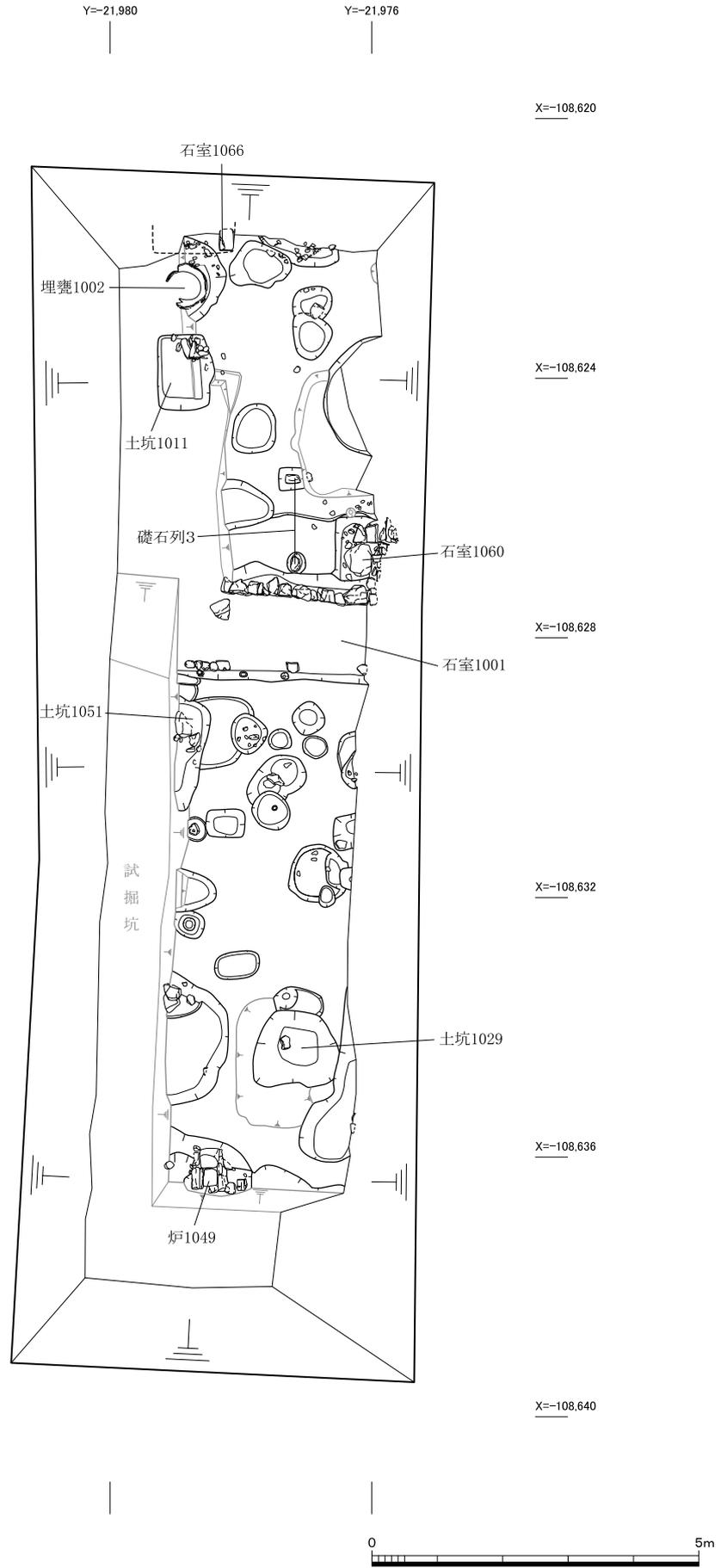


2区第3面平面図 (1 : 100)

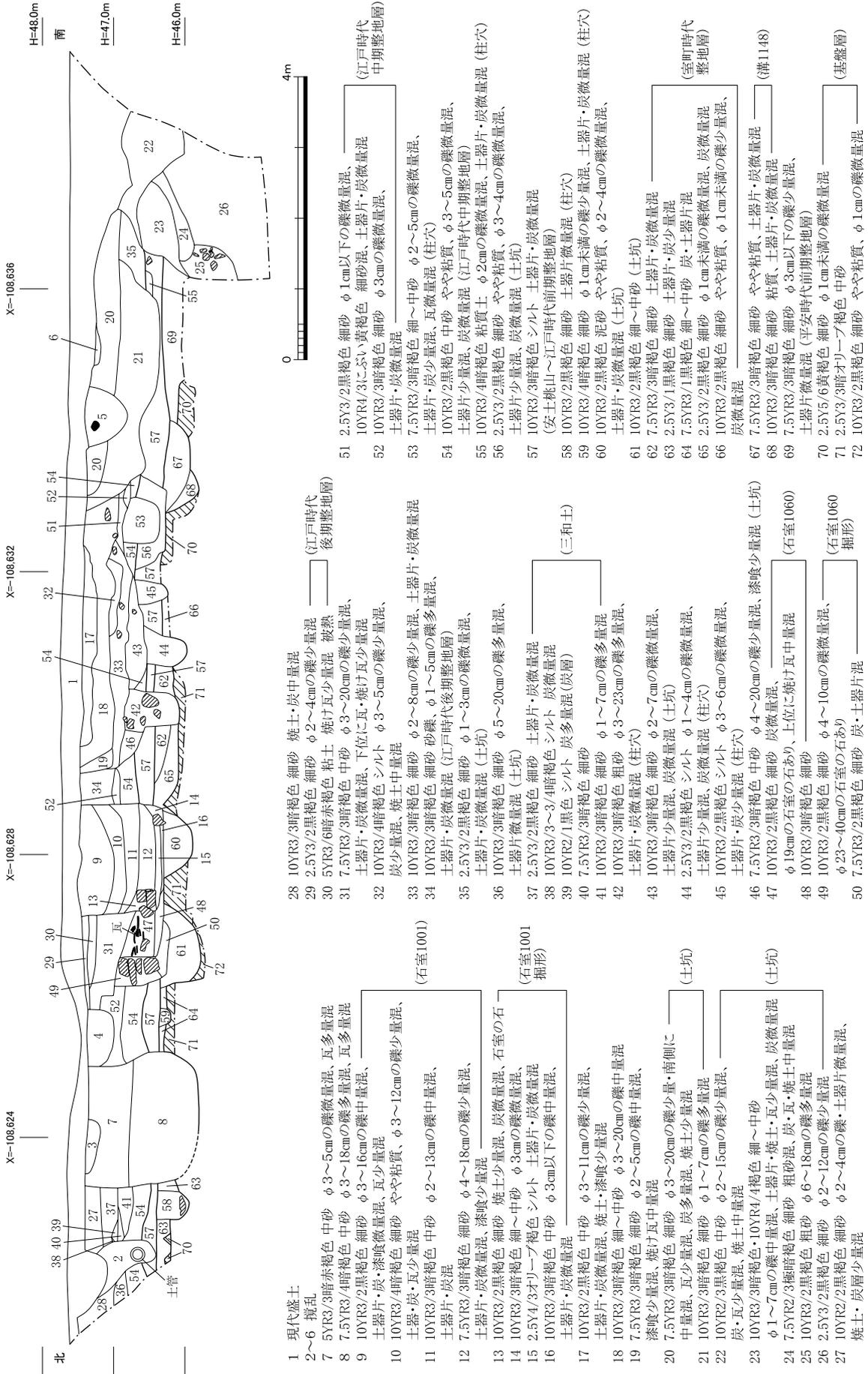


※ A-A'・B-B'・C-C'は図13に対応

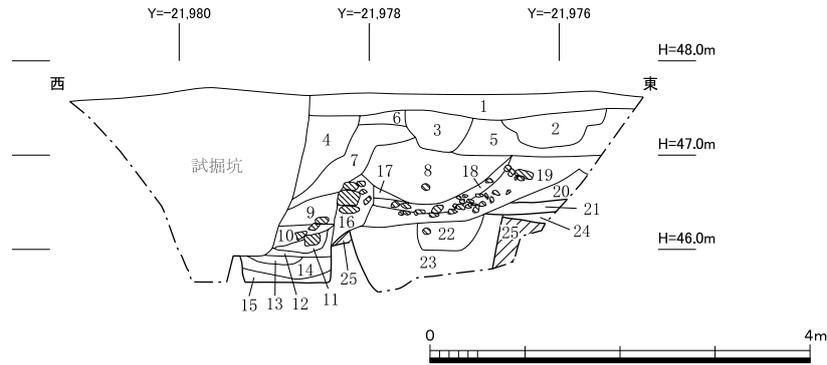
2区第2面平面図 (1 : 100)



2区第1面平面图 (1 : 100)

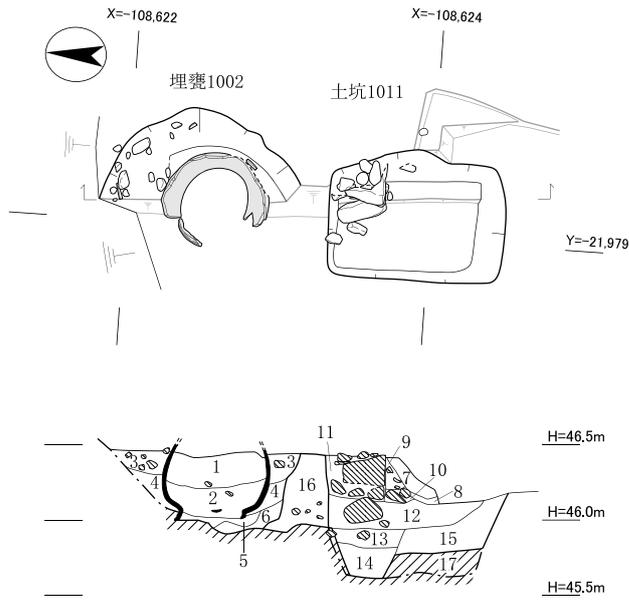


2区東壁断面図 (1:80)



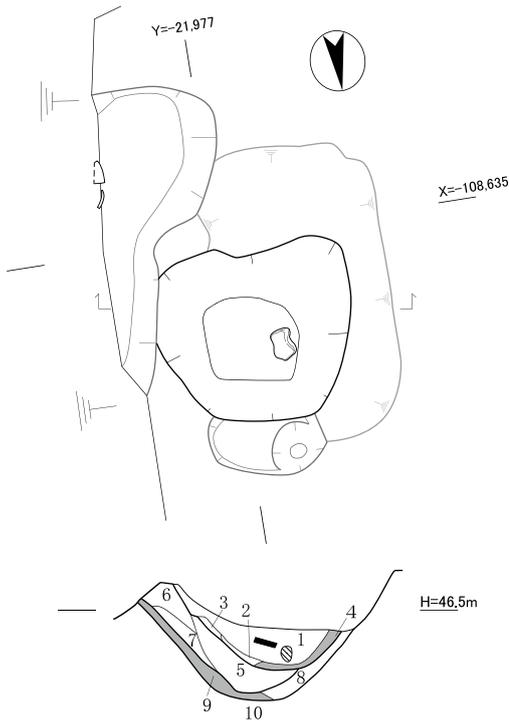
- 1 現代盛土
- 2 攪乱
- 3 10YR3/2黒褐色 細～中砂 φ3～16cmの礫微量混、下位に5YR4/8赤褐色細砂少量混、底部に3cm厚の炭層あり
- 4 10YR3/3暗褐色 細砂 φ3～6cmの礫少量混、上部に焼土中量混、炭少量混
- 5 10YR3/3暗褐色 細砂 φ5～12cmの礫少量混、焼土・炭中量混
- 6 7.5YR5/6明褐色 中砂 φ4～10cmの礫少量混、焼土多量混、底部に炭中量混
- 7 10YR3/4暗褐色 中砂 φ3～8cmの礫少量混、土器片少量混、炭・漆喰微量混
- 8 10YR3/2黒褐色 中砂 φ2～5cmの礫少量混、土器片・炭少量混
- 9 10YR3/3暗褐色 細砂 φ3～6cmの礫少量混、土器片・炭・漆喰ブロック少量混
- 10 10YR3/2黒褐色 細砂 やや粘質、φ3～7cmの礫少量混、土器片微量混、炭少量混
- 11 10YR2/2黒褐色 細砂 粘質、炭少量混、漆喰微量混
- 12 10YR3/2黒褐色 細砂 土器片少量混、炭中量混 (石室1066)
- 13 2.5Y3/2黒褐色 細砂 φ1cm未満の礫少量混、土器片・炭微量混
- 14 10YR3/2黒褐色 細砂 φ1cm未満の礫微量混、土器片・炭微量混
- 15 10YR2/2黒褐色 細砂 やや粘質、炭微量混
- 16 10YR3/3暗褐色 泥砂 φ6～20cmの礫多量混、土器片・炭微量混、花崗岩混(石室1066掘形)
- 17 10YR3/2黒褐色 細砂 φ3cmの礫微量混、土器片・炭微量混
- 18 10YR4/2灰黄褐色 細砂 φ5～20cmの礫多量混 (土坑)
- 19 10YR3/3暗褐色 細砂 φ5～20cmの礫多量混、土器片微量混
- 20 10YR3/3暗褐色 中砂 φ2～4cmの礫少量混、土器片・炭微量混(江戸時代中期整地層)
- 21 10YR3/2黒褐色 シルト φ2～3cmの礫少量混、土器片・炭微量混(安土桃山～江戸時代前期整地層)
- 22 10YR3/3暗褐色 細砂 φ3cmの礫微量混、土器片少量混、炭微量混(土坑)
- 23 10YR3/3暗褐色 細砂 φ2～12cmの礫少量混、土器片少量混、炭微量混(土坑1071)
- 24 2.5Y3/1黒褐色 細砂 土器片・炭少量混(室町時代整地層)
- 25 2.5Y5/6黄褐色 細砂 φ1cm未満の礫微量混(基盤層)

埋甕1002、土坑1011



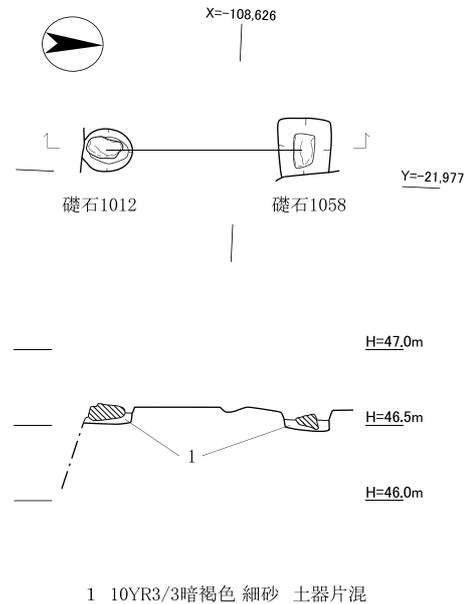
- 1 7.5YR2/3極暗褐色 細砂 焼土・瓦片混
 - 2 10YR2/2黒褐色 細砂 φ6cmの礫・土器片混
 - 3 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 中砂
φ4~10cmの礫多量混
 - 4 10YR3/2黒褐色 細砂
φ1~2cmの礫少量・土器片混
 - 5 10YR4/1褐灰色 泥砂 炭・焼土微量混、
やや粘質
 - 6 5Y5/6オリーブ色 細砂
 - 7 7.5YR6/8橙色 細砂 炭・瓦片混(焼土)
 - 8 7.5YR2/2黒褐色 細砂 炭混
 - 9 7.5YR3/2黒褐色 中~細砂
φ4cmの礫少量混
 - 10 10YR3/2黒褐色 細砂
φ15cm以下の礫多量混
 - 11 10YR4/2灰褐色 中~細砂
φ10cm以下の礫多量混
 - 12 10Y3/1オリーブ黒色 細砂 炭混、やや粘質
 - 13 2.5Y3/2黒褐色 中砂 φ8cmの礫・土器片混
 - 14 10YR4/1褐灰色 細~中砂
 - 15 10YR3/3暗褐色 細砂 土器片・炭混
 - 16 2.5Y4/1黄灰色 細砂 土器片・炭化物混(土坑1071)
 - 17 5Y6/6オリーブ色 細砂(基盤層)
- (埋甕1002)
- (土坑1011)
- (ピット)

土坑1029



- 1 5Y7/6黄色 細砂~シルト 土器片・炭化物混、やや粘質
- 2 2.5Y5/6黄褐色 細砂 炭混
- 3 7.5YR6/8橙色 焼土
- 4 N1.5/0黒色 炭
- 5 10YR4/1褐灰色 細砂 2.5Y7/4浅黄色細砂混
- 6 10YR5/2灰黄褐色 細砂 φ5mmの礫少量混
- 7 2.5Y6/6明黄褐色 細砂~シルト φ1cmの礫微量混
- 8 2.5Y5/1黄灰色 細砂 炭少量混
- 9 N1.5/0黒色 炭
- 10 2.5Y3/2黒褐色 中砂

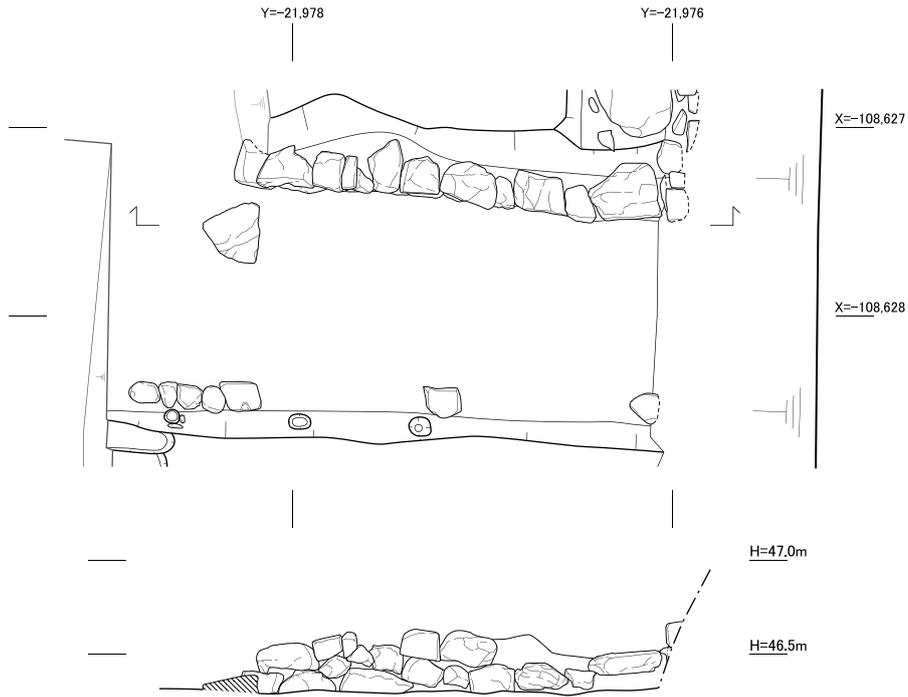
礎石列3



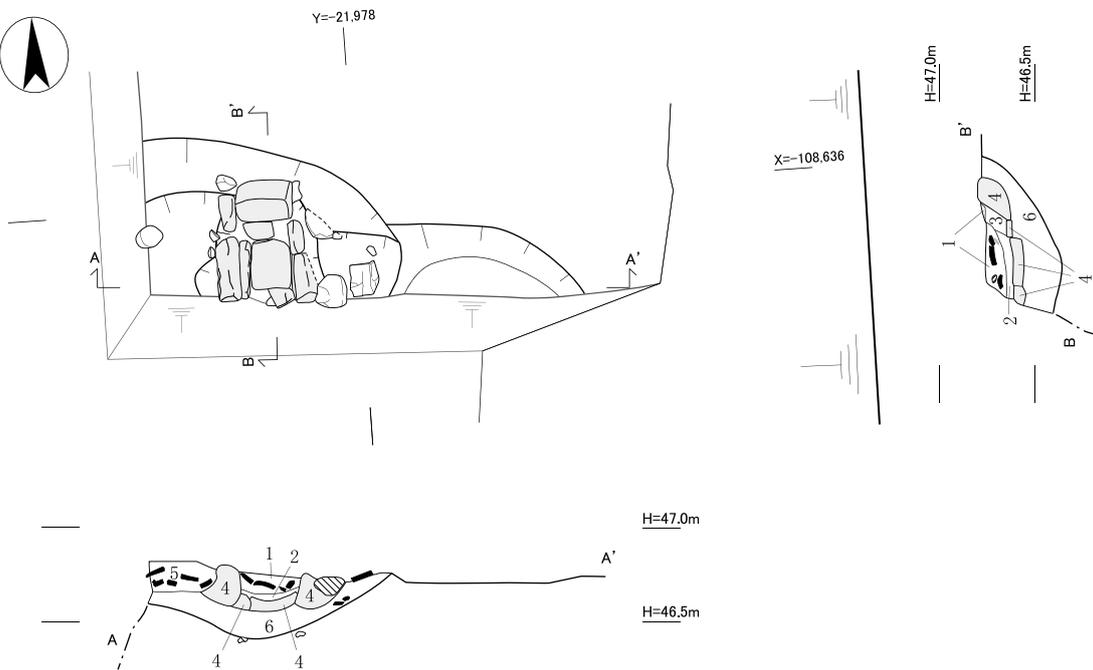
- 1 10YR3/3暗褐色 細砂 土器片混



石室1001



炉1049



- | | |
|------------------------------|------------------------------------|
| 1 10YR3/3暗褐色 細砂 瓦片・焼土混 | 4 10YR5/2灰黄褐色 中～細砂 固く焼け締まる(壁体) |
| 2 10YR3/1黒褐色 細砂 炭多量混、固く焼け締まる | 5 7.5YR7/1明褐灰色 中～細砂 瓦片・φ4～6cmの礫少量混 |
| 3 10YR4/6褐色 細砂 φ1cm以下の礫・炭化物混 | 6 5YR6/8橙色 細砂 φ3～5cmの礫少量混 |

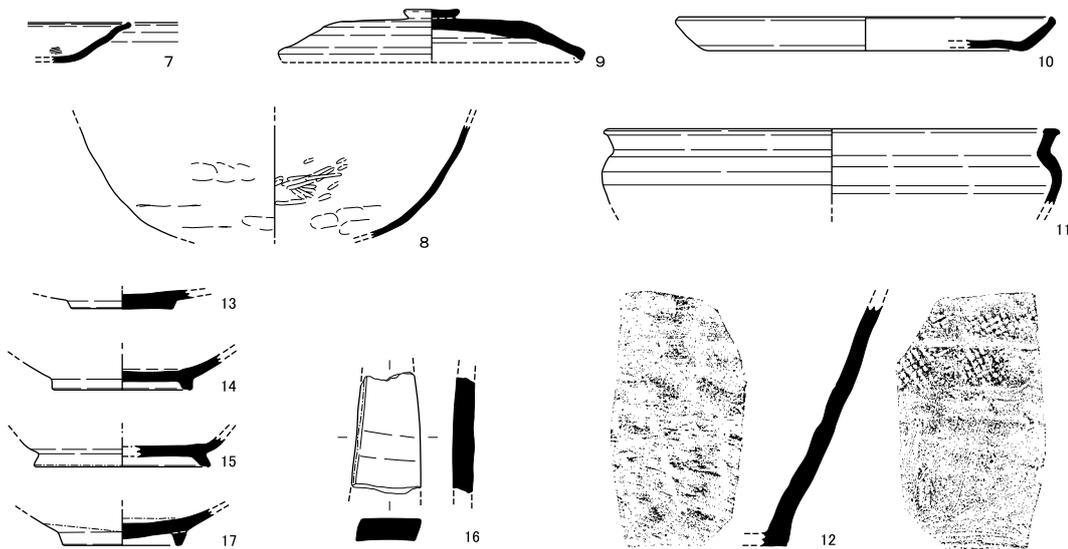


石室1001、炉1049実測図 (1 : 40)

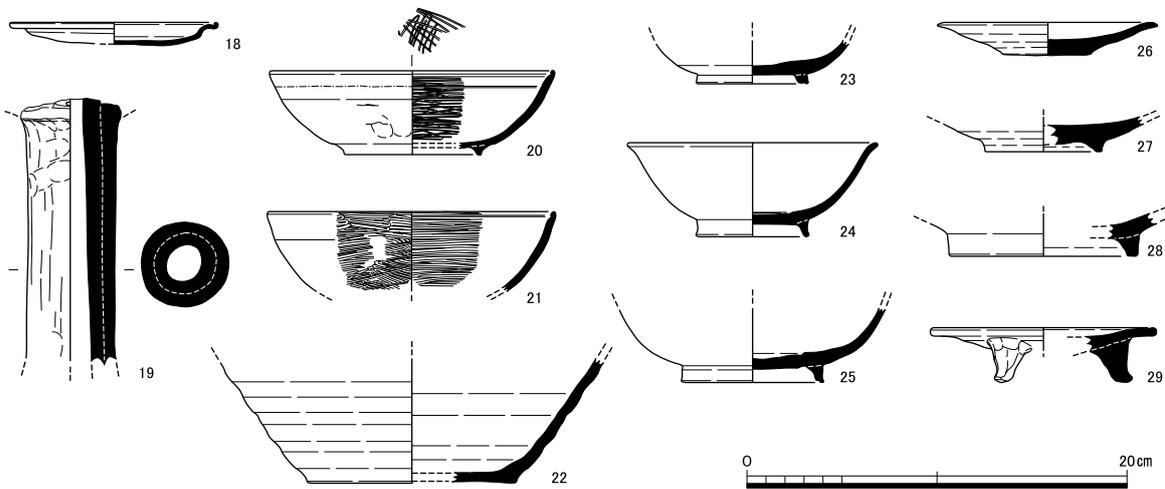
土坑268



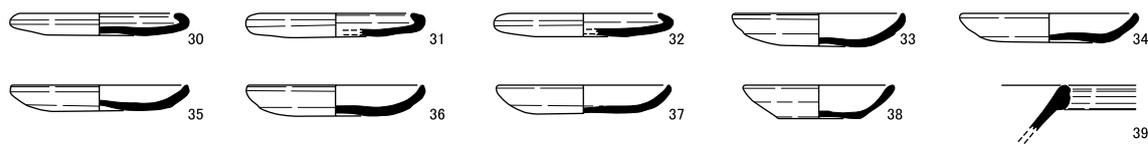
溝1148



溝171



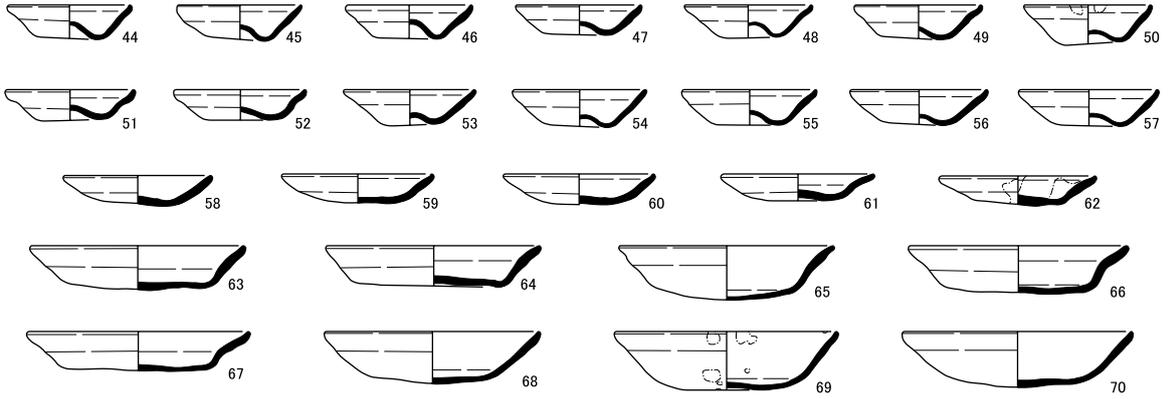
土坑274



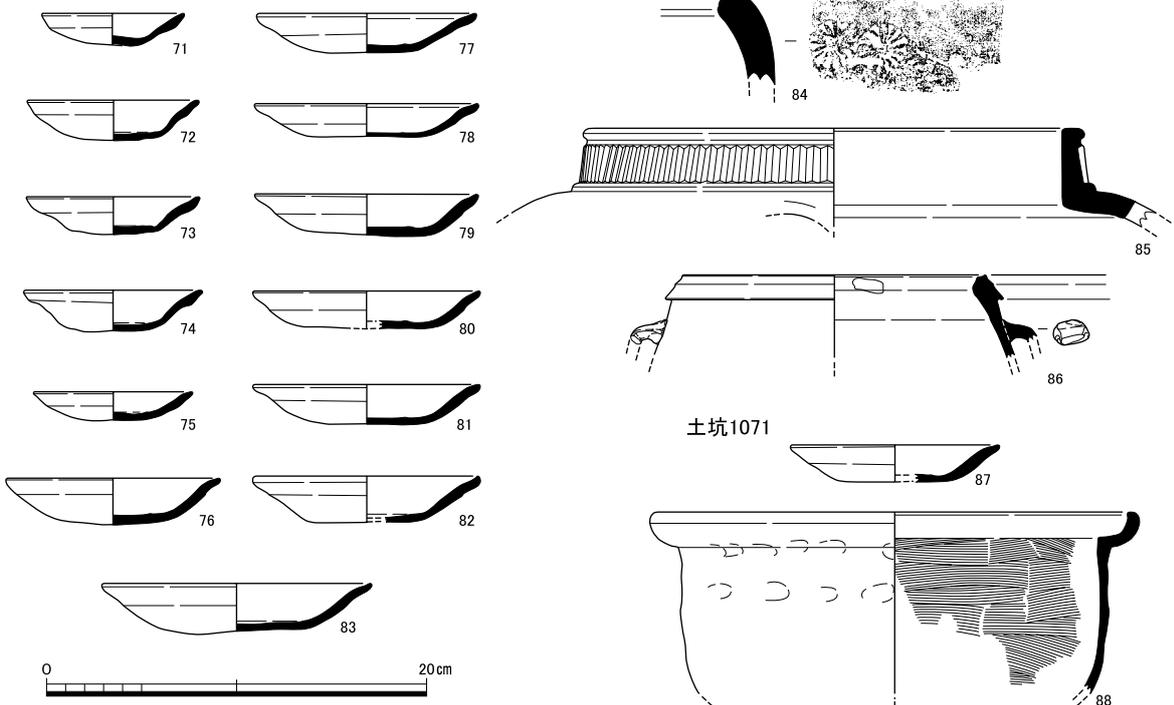
溝153



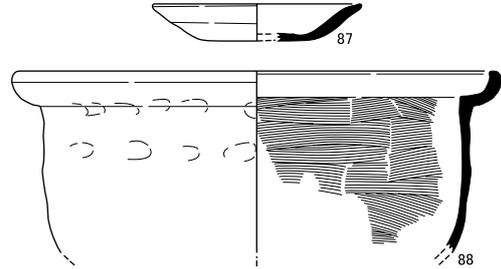
土坑1052



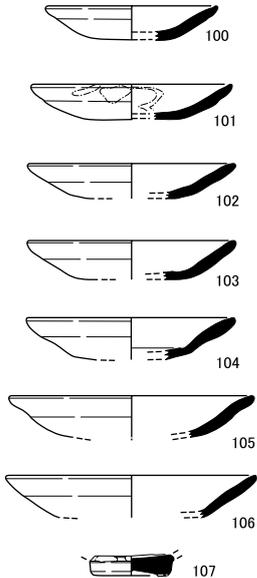
土坑138



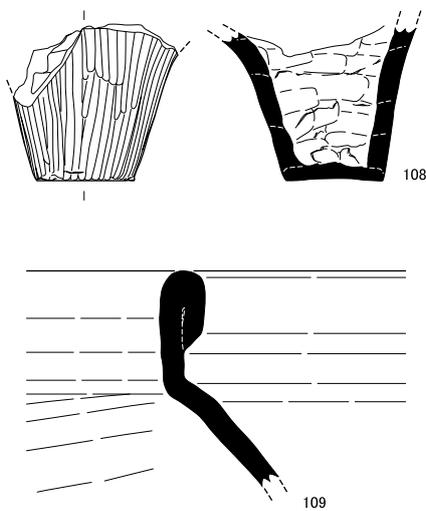
土坑1071



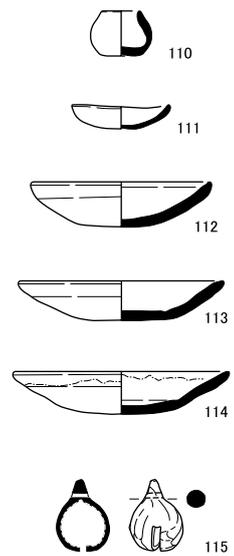
堀243



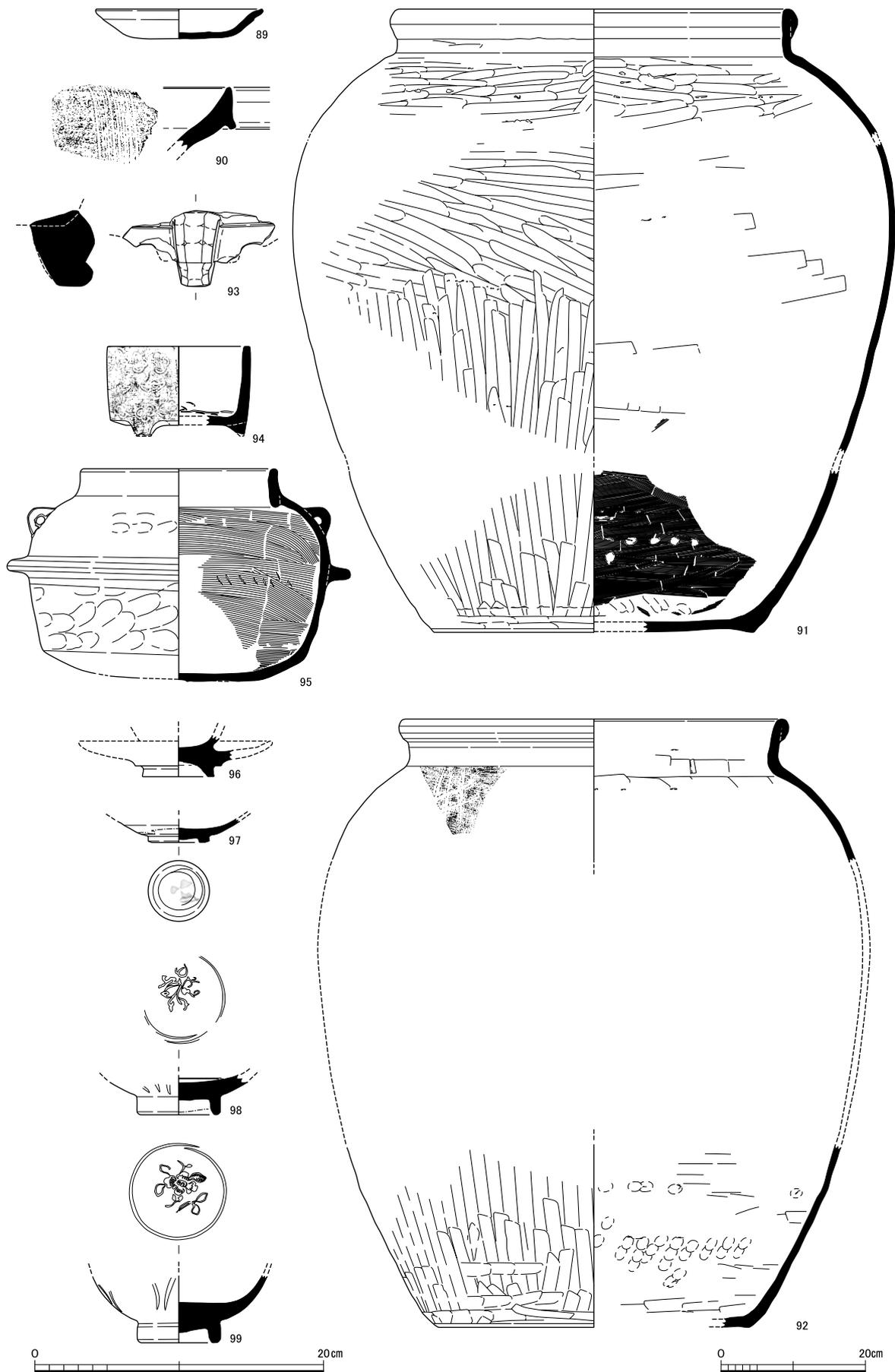
井戸196



土坑1011

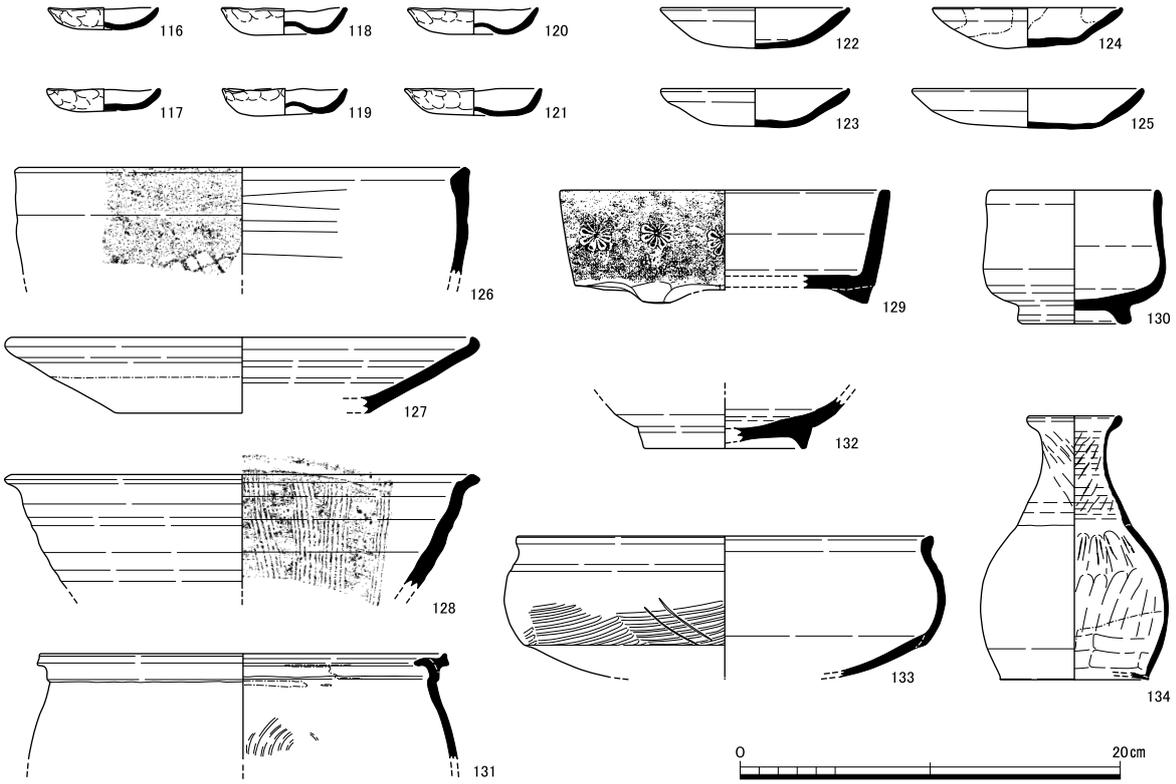


井戸240

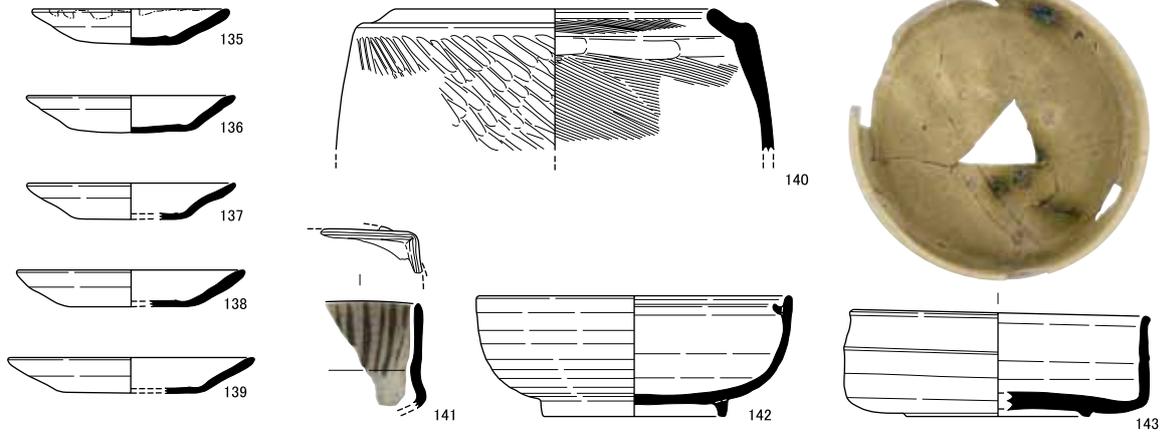


井戸240出土土器実測図（1：4、91・92は1：8）

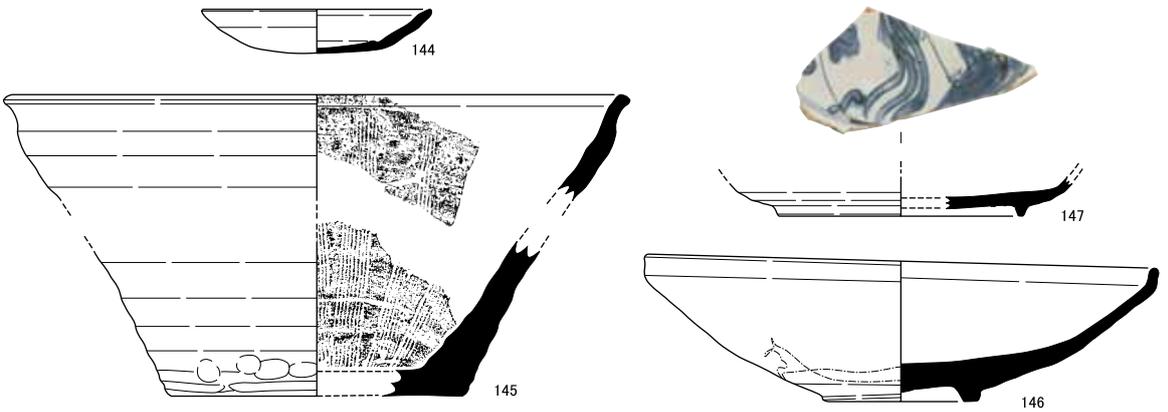
土坑167



土坑185

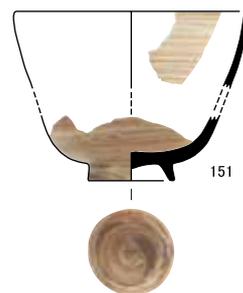
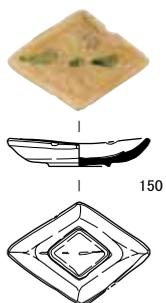
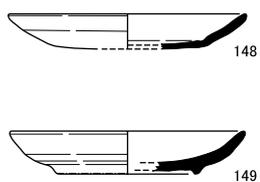


土坑1029

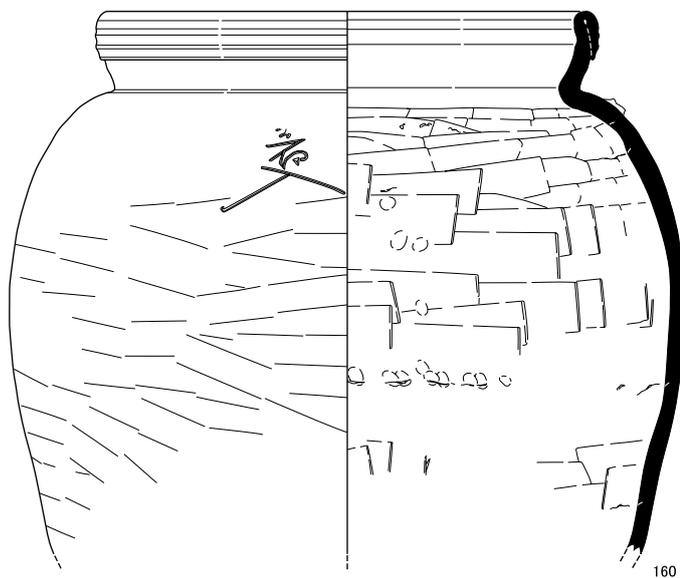
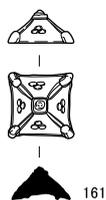
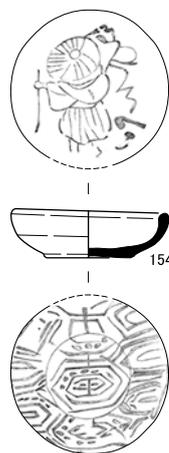
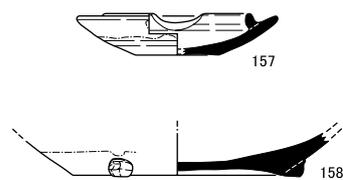
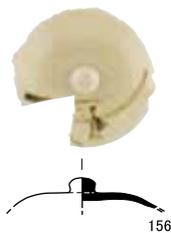
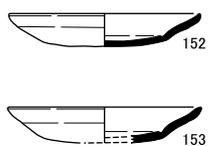


土坑167・185・1029出土土器実測図(1:4)

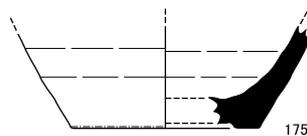
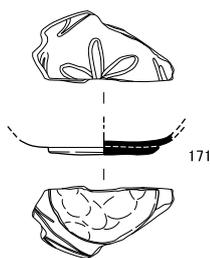
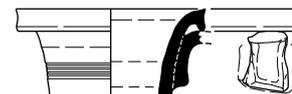
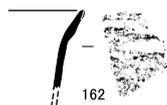
井戸174



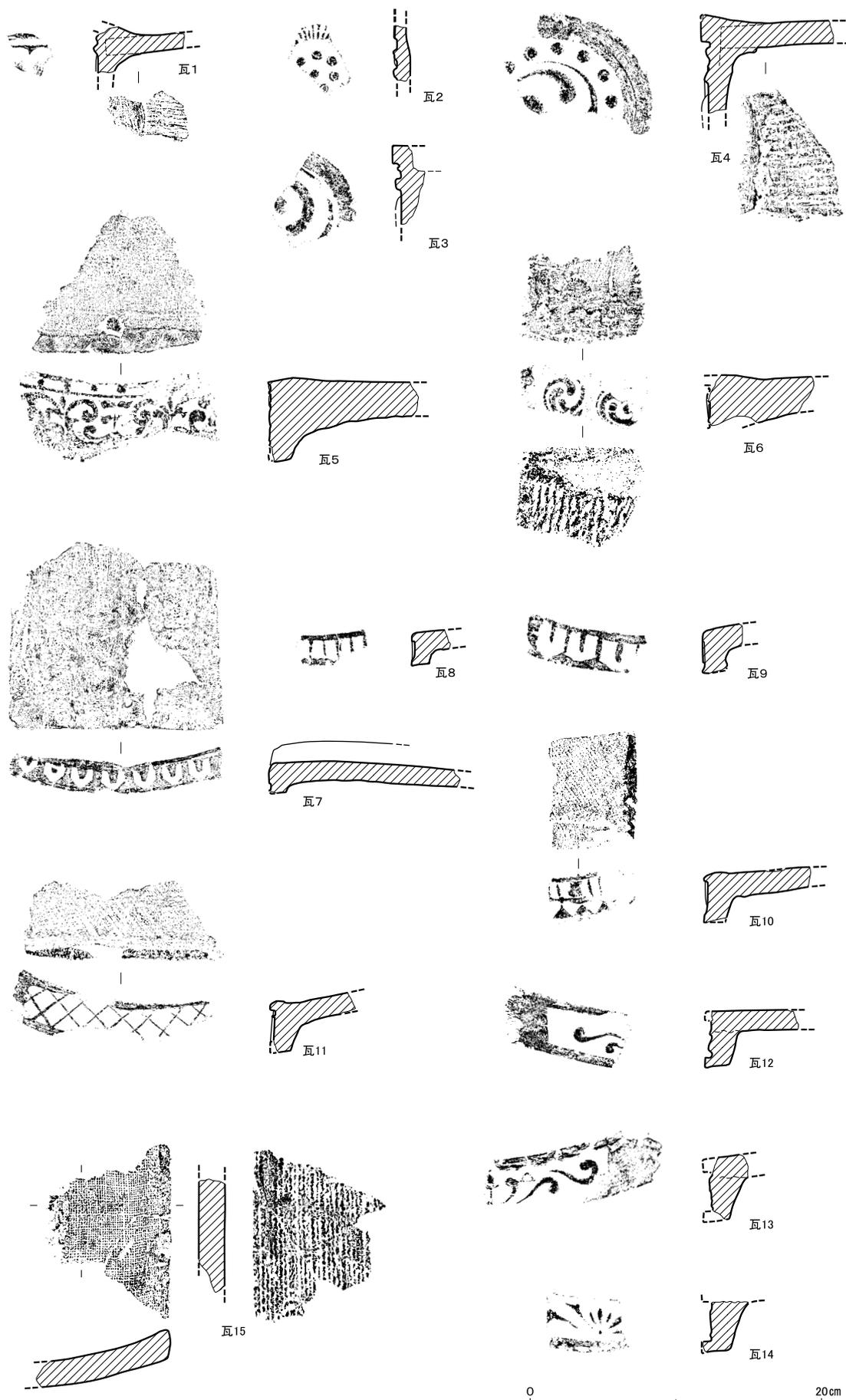
埋甕1002



その他の遺構



井戸174、埋甕1002、その他の遺構出土土器・土製品実測図（1：4、160は1：8）



出土瓦拓影及び実測図 (1 : 4)



1 1区第4面全景（西から）



2 溝153・171（北から）



1 1区第3面全景（西から）



2 井戸240（北西から）



3 土坑138（南から）



1 堀243 (東から)



2 井戸196 (北から)



1 1区第2面全景（西から）



2 土坑185（南から）



1 建物1 (北から)



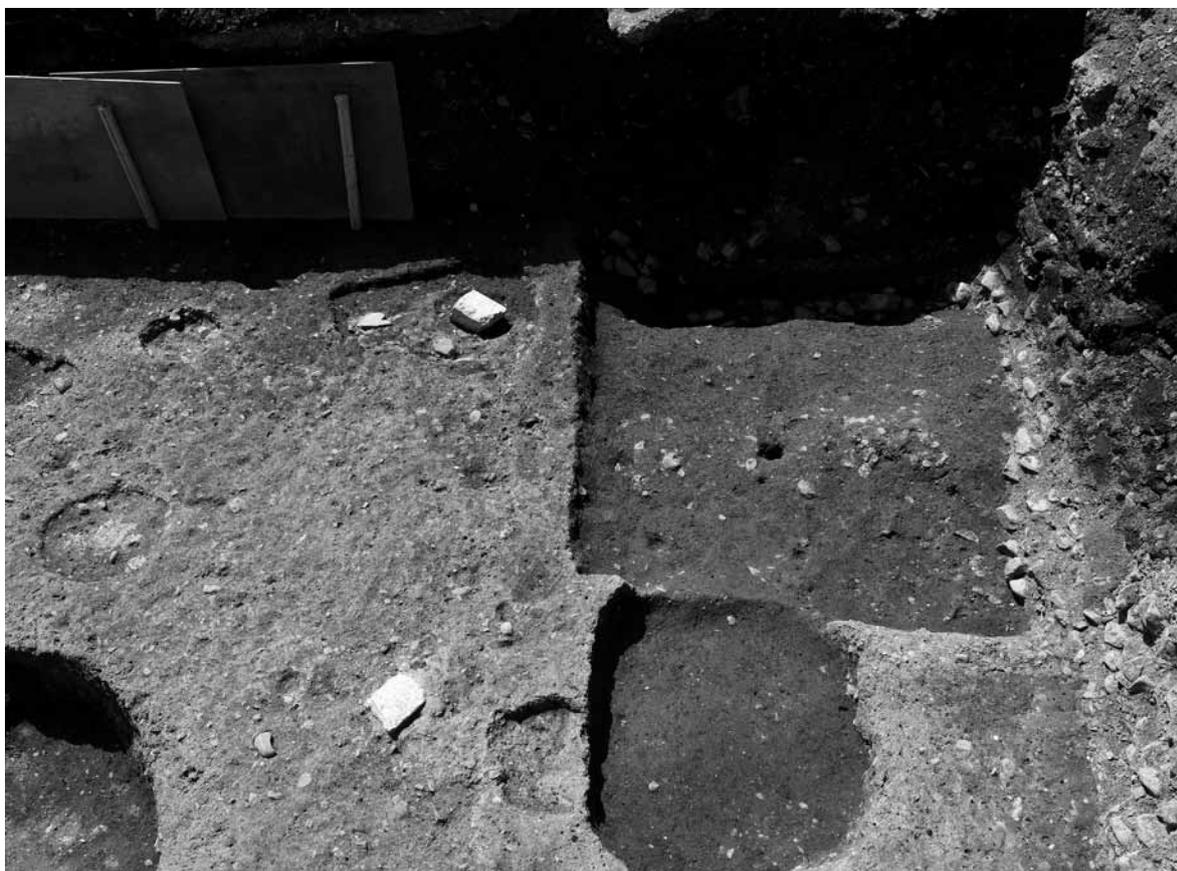
2 礎石列2 (北から)



3 柱穴120 (北から)



1 1区第1面全景（西から）



2 礎石列1、整地層77（北から）



1 2区第3面全景（北から）



2 溝1148（西から）



1 2区第2面全景（北から）



2 2区第1面全景（北から）



1 土坑1011 (西から)



2 土坑1029 (北から)



3 礎石列3 (北から)



4 埋甕1002 (西から)



1 石室1001 (西から)



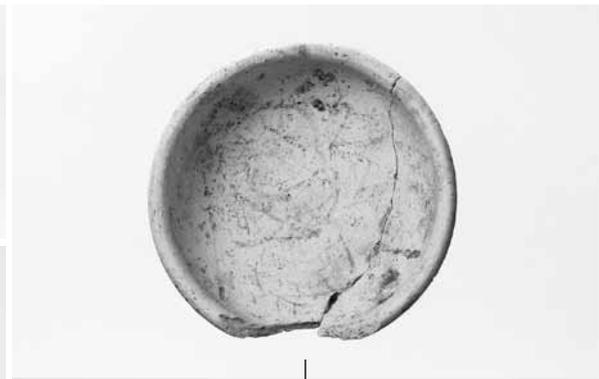
2 炉1049 (南西から)



土器類 1









瓦3



瓦4



瓦6



瓦10



瓦7



瓦13



瓦11



石1

石2



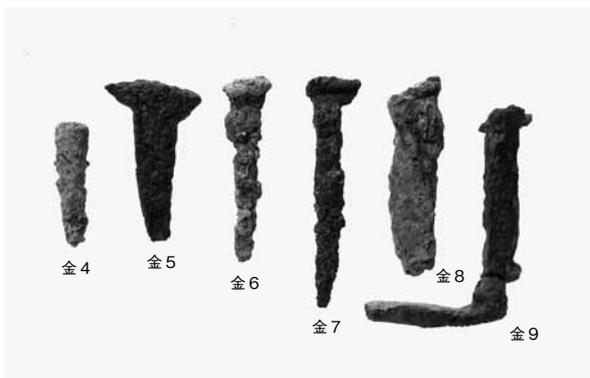
金1



金2



金3



金4

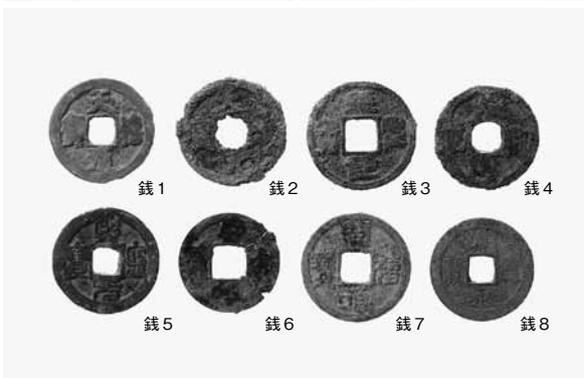
金5

金6

金7

金8

金9



錢1

錢2

錢3

錢4

錢5

錢6

錢7

錢8

報告書抄録

ふりがな	へいあんきょうさきょういちじょうさんぼうじゅういっちょうあと・きゅうにじょうじょうあと							
書名	平安京左京一条三坊十一町跡・旧二条城跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2023-3							
編著者名	渡邊都季哉							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2024年2月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡	きょうとしかみぎようく 京都市上京区	26100	1	35度 01分 14秒	135度 45分 31秒	2023年3月 27日～2023 年6月30日	282㎡	共同住宅 建設工事
きゅうにじょうじょうあと 旧二条城跡	からすまどおりでみずさが 烏丸通出水下る おうかくえんちよう 桜鶴円町380番2、 かでのこうじちよう 勘解由小路町 163番1		243					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡	都城跡	平安時代	溝、土坑	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、白色土器、輸入陶磁器、瓦類		旧二条城跡の堀と考えられる遺構を検出した。		
旧二条城跡	平城跡	室町時代	井戸、土坑、礎石列	土師器、瓦質土器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、金属製品				
		安土桃山時代	井戸、堀	土師器、瓦質土器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、石製品、金属製品				
		江戸時代	柱穴、井戸、土坑、礎石列、建物、炉、石室、埋甕	土師器、土師質土器、瓦質土器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、土製品、瓦類、石製品、金属製品				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2023-3
平安京左京一条三坊十一町跡・旧二条城跡

発行日 2024年2月29日

編集行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市上京区七本松通下長者町下る三番町273番
〒602-8358 TEL 075-467-5151